

K2-05

研究報告書第10号

保存資料

性教育に関する研究

山形県教育センター

1979・3

山形県教育センター

昭和54年3月刊

性教育に関する研究(1)

山形県教育センター

目次

- I 研究の趣旨
- II 研究のねらい
- III 研究の計画と方法
 - 1 第一年次(昭和52年度)
 - 2 第二年次(昭和53年度)
 - 3 第三年次(昭和54年度)
- IV 性教育についての基本的な考え
 - 1 意義
 - 2 目標
 - 3 指導分野
- V 小・中・高等学校における性教育の実態
 - 1 性教育の実施状況
 - 2 性に関する児童・生徒の問題行動と被害
 - 3 指導上の問題点
 - 4 今後の取り組み方
- VI 性に関する児童・生徒の意識と行動
 - 1 小学生
 - 2 中学生
 - 3 高校生
- VII 今後の課題
 - 1 計画的指導の必要性
 - 2 指導態勢の確立
 - 3 教師の意識の変革
 - 4 児童・生徒の実態に即した指導
 - 5 個別指導の充実

研究の概要

1 研究の趣旨

最近の児童・生徒の早熟傾向と性情報のはん濫を反映し、本県の小・中・高等学校の80%以上の教員は、性教育充実の必要性を認めている。しかし、カリキュラムにおける位置づけが明確でないこともあって、「何をどう教えたらよいかわからない」という教員は少なくない。本研究は、これに応えるため、これまでの各学校の指導のあり方に検討を加え、児童・生徒の性についての実態に即応した指導内容や指導方法を究明しようとするものである。三年継続研究の第二年度に当たる本年は、小・中・高等学校における指導の実態及び性についての児童・生徒の意識と行動の調査をまとめ、指導内容や指導方法究明の基礎資料とする。

2 調査結果の概要

- 性教育の計画的実施校（以下実施校という）は小・中・高等学校全体で54%に達しているが、計画に基づき指導している教員は17%にすぎず、指導分野も生理面に偏している。
- 実施校の90%以上は、今後「より一層の充実をはかりたい」・「これまで通りの指導を続けたい」と実施の意義を認め、未実施校と比べ積極的な姿勢を示している。また、高等学校における性の問題行動の発生率は、実施校ほど低い。
- 指導上の問題として、多くの教員は「指導内容や指導方法の不明」をあげているが、これは研修の機会も少なく、図書をはじめとする教材教具の不足が目立つことから、指導態勢にかかわる問題と言えよう。
- 大部分の中・高校生は、男女交際は自由であると考えており、交際相手として男女とも中学生は自校生、高校生は他校生を選ぶ傾向にあり、女子は中・高校生とも年長者志向である。とくに高校生男子の場合、他校生と交際しているものは、性行動の体験率も高い。
- 性についての悩みで多いのは、男子では性器、マスターベーション、女子ではメンス、乳房の発達で、中学生では男子が10人に1人、女子4人に1人の割合となり、高校生では男女とも4～5人に1人の割合にのぼる。その相談相手の大部分は友人・先輩である。
- 性被害については、「抱きつかれた」・「胸やしりをさわられた」といった類が多く、小学生では同級生のいたずらのなものであるが、中・高校生では加害者におとなのしめる割合が大きい。高校女子の被害者には、交際に積極的で、自己防衛意識に甘さがあるものが多い。
- 性知識の情報源は、週刊誌と友人に集中し、性的刺激を男子は「ヌード写真」など視覚から、女子は「小説や記事」など文字から受ける傾向にある。
- 性教育といえは性の生理教育という意識が教員を支配しているが、中・高校生の発達段階では、男女交際や性病などへの関心も高まり、教員と生徒との間に意識のずれが生じている。

3 今後の課題

性教育を充実するには、従来の性教育即生理教育と考える意識を変え、個別指導をも重視した指導態勢を確立し、児童・生徒の実態に即した内容を計画的・系統的に指導する必要がある。

は し が き

このところ、性をめぐる論議がさかんである。性をタブー視することは、人間性の抑圧につながるもので、これを一切廃棄すべきだとして、フリーセックスに全面的な価値を認める考え方が提唱されたり、「未婚の母」問題で提示されたような性の解放が主張されたりして世人の耳目を集めている。もっとも、これらの思想は、多数の人びとの同意を得ているとは思われず、またそれを支える社会的条件もそろっているとは考えられない。

長い間、性は秘事とみなされ、それにふれないことが美德とされてきたのであるが、急激な社会の変化とともに、性に対する価値観も変わりつつあるのは確かである。

性犯罪や性非行が毎日のように新聞紙面ににぎわしているし、これらの事件の主役が児童・生徒であったりするのも決してまれでない。一方でマスコミは、性に関する表現の枠を限りなく広げつつあるように思えてならないし、それによる強い刺激は、いたずらに児童・生徒の性的欲望や感情をこわらせていると考えられる。このような状況から判断して、これまでの性教育のあり方に再検討が迫られていると言えないだろうか。

本研究は、従来の生理的性教育を評価しつつもさらにその枠を広げて、性は人間生活と深くかかわっているという認識に立ち、人間教育の一環として性教育を位置づけようとする試みである。

たとえば、性被害防止の心構えを教えることは大切なことにちがいないが、性加害者を出さないような教育こそ重視していかなければならないと考える。このように性教育は、人格教育あるいは広く人間教育に裏打ちされたものでなければならぬのであり、社会生活や家庭生活での性のあり方を考えさせ、正しい異性観や愛情を育てるものでなければならぬと考える。

本報告書は、これまで実施してきた性に関するアンケート調査をまとめたもので、これから研究を進める上でのいわば中間資料にあたる。本県における性教育の実施状況や小・中・高等学校児童・生徒の性に関する意識や行動の概略をつかむことができるであろう。関係各方面それぞれの立場で大いに活用されることを希望するものである。

最後に、アンケート調査の実施に際し御協力くださった各学校の関係者に対して、深く感謝申し上げる次第である。

昭和54年3月

山形県教育センター所長 石井 榮 助

担 当 者

指導主事	佐々木	亮
〃	菅野	敏直
〃	吉野	佐和子
〃	渡辺	賀三
〃	江目	則男
〃	秋山	将博

目 次

I 研究の趣旨	1
II 研究のねらい	2
III 研究の計画と方法	2
1 第一年次(昭和52年度)	3
2 第二年次(昭和53年度)	5
3 第三年次(昭和54年度)	5
IV 性教育についての基本的な考え	5
1 意義	6
2 目標	6
3 指導分野	7
V 小・中・高等学校における性教育の実態	7
1 性教育の実施状況	7
(1) 性教育の必要性	9
(2) 計画に基づく実施状況	11
(3) 性の問題についての質問・相談状況	13
2 性に関する児童・生徒の問題行動と被害	13
(1) 問題行動の内容と件数	15
(2) 性被害の内容と件数	18
3 指導上の問題点	18
(1) 性教育実施上の問題点	20
(2) 教材・教具の整備状況	21
(3) 「性教育の手引き」の利用状況	23
4 今後の取り組み方	25
VI 性に関する児童・生徒の意識と行動	25
1 小学生	25
(1) からだの変化	26
(2) からだに関する悩みと相談	27
(3) 性に関する情報	28
(4) メンスについての知識	30
(5) 男女交際	31
(6) 性被害	31
(7) 要約	32
2 中学生	32

(1) とくに親しい異性の友人	32
(2) 男女交際の心構えと学習への影響	33
(3) 1対1の男女交際に対する賛否と交際限度	34
(4) 性描写やヌードなどにふれる機会	35
(5) 性に関する不安や悩みの有無とその種類	36
(6) 精通, メンスの有無と開始時期	37
(7) 性的興奮の刺激要因とその処理	38
(8) 性行動の体験	40
(9) 性知識の多寡意識と性についての情報源	41
(10) 性被害の実態と被害防止の心構え	44
(11) 要約	46
3 高校生	47
(1) 男女交際の相手と心構え	47
(2) 男女交際の限度	48
(3) マスコミの性情報	50
(4) 性に関する悩みや不安	50
(5) 男女の性生理	52
① 成熟について	52
② 性欲について	53
③ 性的な刺激源	53
④ 性行動について	54
(6) 純潔	56
① 純潔についての解釈	56
② 純潔観	56
(7) 性知識	57
(8) 性被害	59
(9) 性被害の防止	59
(10) 男女の特性	60
(11) 要約	61
VII 今後の課題	62
1 計画的指導の必要性	62
2 指導態勢の確立	62
3 教師の意識の変革	63
4 児童・生徒の実態に即した指導	64
5 個別指導の充実	65
o 付 属 資 料	66

I 研究の趣旨

最近の児童・生徒の体位の向上はめざましく、それにつれて性的成熟は加速化し、年々低年齢化している。他方では、商業主義的マスコミによる興味本位的な性情報がはん濫し、家庭生活にまで浸透して、児童・生徒の性的好奇心をいたずらに刺激している。大人の社会においても、急激な性開放の風潮と価値観の変化にとまどい、児童・生徒に対する明確な指導理念を見出しているとは言えない。

このような社会生活環境は児童・生徒の性意識や性知識をゆがめ、性に関する問題行動の増加を助長し、性教育のあり方が問われるにいたっている。

昭和48年に行われた山形県教育委員会の調査によると、県下小・中・高等学校の80%以上の教員は、「学校や家庭でもっと性教育を充実すべきである」という意向を示し、51%がその理由として「性は人間の基本的なものであり、人間形成上必要である」ことをあげ、20%が「早熟の傾向があらわれているのに指導が充分なされていない」と指摘している。(山形県教育委員会「性教育の手引き」)

今必要とされている性教育とは、人間の性についての科学的知識の習得にとどまらず、美しい心情や高い価値観を育み、健全な意識や判断力を養い、児童・生徒ののぞましい人格の形成をめざす人間教育そのものであると言われている。

本県の教員の多くは、この考え方を理解し、性教育をより一層充実させる必要性を認めているようであるが、計画的組織的に実施している学校はどれだけあるだろうか。実際は「何をどう教えてよいかわからない」とか「児童・生徒の実態がわからない」という声が多く、本県の性教育は地についているとは言いがたいのである。

こうした声に応えるには、性についての児童・生徒の実態を明らかにし、それに即し、実践に役立つ指導内容や指導方法を提示することではないかと思われる。

本研究は、この趣旨のもとに、県下小・中・高等学校の指導の実態と性についての児童・生徒の意識と行動の特徴を明らかにし、今後の課題を探り、それに基づいた指導内容や指導方法を究明しようとするものである。

II 研究のねらい

性に限らず、生活事象に対する児童・生徒の意識や興味は、社会風潮を鋭敏に反映し、きわめて流動的であるが、これに対する指導は固定的・受動的になりがちである。これまでの各学校での性教育は、児童・生徒の実態に対応していたのであろうか。

本研究は、三年連続として、第一年次と第二年次では小・中・高等学校における性教育の実態と性についての児童・生徒の意識と行動を調査し、第三年次の研究のための基礎資料を得る。

第三年次は以上の諸調査の結果をもとにして、小・中・高等学校の指導内容や指導方法を究明する。

III 研究の計画と方法

1 第一年次(昭和52年度)

これまで、小・中・高等学校で行われている性教育の実態を検討するため、次のような調査を実施した。

(1) 学校における指導の実態調査

① 調査の視点

- (a) 性教育の実施状況
- (b) 性教育の実施にともなう問題点
- (c) 児童・生徒の性に関する問題行動と被害
- (d) 今後の取り組み方

② 調査対象

市町村立小・中学校全校、県立高等学校全校。分校は調査対象から除いたが、高等学校については、左沢高等学校朝日分校、寒河江高等学校西川分校及び新庄農業高等学校向町分校の三校を調査対象とした。

〈表1〉 調査対象学校数

校 種	対 象 数	回 収 率	有効回答数	有効回答率
小 学 校	351	93.8%	331	93.8%
中 学 校	157	93.6	147	93.6
高 等 学 校	70	95.7	67	95.7
全 日 制	56	98.2	55	98.2
定 時 制	14	85.7	12	85.7
合 計	578	94.3	545	94.3

(対象数は昭和52年度の校数による)

③ 調査期間

昭和52年11月4日～11月25日

④ 調査方法

この調査は、無記名の質問紙法(選択肢法に一部記述法を加えた)により、各学校の校長・教頭・生徒指導主事・保健主事・養護教諭のいずれか1名に回答を依頼した。

(2) 教員の意識調査

① 調査の視点

- (7) 性教育の必要性とその理由
- (8) 指導経験の有無と指導状況
- (9) 指導上の問題点

② 調査対象

対象は、市町村立小・中学校、県立高等学校から校種ごとに教員の構成比にしたがい、校長・教頭・教諭・養護教諭合わせて2,020名を無作為に抽出した。この抽出にあたっては標本誤差±3.5%、信頼度95%、回収率90%と見積りサンプル数を決定した。

〈表2〉 調査対象教員数

教 員	抽出人数	回収率	有効回答数	有効回答率
小 学 校	710人	92.4%	656	92.4%
中 学 校	665	95.3	634	95.3
高 等 学 校	645	93.8	605	93.8
合 計	2,020	93.8	1,895	93.8

(母集団の教員数については、昭和52年度の教員数にもとづく)

③ 調査期間

昭和52年11月4日～11月25日

④ 調査方法

この調査は無記名の質問紙法(選択技法に一部記述法を加えた)により実施した。

2. 第二年次(昭和53年度)

性についての児童・生徒の意識と行動の特徴をは握するため、次のような調査を行い、第一年次の結果と合わせて中間報告書として公にする。

(1) 調査の視点

① 小 学 校

- (7) からだや身のまわりを清潔にする生活習慣と心がけ
- (8) 自己のからだの変化、成長の個人差、男女差についての理解
- (9) 男女交際の実態
- (10) 性知識の情報源
- (11) 性に関する問題行動と被害

② 中 学 校

- (7) 男女交際の実態
- (8) 性知識の程度とその情報源

- (9) 成熟についての自己理解と悩みや不安

- (10) 性行動の体験と被害

③ 高等学校

- (7) 男女交際の実態

- (8) 性知識の程度とその情報源

- (9) 性に関する悩みや不安

- (10) 性行動の体験と被害

- (11) 純潔とその価値判断

(2) 調査対象

調査対象は市町村立小・中学校と県立高等学校の児童・生徒合わせて3,250名とした。小・中学校の児童・生徒については、各教育事務所単位に小学校16校、中学校26校を無作為に抽出し、各校から小学校は5・6年各1クラスずつ、中学校は2年1クラスを選んだ。高等学校の生徒については、学科別在籍生徒構成比と男女の比率及び地域を配慮して、25校を抽出し、各校から2年1クラスを選んだ。この抽出にあたっては、標本誤差±3.5%、信頼度95%、回収率93%と見積りサンプル数を決定した。

〈表3〉 調査対象児童・生徒数

児童・生徒	抽出人数	回収率	有効回答数		有効回答率	
			性 別	小 計		
小 学 校	1,100人	96.8%	男	556	1,065	96.8%
			女	509		
中 学 校	1,080	96.4	男	539	1,041	96.4
			女	502		
高 等 学 校	1,070	97.9	男	506	1,048	97.9
			女	542		
合 計	3,250	97.0	男	1,601	3,154	97.0
			女	1,553		

(小学校児童の学年別数は、5年512名、6年553名である)

(3) 調査期間

昭和53年10月7日～10月25日

この調査は無記名の質問紙法（選択技法に一部記述法を加えた）により、クラスごとに教員の指示のもとに実施した。

3. 第三年次（昭和54年度）

第三年次の研究については、第一・二年次の調査研究の結果に基づき、次のような計画のもとに行う。この計画を進めるに当たっては、小・中・高等学校へ各々研究協力者を委嘱する。

- (ア) 校種ごとの指導目標、指導内容及び指導方法の究明
- (イ) 指導計画、指導案の作成
- (ウ) 授業を通しての検証
- (エ) 事例研究

IV 性教育についての基本的な考え

ここでは、性教育の意義、目標及び指導分野について研究者の基本的な考えを端的に示し、調査結果を考察する際の視点としたい。

1. 意義

性を大人の特権として、子どもの世界から締め出すことができた時代においては、「性は自然に目ざめるもの、寝ている子を起ささないほうがよい」という意見が支配的であった。今でも「自分の子どものころには、性教育を受けなかったが、格別支障はなかった。特に指導しなくともよいのではないか」という性教育不要論は、あとをたたない。しかし、こういうひとたちは、果して自己の性についてなんらの悩みや不安も抱かないまま、矛盾なく解決してきたのであろうか。

性教育の必要性を認めている人びとのなかでも、とらえ方かなりの差がみられる。もっとも一般的なのは性の生理教育というとらえ方で、もっぱら身体の成長・成熟や生殖など人間の性の生理面だけの指導に限ってしまう場合である。また、狭い純潔教育や被害防止教育に終始している例もみられ、一口に性教育といってもきわめて多様なのである。

ここでは、人間の性の特質をよりどころにして、情報化社会における性教育の意義について簡単にふれてみたい。

言うまでもなく、人間の性意識や性行動は、その時の文化や社会環境によって大きく形成される。現代の児童・生徒は必要の如何にかかわらず、性について「人為的に目ざめさせられる時代」に育っている。著しい体位の向上に加えて、マスコミより送りこまれる興味本位の性情報に接し、本能の目ざめは加速化され、性的好奇心が刺激されている。

情報は常に知識の段階でとどまっているとは限らず、個人の意識や行動を変える力をもっている。

現代社会における性情報の洪水に対処するには、それ相当の精神の成長が不可欠である。心身の発達アンバランスな児童・生徒が、このまま性情報のはん濫のなかに放置されれば、たちまちマスコミの性のとりこととなり、人間的な性をそう失することは必至であろう。したがって、好ましくない情報を判断し、みずから排除する健全な精神と強固な意志を育む指導は、性教育に限らず重要なのである。

人間の性は、他の動物のそれと異なり本能的要素に基盤をおきながらも、理性、意志や情操などの精神の諸作用と深く結びつき、これらの働きによってもっとも人間らしくなる。人間の性にとって、成育環境や学習が重要な意味をもつのは、この可塑性のためである。性教育とは、生活体験や学習などを通して本能的な性に対する精神の諸作用を高め、人間にふさわしい性を培おうとするものとも言える。

このように現代の情報化社会における性教育は、精神の諸作用を高める人格教育であり、性についての豊かな心情や望ましい行動を育む過程を通して人格の形成をめざそうとするものである。

2. 目標

前述の性教育の意義にしたがい、学校における性教育の総括的目標を示せば以下のごとくであろう。

児童・生徒が性についての科学的生理的な知識を身につけ、性についての豊かで美しい心情を培い、自制力を育み、ひいては自他の幸福をめざす高い価値観を確立することである。

このような目標を達成するには、単に性に関する知識や道徳などを理解させるだけでなく、児童・生徒が自分の生き方の問題として性を考えるような指導が肝要であろう。

3. 指導分野

性教育は人間教育そのものであり、児童・生徒の人格の総体にかかわるものであるから、その指導分野は生理・生物・心理及び社会の各分野に立脚していることが必要であると思われる。この多面的な内容を有機的に関連づけ、児童・生徒の発達段階に応じて体系的に組み立て、指導することが重要であろう。性教育を推進するにあたり、指導内容が特定分野に偏し、指導が散発的にならないようにするためにも、全体的な指導計画が不可欠となろう。

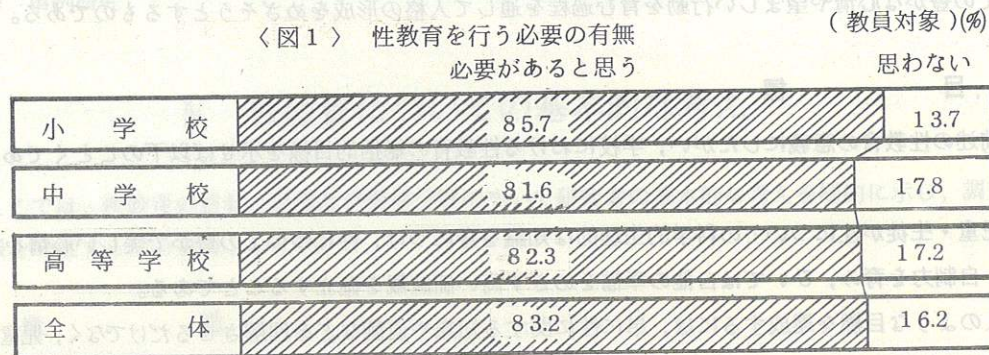
V 小・中・高等学校における性教育の実態

ここでは、これまで小・中・高等学校で行われてきた性教育の実態を、実施状況、児童・生徒の問題行動や被害、指導上の問題点、今後の取り組み方などにしぼって考察し、今後の課題を探ろうとするものである。なお、便宜上指導計画に基づいて実施している学校を実施校、指導計画のない学校を未実施校と呼ぶことにする。

1 性教育の実施状況

(1) 性教育の必要性

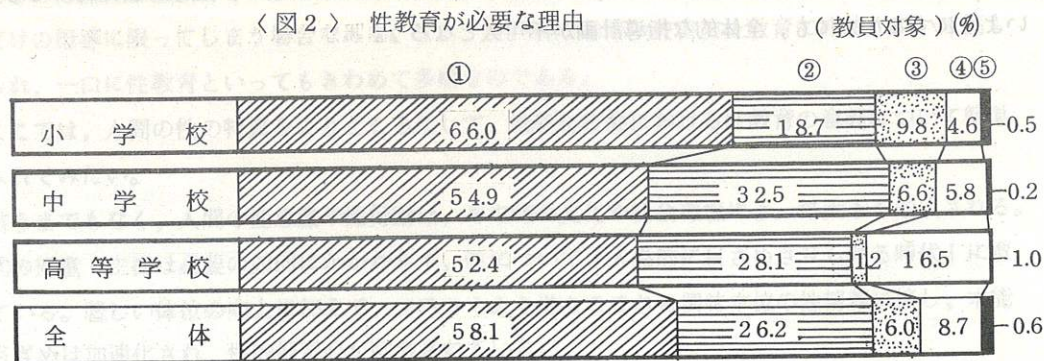
学校で性教育を行う必要があるかどうかに対する回答は、図1のようである。



(※ 無答は省略、以下の図も同じ)

図からわかるように、小・中・高等学校いずれの教員も80%以上が性教育の必要性を認めており、性教育に対して積極的な考えをもっていることがうかがえる。校種間を比べると小学校教員の割合が中・高等学校教員よりやや多くなっている。

次に、性教育の必要性を認めている教員が、その理由としてあげた回答をまとめると図2のようになる。



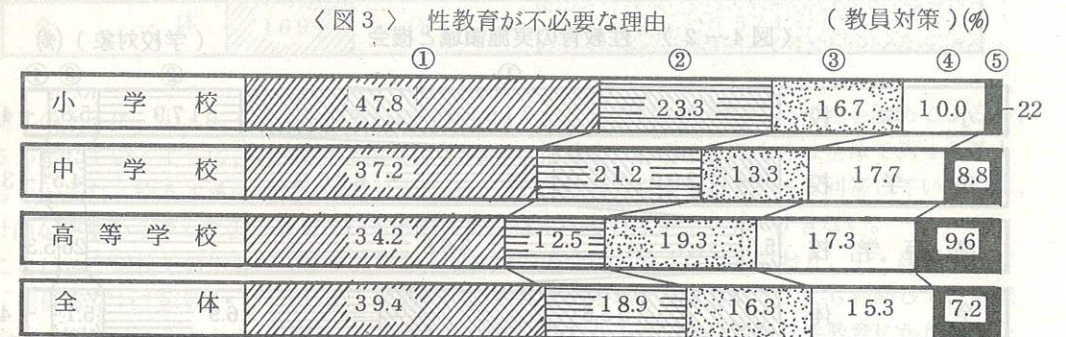
- ① 性教育は人間の健全な成長を促すのに必要だから
- ② 不良出版物等により、性知識にゆがみが見られるから
- ③ 児童・生徒の早熟化傾向が著しいから
- ④ 性に関する問題行動が増加しているから
- ⑤ その他

性教育を行う必要がある理由として、各学校の教員とも50%以上が「性教育は人間の健全な成長を促すのに必要だから」をあげている。これに次いで「不良出版物等により、性知識のゆがみが見られるから」と回答しているが、中学校教員の割合が小・高等学校教員に比較して大きくなっている。これは、発達段階からみて、中学生の性意識が強まり、成人を対象とした興味本位の性情報にも関心をもちはじめ、その影響をうけ、性的好奇心が誘発されやすい時期であると判断したためであろう。

したがって、中学校の性教育においては、とくに適切に性情報を選択し、これに正しく対処できる態度の育成に配慮する必要があると思われる。

また、高等学校では小・中学校に比較して「性に関する問題行動の増加」をあげている割合が多くなっているが、「不純異性交遊」や「売春」などの問題行動が多くみられるようになり、その対策に苦慮しているためであろう。

図3は性教育は不必要であると考えている教員が、その理由としてあげた回答をまとめたものである。



小学校 91人 中学校 113人 高等学校 104人

- ① もともと家庭で指導すべきものであるから
- ② 指導することでかえって寝ている子を起すような結果になるから
- ③ これまでの学校の指導で充分であるから
- ④ 特別に指導しなくとも健全に育っていくから
- ⑤ その他

性教育が不必要である理由として、小・中・高等学校いずれの教員も、「もともと家庭で指導すべきものであるから」をもっとも多くあげている。

たしかに、性教育については、家庭にも責任があり、内容によっては家庭で行ったほうがより効果的であるものも少なくないだろう。しかし、現在の児童・生徒をとりまく環境や家庭が果している教育機能等からみて、家庭のみでは適切な性教育を行うことは困難であり、学校と家庭がその役割を明確にし、密接な連携のもとに指導してこそ、はじめて成果が期待できるものと考えられる。

(2) 計画に基づく実施状況

実施校と未実施校の割合をみると、図4-1のようになっている。

これからわかるように、実施校は小・高等学校では約60%を占めているのに対して、中学校の場合は約46%と低くなっている。

図4-2は実施校の指導領域と機会についての回答をまとめたものであるが、これから明らかのように小学校においては「長期休業や修学旅行の機会に」指導しているという回答の割合が約72%と最も多くなっており、指導内容としては「からだのしくみと生理」・「男女の特性と役割」が中心となっている。これに対して、中・高等学校では「教科、道徳、および特別活動を通して」という回答が大きな割合を占めており、とくに高等学校の場合は約90%にも達している。

〈図4-1〉 性教育の実施校と未実施校 (学校対象)(%)

	実施校	未実施校
小学校	57.5	42.5
中学校	45.5	54.5
高等学校	56.8	43.2
全体	54.2	45.8

〈図4-2〉 性教育の実施領域と機会 (学校対象)(%)

	①	②	③	④
小学校	71.6	17.9	5.8	4.7
中学校	29.9	62.6	4.5	3.0
高等学校	5.3	86.8	2.6	5.3
全体	53.6	36.9	5.1	4.4

- ① 長期休業や修学旅行の機会に指導している。
- ② 教科、道徳、および特別活動を通して指導している。
- ③ 放課後などを利用し、相談に応じている。
- ④ 性教育の時間を特設して指導している。

表4は「教科、道徳、および特別活動」のどこで主に指導しているかを示したものである。

〈表4〉 性教育を実施している教科等 (学校対象)

教科等	校種	中学校	高等学校
社会		0%	9.1%
保健体育		95.2	97.0
理科		16.7	21.2
家庭		23.8	60.6
道徳		59.5	—
特別活動		69.0	48.5
その他		14.3	9.1

中学校 42校
高等学校 33校
(3項目選択)

これによると、中・高等学校とも「保健体育」がもっとも多く90%を超えており、次いで中学校では「特別活動」が約70%、高等学校は「家庭」が約60%となっている。これに対して、国語、芸術で指導している学校は全然みられず、社会は高等学校で約9%あるにすぎない。

こうした点からみて、現在行われている性教育は、心理面や社会面の指導に比して生理面に重点がおかれているように思われる。

なお、「教科、道徳、および特別活動」以外の領域で指導していると回答している、小・中学校については、主な指導者を見てみると、いずれも養護教諭がもっとも大きな割合を占めており、(小学校49%、中学校44%)次いで、小学校では学級担任、中学校においては保健体育担当教諭となっている。

それでは、どれだけの教員が計画的に指導しているのだろうか。

図5は計画的に指導しているかどうかという教員の指導状況を示したものである。

〈図5〉 指導状況 (教員対象)(%)

	計画があるからやった	計画はなかったがやった	やったことがない
小学校	18.0	27.0	53.9
中学校	15.6	25.9	57.1
高等学校	17.2	21.2	61.1
全体	16.9	24.7	57.4

前述のように、小・中・高等学校教員の80%以上が、学校での性教育の必要性を認めているが、図5が示しているように、計画の有無にかかわらず、指導したことがあるものは全体で約40%と少ない。また、約54%の学校が指導計画に基づいて、性教育を実施していると回答しているのに、「計画があるからやった」と答えている教員の割合は全体でわずか17%にすぎない。

これは、小学校での指導は「長期休業や修学旅行の機会に」多くなされており、中・高等学校では「保健体育」・「家庭」・「特別活動」において行われている場合が多いことから判断して、実際の指導は養護教諭やこれら特定教科の担当教諭の手にゆだねられ、他の教員は性教育にかかわりをもつことが比較的少ないためであると考えられる。したがって、計画に基づいて実施しているというものの、関係のある教科間で連携をとりながら、全体計画のもとに組織的・系統的に実施している学校は少ないのではないだろうか。

図6は計画がなかったにもかかわらず、実施した理由を示したものである。

〈図6〉 未計画校の実施理由 (教員対象)(%)

	①	②	③	④
小学校	36.7	26.0	7.3	23.2
中学校	48.2	32.3	8.5	10.4
高等学校	53.9	14.9	19.5	11.7

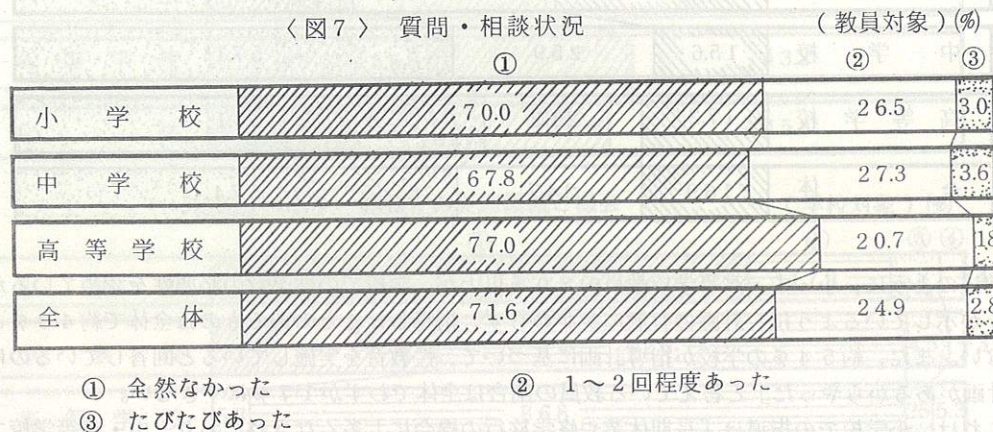
- ① 問題行動を防止するため
- ② 質問をうけたから
- ③ 問題行動がおきたから
- ④ その他

この図からわかるように、小・中・高等学校とも「問題行動を防止するため」という理由がもっとも多く、その割合は小・中・高等学校と進むにつれて多くなり、高等学校においては50%を超えている。また、「問題行動がおきたから」という回答の割合も高等学校は小・中学校に比較して大きい。

性教育を行う必要がある理由として、「人間の健全な成長を促すのに必要だから」と回答した教員が約60%でもっとも多かったが、実際には「問題行動を防ぐため」であったり、「問題行動がおきたから」という対症療法的な指導が多くなっており、とくに高等学校においては、その傾向が強いことがうかがわれる。

(3) 性の問題についての質問・相談状況

昭和51年度中に教師がうけた、性に関する質問や相談の状況をまとめたのが図7である。



〈表5〉 質問・相談の内容

内容	小学校	中学校	高等学校
1. からだのしくみや生理	89.7%	55.6%	41.2%
2. 男女交際	23.2	74.5	79.4
3. 性に関する問題行動	22.2	21.4	25.7
4. 妊娠・出産	10.8	7.7	11.0
5. 自慰	3.1	6.6	5.9
6. 性病	1.0	9.2	16.2
7. 性被害	0.5	3.1	5.1
8. 避妊	0.0	0.0	4.4
9. その他	4.1	4.1	5.1

(3項目選択)

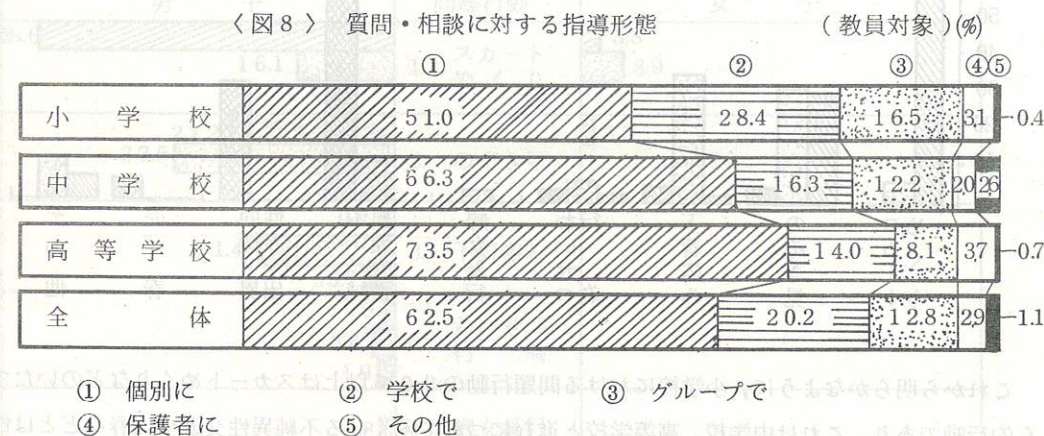
「教師が児童・生徒から性に関する質問や相談をうけることは極めて少ない」といわれているが、図8が示しているように、高等学校で約20%、小・中学校の場合は約30%の教員が質問や相談をうけている。しかし、たびたび質問や相談をうけたという割合は少なく、小・中・高等学校とも2～3%にすぎず、1～2回程度あったというのが大部分である。

次に、どんな質問や相談をうけたのか、その内容についてみると表5のようになり、小学校の場合「からだのしくみや生理」、中・高等学校では「男女交際」の割合がそれぞれもっとも多くなっている。

小学校の児童は特別な性感情をもたないために、自分のからだの変化や生理に関する疑問について卒直に教師と相談できることを示している。一方発達段階からみて、中・高等学校の生徒は異性に対する意識が強くなり、からだや生理に関することよりも、男女交際に関心がたかまってくるので、男女間の人間関係にかかわる質問や相談が多くなっているものと思われる。

したがって、性に関する疑問は児童・生徒の成長発達に伴って、どのように変化していくのかを充分には握し、それに対応できるような相談指導を組織的・計画的に行うことが必要であろう。

図8は質問や相談をうけた教員が、どんなかたちで指導したかを示したものである。



「個別に」という割合が、小・中・高等学校とももっとも大きく、とくに高等学校においては70%を超えているが、発達段階からみて当然のことであろう。

学校における性教育は、学級単位に(場合によっては男女別に)一斉に行われるのが一般的であると思われるが、内容によっては個別的な相談指導をも配慮することによって、より効果をあげることができると思われる。

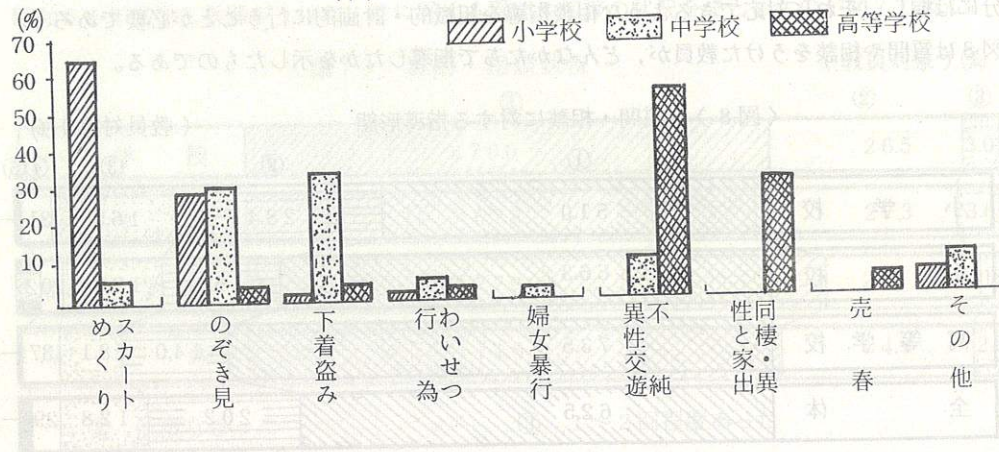
2 性に関する児童・生徒の問題行動と被害

(1) 問題行動の内容と件数

昭和 51 年度中に性に関する問題行動を起こした生徒がいると回答した学校は、小学校 40 校 (12.1%)、中学校 23 校 (15.6%)、高等学校 28 校 (41.8%) となっている。また問題行動の発生件数をみると、小学校 173 件、中学校 30 件、高等学校 43 件となっており、これを 1 校当たりの問題行動発生件数に換算すると、それぞれ、0.52 件、0.20 件、0.64 件となり、いずれも高等学校が一番大きい割合を示している。小学校の場合は、1 校当たりの発生件数が中学校の 2.5 倍になっているのが目立っている。そこで問題行動の内容と事後指導の面から、小・中・高等学校における問題行動の実態を探ってみる。

まず、問題行動総件数を内容別に比較すると図 9 のようになる。

〈図 9〉 問題行動の内訳

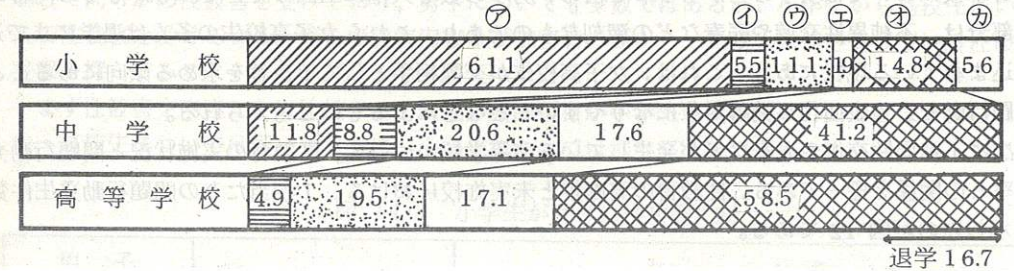


これから明らかなように、小学校における問題行動の 90% 以上はスカートめくりなどのいたずらの行動であり、これは中学校、高等学校と進むにつれて多くなる不純異性交遊や売春などは性格を異にしている。しかしながら、これらのいたずらの行動は性意識の芽ばえであり、ゆがんだ好奇心へと発展して問題行動につながる可能性をもつものと考えられる。すでに指導上の重要な段階に達していることを示唆している。

次に問題行動の事後指導について、主にだれが指導にあたったかを示したのが図 10 である。学級担任の指導だけで充分であった例が、小学校において全指導件数の 61.1% であるのに対し、中学校、高等学校ではそれぞれ 11.8%、0.0% と減少している。逆に、職員会議において指導法を決定しなければならなかった例が、小学校、中学校、高等学校の順に増加しており、高等学校においては退学の例が全指導件数の 16.7% にも及んでいる。

以上のことから、中学校、高等学校と進むにつれて問題が深刻化しているといえる。

〈図 10〉 主な指導者

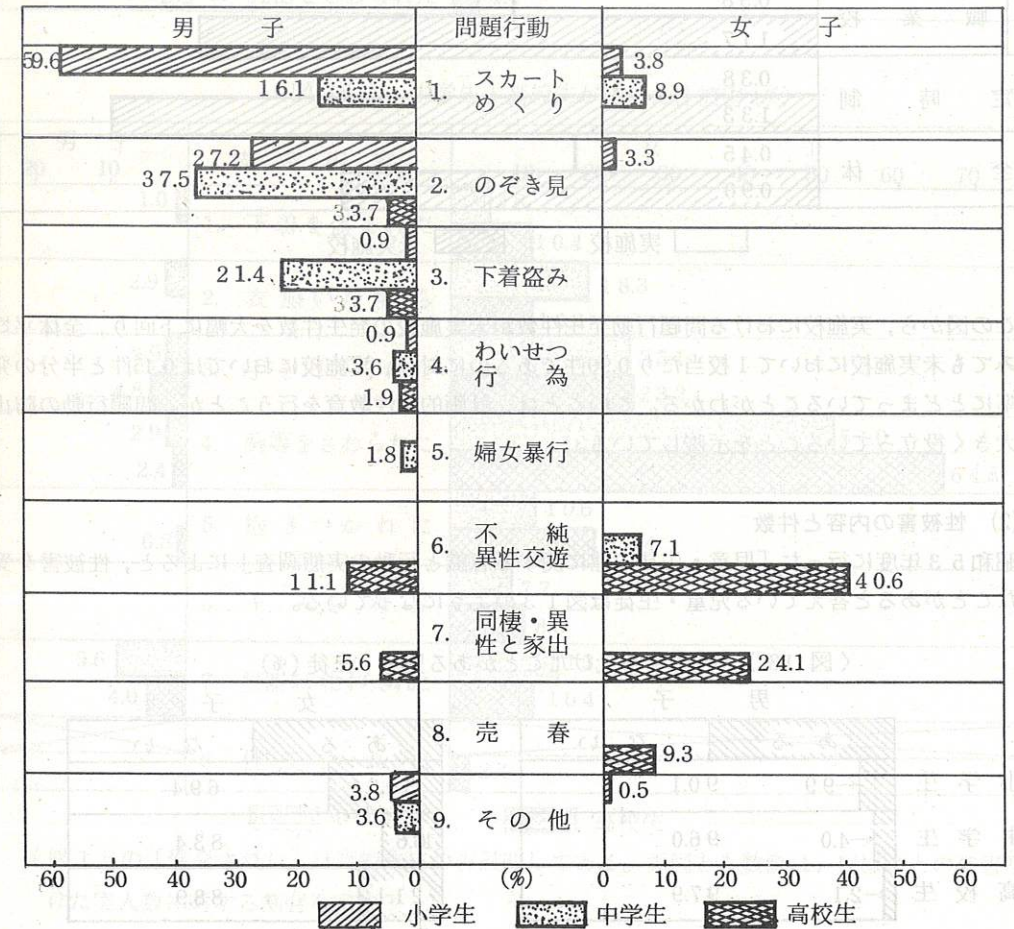


- ① 学級担任 ② 学年担任会 ③ 生徒指導担当者と学級担任
④ 管理職と学級担任 ⑤ 職員会議(全職員) ⑥ その他

(数値は校種ごとの全指導件数に対する割合を示す)

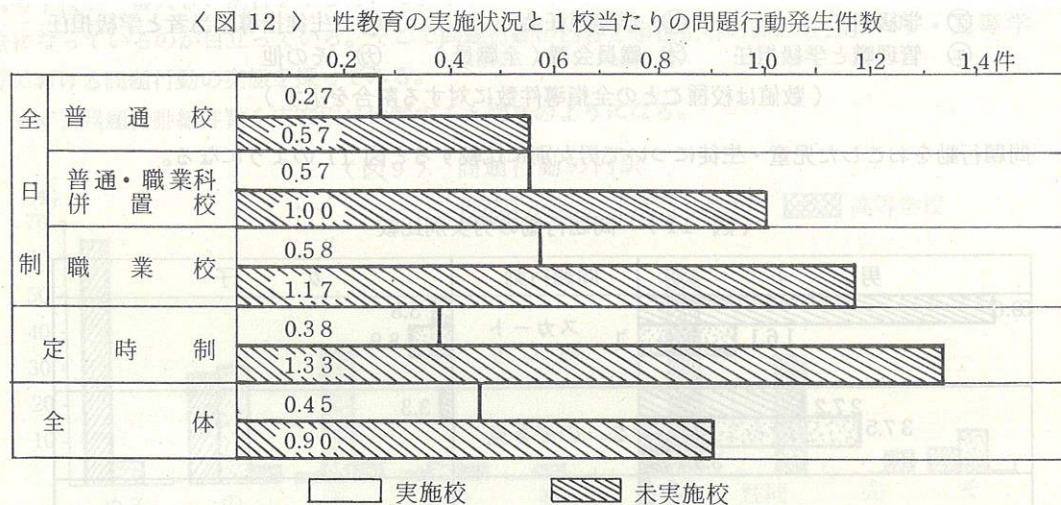
問題行動をおこした児童・生徒について男女別に比較すると図 11 のようになる。

〈図 11〉 問題行動の男女別比較



小・中学校では男子の方が、問題行動をおこした児童・生徒の90%にも達しているのに対し、高等学校においては女子の方が74%を占め、男子の数を大幅に上回っている。しかもその内容の大部分は、不純異性交遊や売春などの深刻なものであり、これら女子高校生の多くは退学にまで追い込まれている現状にある。これは、女子高校生が交際相手として年長者を求める傾向にあること、問題行動として表面化し補導対象になりやすいことなどによるものと考えられる。

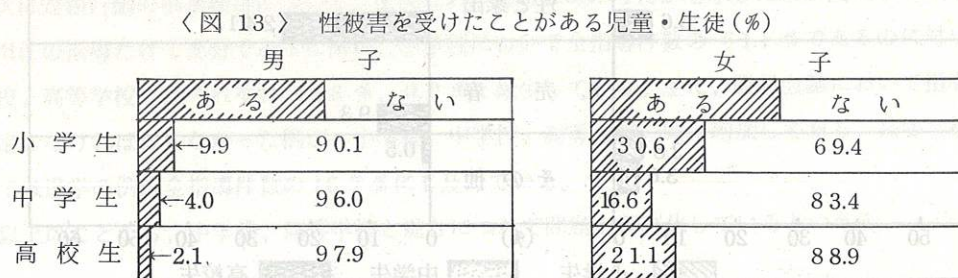
次に不純異性交遊や売春などが発生している高等学校について、性教育の実施状況と問題行動発生率との関係を探ってみる。性教育の実施校と未実施校における、1校当たりの問題行動発生件数を示したのが図12である。



この図から、実施校における問題行動発生件数が未実施校の発生件数を大幅に下回り、全体平均でも未実施校において1校当たり0.90件であるのに対し、実施校においては0.45件と半分程度の発生率にとどまっていることがわかる。このことは、計画的に性教育を行うことが、問題行動の防止に大きく役立っていることを示唆している。

(2) 性被害の内容と件数

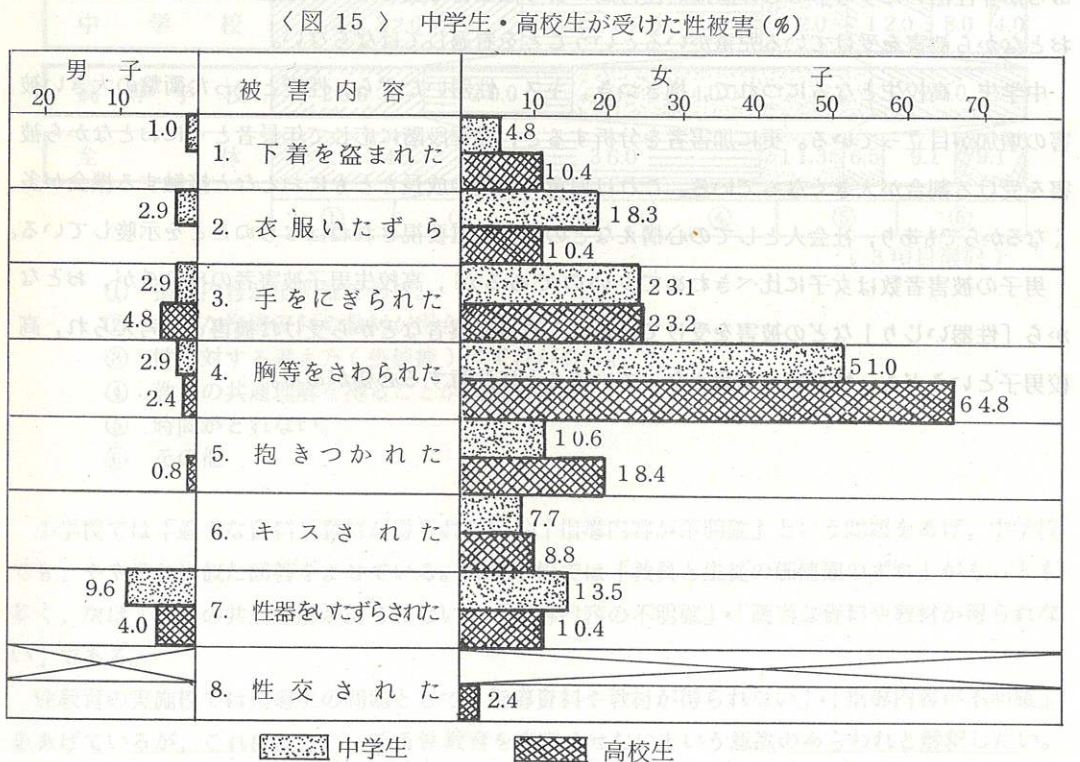
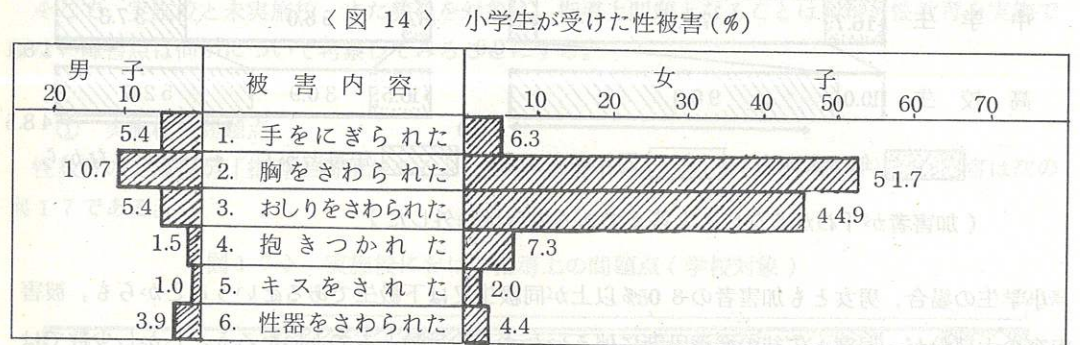
昭和53年度に行った「児童・生徒の性に関する意識と行動の実態調査」によると、性被害を受けたことがあると答えている児童・生徒は図13のようになっている。



(無答者は除く)

この図から明らかなように、女子の場合、小学生は約3人に1人、中・高校生は約5人に1人の割合で何らかの性被害を受けており、男子についても少数ではあるが、小学生から高校生にいたるまで性被害を受けている。そこで被害内容及び加害者の面から、児童・生徒が受けている性被害の実態を探ってみる。

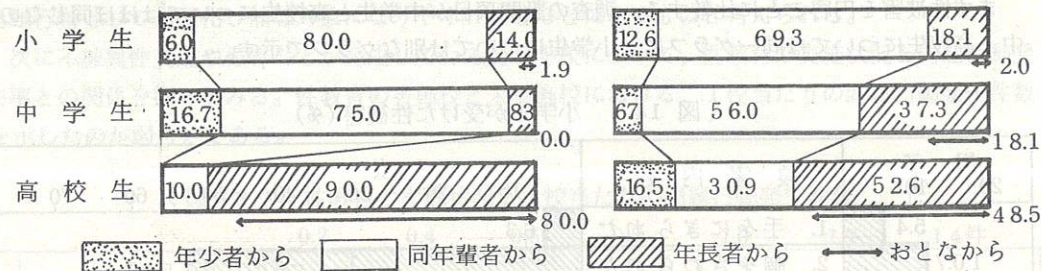
まず性被害を内容ごとに比較する。調査の設問項目が中学生と高校生についてはほぼ同じなので、中・高校生については同一グラフに、小学生については別なグラフで示す。



(図15の「性交された」は高校生にのみ設問してある。両図とも数値は、校種ごとの被害を受けた実人数に対する割合を示す)

次に加害者について、年少者、同年輩者、年長者に大別して比較すると図16のようになる。年長者の中で「おとな」の占める割合を←→で示してある。

〈図16〉 加害者の内訳



(加害者が「わからない」と答えてある場合は除外した)

小学生の場合、男女とも加害者の80%以上が同級生又は下級生であるということからも、被害内容の大部分が、児童・生徒の発達段階に伴ういたずらの行動とみてよいだろう。しかし少数ではあるが「性器いたずら」などの直接的性行動による性被害を受けている児童がおり、年長者とくにおとなから被害を受けている児童がいるということを看過してはならない。

中学生、高校生となるにつれて、抱きつき、キス、性器いたずら、性交といった衝撃の大きい被害の増加が目立っている。更に加害者を分析すると、発達段階に応じて年長者とくにおとなから被害を受ける割合が大きくなっている。これは児童・生徒の成長とともにおとなと接触する機会が多くなるからでもあり、社会人としての心構えなどの指導が重要視されねばならぬことを示唆している。

男子の被害者数は女子に比べきわめて少いのであるが、高校生男子被害者の80.0%が、おとなから「性器いじり」などの被害を受けている。これは変質者などから受けた被害とも考えられ、高校男子といえども、性被害の対象となっていることに注意する必要がある。

3 指導上の問題点

(1) 性教育実施上の問題点

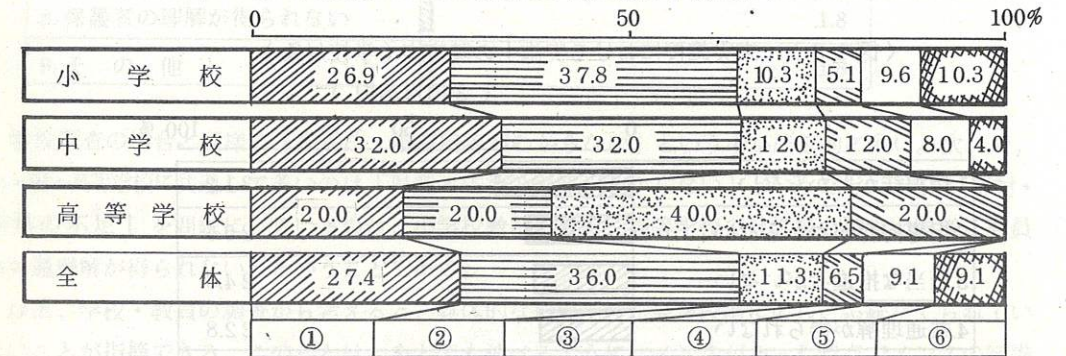
性教育の実施校は、小・中・高等学校全体で54.2%、未実施校が45.8%である。実施校についてみると、小学校の場合は「長期休業前や修学旅行の機会」、中・高等学校の場合は、「教科・道徳・特別活動」の中での指導となっている。

そこで、実施校と未実施校、また教員を対象に、指導上問題となることは何か、性教育を実施できない障害点は何かについて考察してみることにする。

① 実施校の問題点

性教育の実施校が「指導上問題がある」と回答した割合は大きいですが、その問題とした内容は次の図17である。

〈図17〉 実施校における指導上の問題点(学校対象)



(3項目選択)

- ① 指導内容が不明確である。
- ② 適切な指導資料や教材が得られない。
- ③ 性に対する考え方(価値観)にずれがある。
- ④ 教員の共通理解を得ることが困難である。
- ⑤ 時間がとれない。
- ⑥ その他

小学校では「適切な資料や教材が得られない」・「指導内容が不明確」という問題をあげ、中学校でも、ややそれに似た回答をよせている。高等学校では「教員と生徒の価値観のずれ」がもっとも多く、次は「教員の共通理解が得られない」・「指導内容の不明確」・「適切な資料や教材が得られない」である。

性教育の実施校では指導上の問題として「指導資料や教材が得られない」・「指導内容が不明確」をあげているが、これはよりいっそう性教育を充実させたいという意欲のあらわれと解釈したい。すなわち、性教育を今までより充実させたいというのが、実施校中47.1%、今まで通り実施していきたいが45.1%で、これをあわせると92.2%になることから理解できる。それだけに児童・生徒の実態に応じ、より適切な指導内容の検討が望まれている。

高等学校での問題としては「価値観のずれ」がある。生徒一人ひとりの性についての知識や経験あるいは成熟度、性の問題行動や純潔に対する考え方等、個人差があるだけに、指導上当然留意しなければならない点である。

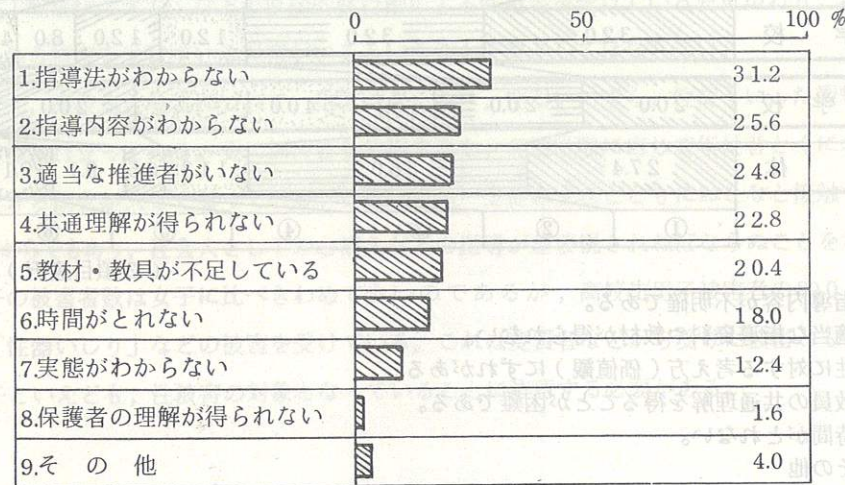
また高等学校では「教員の共通理解が得られない」というのも20.0%という大きい割合になっている。性教育に関して教員間の認識に相違がなくては性教育の効果は期待はもてないので、共通理解を得ることがもっとも大切である。

児童・生徒の実態を把握し、基本的なねらい、そして指導内容・方法等について、意志の統一をはかって指導にあたることが重要である。

② 未実施校の障害点

未実施校において「性教育が不必要だ」という考えはごく少数である。「現在、担任が指導している程度で十分」というのが約半数で、「障害点が多くてやれない」というのが約30%である。では、その障害点というのは何か、障害となる内容をまとめたのが次の図18である。

〈図18〉 未実施校における実施上の障害点(学校対象)
(3項目選択)



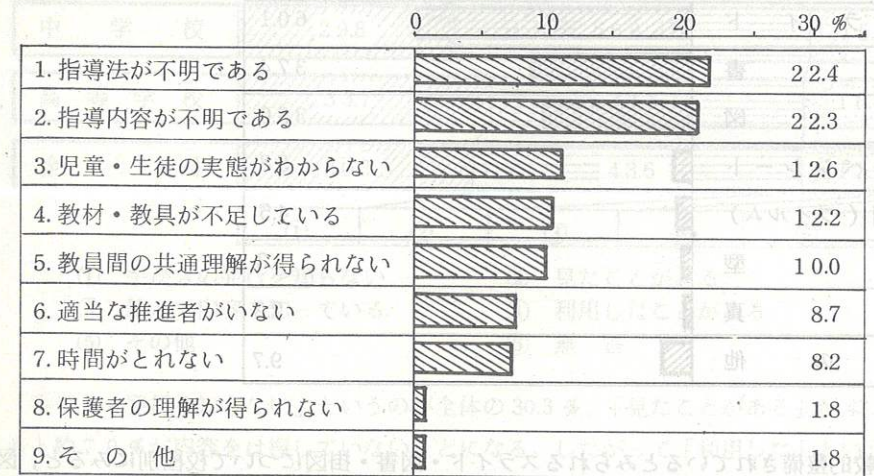
先に実施校の問題として「指導内容が不明である」・「指導資料や教材が得られない」というのが主なものであったが、未実施校では図18のように「指導法がわからない」というのが31.2%、次が「指導内容がわからない」で25.6%である。

「適当な推進者がいない」というのも小・中・高等学校を通して多く、「共通理解が得られない」というのは、中学・高等学校に多い。「教材・教具の不足」については、実施校で大きい割合になっているが、未実施校の場合は、中学校を除いてはその割合は小さくなっている。未実施校は、指導法や指導内容がわからないのだから「教材・教具の不足」というところまでは進んでいない実態にあるといえる。

③ 指導上の障害点(教員対象)

教員については実施、未実施校の区別なく全教員に回答をもとめたのが次の図19である。

〈図19〉 教員があげる指導上の障害点(3項目選択)



学校調査の場合と同様に「指導法・指導内容がわからない」というのが圧倒的に多い。次いで、小・中・高等学校に共通して多いのは「児童・生徒の実態がわからない」ということである。「教材・教具の不足」を問題にしているのは、小学校教員に多く、高等学校では学校の調査と同様「教員の共通理解が得られない」ということである。

以上、学校・教員の調査から考えると、具体的な指導内容が発達段階に応じ、系統だてられていないことが指摘できる。このことは、あとでも述べるように、メンスがあった時点でメンスの知識がなかったとか、また児童の中にはからだの変化に気づき、からだのしくみについて知りたいという欲求があったり、あるいは教員も生徒から性に関する相談をうけているなどのことから、小・中・高等学校それぞれの発達に応じて性に関する基本的指導の必要性が指摘される。

教員の場合、「児童・生徒の実態がわからないので指導しにくい」というのも35.0%を占めるが指導内容や、指導方法を考える場合、児童・生徒の実態は握が何よりも大切であることはいまでもない。

(2) 教材・教具の整備状況

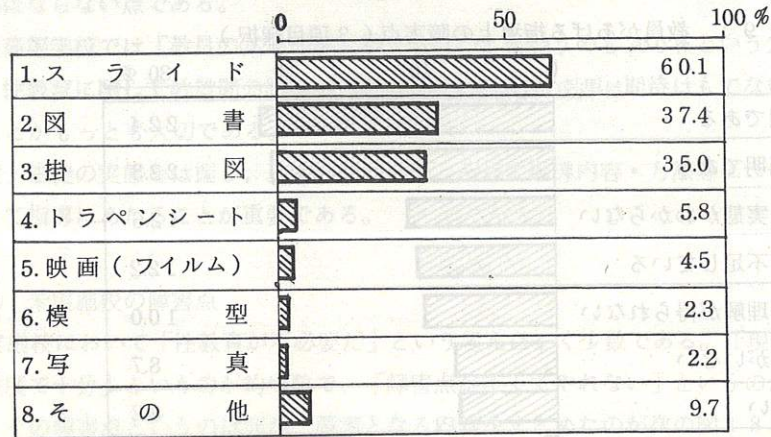
指導上「適当な資料・教材が得られない」というのが性教育実施校で36.0%、未実施校では24.6%である。このように多くの学校が教材の不足を指摘しているが、この教材の整備状況を示したのが次の図20である。

小・中・高等学校中「スライドがある」と答えているのが60.1%、図書が37.4%、掛図が35.0%で、映画フィルム、模型等と答えたのはごく少数である。

これを学校別にみると、高校では、スライド73.1%、図書55.2%で図書の数は予想外に少ない。中学校では図書が多くて、次がスライド。小学校ではスライドが多くて、掛図、図書の順である。こうしてみると図書の数は一般に少ないが、もっとも求めやすく利用しやすいだけに、各学校では

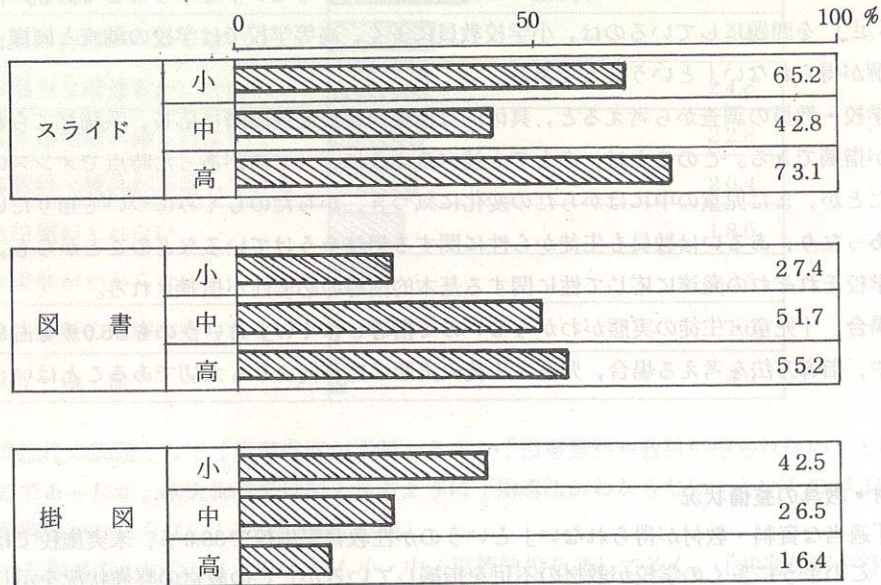
いっそう充実することが望まれる。

〈図20〉 教材・教具の整備状況（学校対象）



このうち比較的整備されているとみられるスライド・図書・掛図について校種別にみると、図21である。

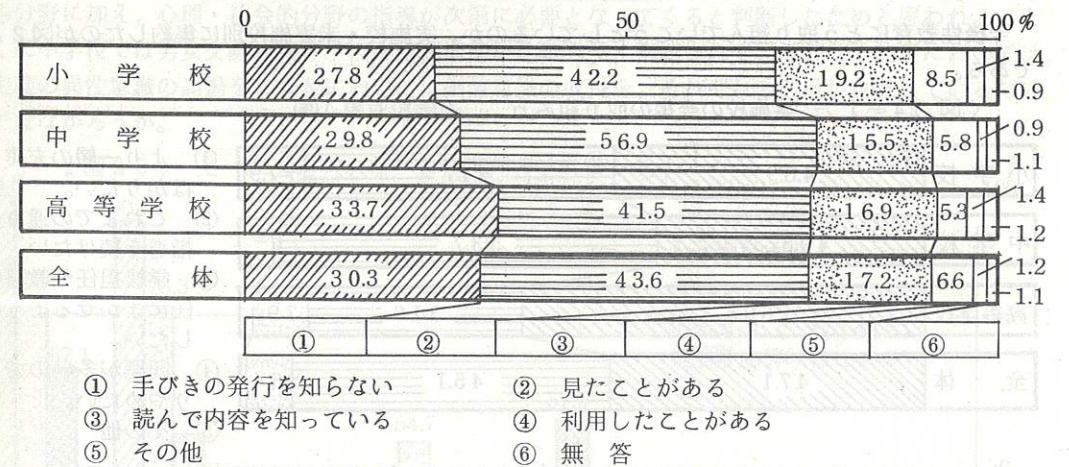
〈図21〉 校種別教材・教具の整備状況



(3) 「性教育の手びき」の利用状況

多くの教員が、教材・教具がとぼしく、指導内容や指導法がわからないと答えていることは前にのべたが、「性教育の手びき」（48年度県教育委員会発行）の利用状況を示したのが図22である。

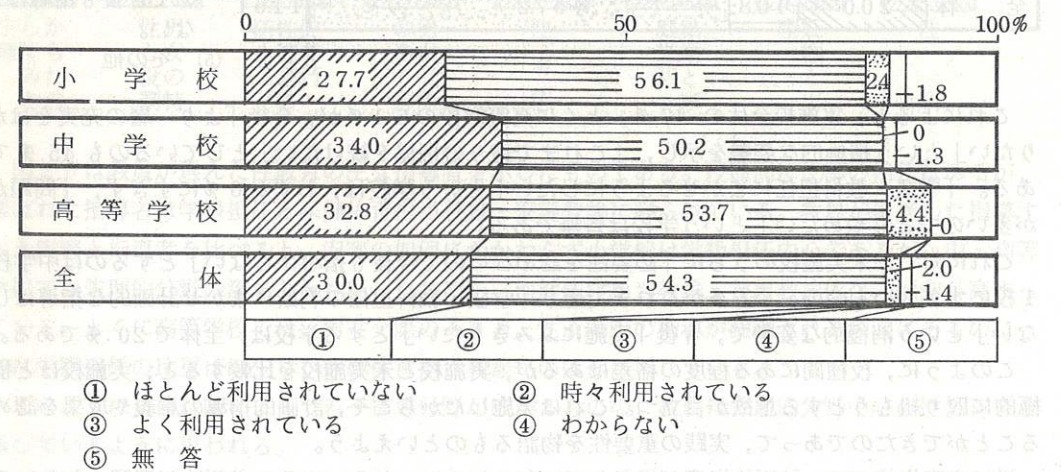
〈図22〉 「性教育の手びき」の利用状況（教員対象）



「手びきの発行を知らない」というのが全体の30.3%、「見たことがある」が43.6%で両者を加えると約70%が内容をは握していないことになる。したがって「利用した」というのはきわめて少なく、全体でわずか6.5%、一番利用率の高い小学校教員でも8.5%である。

図23に示す校種別の利用状況についても、約30%はほとんど利用しておらず、よく利用されている高等学校で4.4%である。

〈図23〉 「性教育の手びき」利用状況（学校対象）



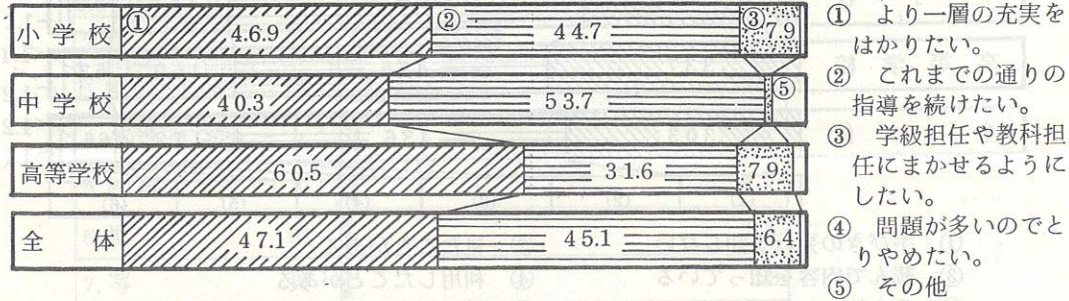
「現在、学校に手びきがある」と答えたのが87.8%、「ない」と答えた学校も12.1%であるが、利用しやすいような保管の仕方も大切であると考えられる。

この手びきは、児童・生徒の実態を調査し、小・中・高等学校それぞれの指導目標・内容・方法を具体的に示したもので、それだけに利用の仕方によっては効果的な指導ができると思われる。

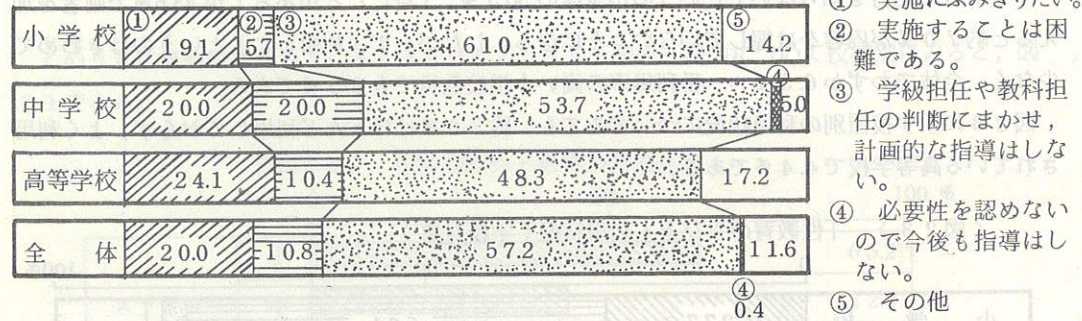
4 今後の取り組み方

今後性教育にどう取り組んでいこうとしているのか、実施校・未実施校別に集約したのが図24である。

〈図24-1〉 実施校の今後の取り組み方 (学校対象)(%)



〈図24-2〉 未実施校の今後の取り組み方 (学校対象)(%)



これによると、実施校全体の47%、とくに高等学校の61%が、今後「より一層の充実をはかりたい」という積極的な姿勢を示し、「これまで通りの指導を続けたい」としているのも45%である。「学級・教科担任にまかせるようにしたい」という学校は、わずか6%にすぎず、「問題が多いのでとりやめたい」という学校は皆無である。

これに対し、未実施校のうち「必要性を認めないので今後も指導はしない」とするのは中学校1校にすぎないものの、57%がこれまで通り「学級・教科担任の判断にまかせ計画的な指導はしない」という消極的な姿勢で、今後「実施にふみきりたい」とする学校は、全体で20%である。

このように、校種間にある程度の格差はあるが、実施校と未実施校を比較すると、実施校ほど積極的に取り組もうとする意欲が目立つ。これは実施したからこそ、計画的指導の意義や成果を認めることができたのであって、実践の重要性を物語るものといえよう。

逆に未実施校では、計画的指導が行われていないために、かえってその必要性が理解されないのではないと思われる。前にも述べたように小学校の未実施校では、初潮を経験した時点でその知識のなかった児童が比較的多い、という事実からも明らかなように、今後実施校と未実施校の間に指導上の格差が広がるのではないかと懸念される。

図25は、性教育の指導内容のうち、とくに力を入れるべきものとして小・中・高等学校の教員があげたものである。

これによると小・中・高等学校の教員とも一致して「からだのしくみや生理」と「男女の特性や役割」をもっとも多くあげているが、中・高等学校ではそれらに次いで「男女交際」や「性道徳」

が増加傾向を示している。これは児童・生徒の発達段階を反映したもので、年齢が進むにつれ生理的分野に加え、心理・社会的分野の指導が次第に必要となると判断したためと思われる。とくに中学校では男女交際、高等学校では性道徳が比較的多く指摘されているのは、前者においては、生徒の異性意識の高揚を、後者においては価値意識の成長を、それぞれの教員が自覚しているためではなかろうか。

〈図25〉 とくに力を入れるべき指導内容(教員対象)

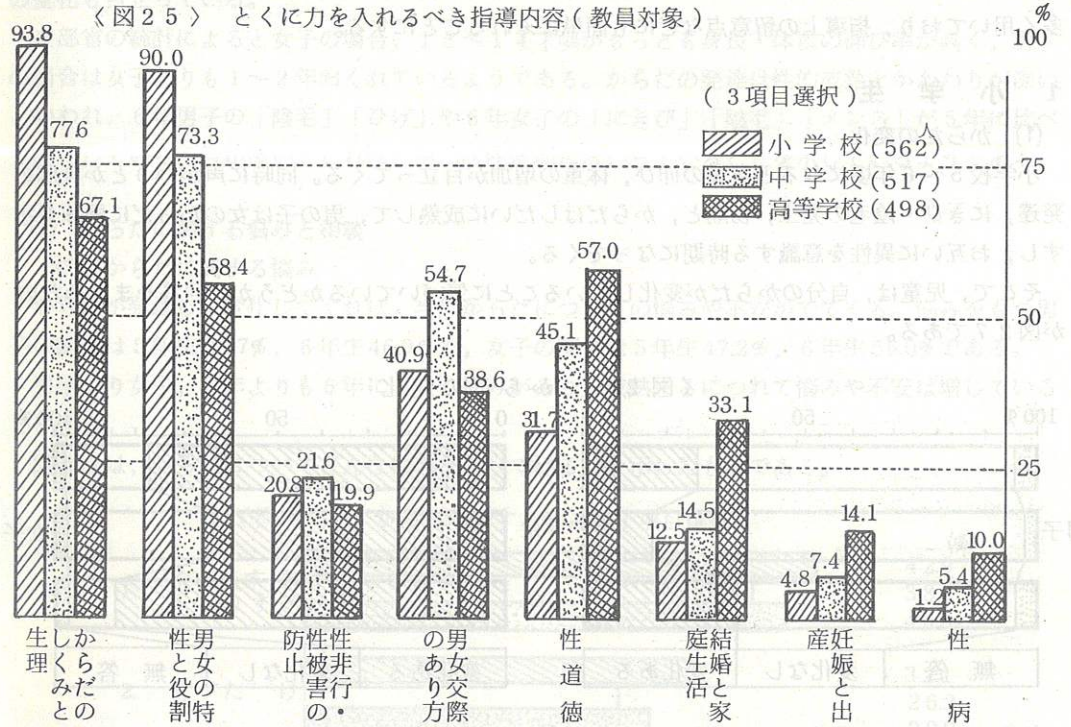
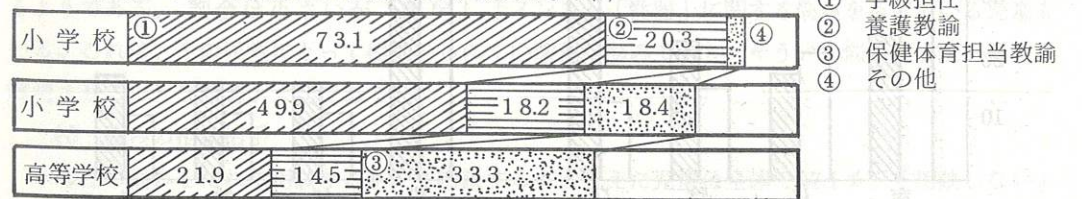


図26は教員が選んだ性教育の主な指導者を示したものである。校種間に比率の格差はあるが、選ばれた指導者は学級担任と保健体育担当教諭・養護教諭に限られている。教員が指摘した指導すべき内容と指導者を比べると、内容の如何にかかわらず小学校は学級担任中心であるが、中・高等学校では生理的分野の深まりを判断したためか、保健体育担当教諭・養護教諭依存の傾向が高まっている。とくに高等学校では、男女交際のあり方、性道徳等の指導が強調される傾向にあるのに、逆に学級担任の比重は減少し、保健体育担当教諭への依存が増している。

このように発達段階によって若干指導分野が広がるものの、教員は生理的分野中心の性教育を意識しているように思われる。

〈図26〉 性教育の主な指導者(教員対象)(%)



Ⅵ 性に関する児童・生徒の意識と行動

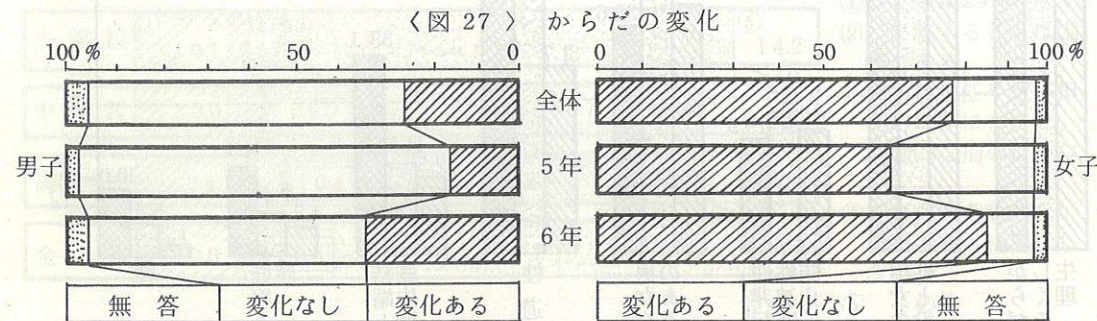
以下は、県内小・中・高等学校、児童・生徒3,155名を対象に実施したアンケート調査を校種別にまとめたものである。重要と思われる項目等については、説明をわかりやすくするため表や図を多く用いており、指導上の留意点などにも簡単にふれることにする。

1 小学生

(1) からだの変化

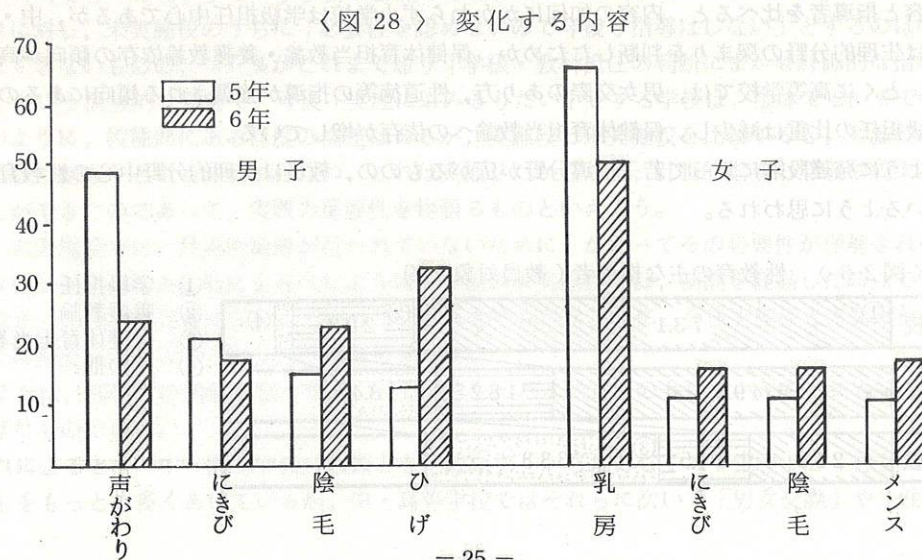
小学校5～6年頃になると身長伸び、体重の増加が目立ってくる。同時に声がわりとか乳房の発達、にきび・陰毛の発生、初潮と、からだはしだいに成熟して、男子は女のからだに興味を示すし、お互いに異性を意識する時期になってくる。

そこで、児童は、自分のからだ変化していることに気づいているかどうか、回答をまとめたのが図27である。



男子の場合、急激な変化はみられないためか、「からだの変化に気づいている」というのが約30%で、女子の場合は5年生が約75%、6年生約85%になっている。

図28は、どんな変化に気づいているか、4項目について回答をまとめたものである。



5年男子の場合、「声がわり」がもっとも多く約50%、次が「にきび」「陰毛」である。6年男子は「ひげ」「声がわり」となっているが、5年に比べて「ひげ」「陰毛」の身体的変化が目立ち、より成熟していることを表わしている。

女子の場合、乳房の発達は6年が50.0%、5年は50.5%となって約半数で、「陰毛」「にきび」の変化も目立っている。

文部省の統計によると女子の場合、13～14才頃がもっとも身長・体重の伸び率が高く、男子の場合は女子よりも1～2年おくられているようである。からだの発達は性的成熟とかかわりが深いといわれ、6年男子の「陰毛」「ひげ」や6年女子の「にきび」「陰毛」「メンス」が5年に比べて変化している割合が高い。これは、第二性徴期にはいつていることを示しているようである。

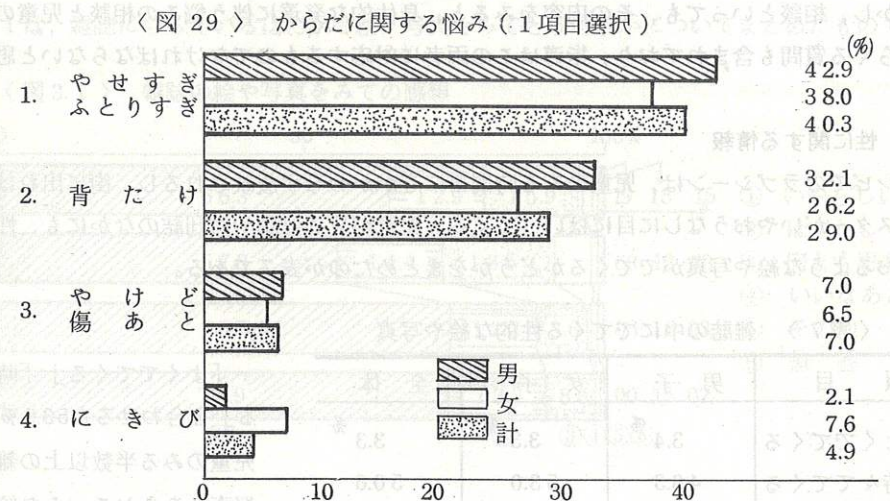
(2) からだに関する悩みと相談

(ア) からだに関する悩み

からだが発達し、変化してくれば、当然からだについての悩みや不安がでてくる。悩みをもつ男子の割合は5年生38.7%、6年生46.9%で、女子の割合は5年生47.2%、6年生56.0%である。

男子より女子、5年よりも6年に多くの悩みがあり、成熟するにつれて悩みや不安は増しているといえる。

図29は、からだについてどんな悩みをもっているかを示したものである。



全体的に「やせすぎ」「ふとりすぎ」「背たけ」というからだについての悩みが多い。これは性的な悩みではないが、しだいに成長する自分のからだに関心をもってきて、これが悩みになってくるようである。割合は小さいが「乳房」「メンス」「性器」に関する悩みをあげている児童もいる。これは、その児童にとって相談のしにくい深刻な悩みであり、そういう悩み、心配を軽減・解消させるような指導が大切である。

(イ) 悩みの相談相手

からだの悩みをだれに相談するか。「相談する」と答えた児童は全体で47.1%、「相談しない」が44.9%で約半数ずつとなっている。

〈表6〉 相談の相手

相談相手	男子	女子	全体
1. 母	57.5%	77.2%	70.8%
2. 友 だ ち	12.0	12.4	11.3
3. 父	18.5	0.7	7.6
4. 兄 ・ 姉	4.3	4.8	4.6
5. 先 生	3.3	0.7	1.6
6. 祖 父 母	1.1	1.4	1.2
7. おじ・おば	0.0	1.4	0.8
8. そ の 他	3.3	1.4	2.1

だれに相談するか、表6によると「母」が70.8%、「友だち」11.3%、他は「父」「兄姉」で、先生は1.6%である。そのほか、「祖父母」「おじ・おば」という回答もあったがそれぞれ約1%である。

男女とも「母」には相談しやすいようであるが「友だち」に対する相談も多い。友だちといっても小学生であり、どの程度悩みを正

しく解決できるのか疑問になる点である。

一方、教員の方では「たびたび相談をうけた」というのが3.0%、「1～2回相談をうけた」が26.5%、合わせると約30%である。児童は、先生に相談するというのがごく少数であるが、実際、教員はいろんな相談をうけているということである。

しかし、相談といっても、その内容をみると、身体的な発達に伴う悩みの相談と児童の興味・関心からくる質問も含まれており、指導はこの両者に対応するものでなければならないと思われる。

(3) 性に関する情報

テレビでのラブシーンは、児童のみる時間帯にもかかわらず放映されるし、街に出れば、ポルノのポスターがいやおうなしに目にはいつてくる。児童が見る雑誌や週刊誌のなかにも、性的好奇心をあおるような絵や写真がでてくるかどうかをまとめたのが表7である。

〈表7〉 雑誌の中のでてくる性的な絵や写真

項 目	男子	女子	全体
1. よくでてくる	3.4%	3.3%	3.3%
2. 時々でてくる	48.3	53.0	50.6
3. でてこない	47.3	42.8	45.1

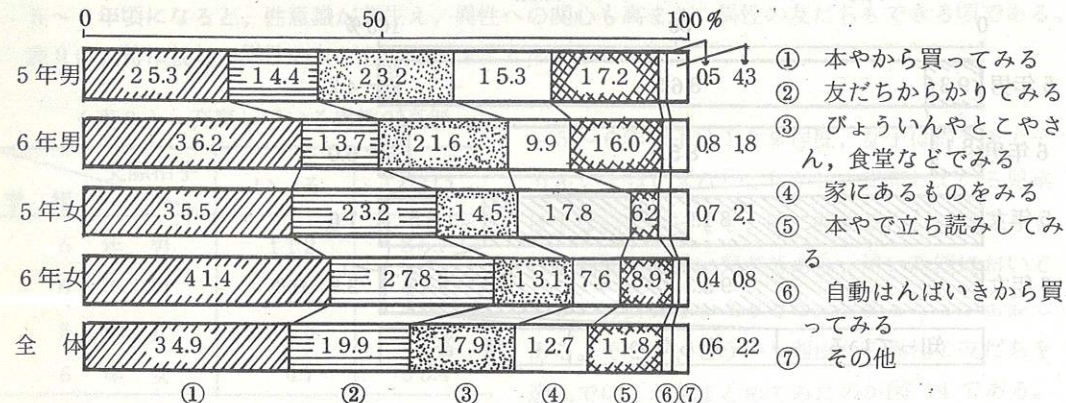
「よくでてくる」「時々でてくる」を合わせると53.9%になる。

児童のみる半数以上の雑誌に性的好奇心をあおるような絵や写真がでてきている。児童のみている雑誌

もきわめて多く、児童向きだけでなく、大人向きの雑誌・週刊誌も読まれており、それらの中に多かれ少なかれ、そういう絵や写真がでてくるということである。

それらの雑誌・週刊誌をどのようにして入手し見ているのであろうか。3項目選択により回答をまとめたのが図30である。

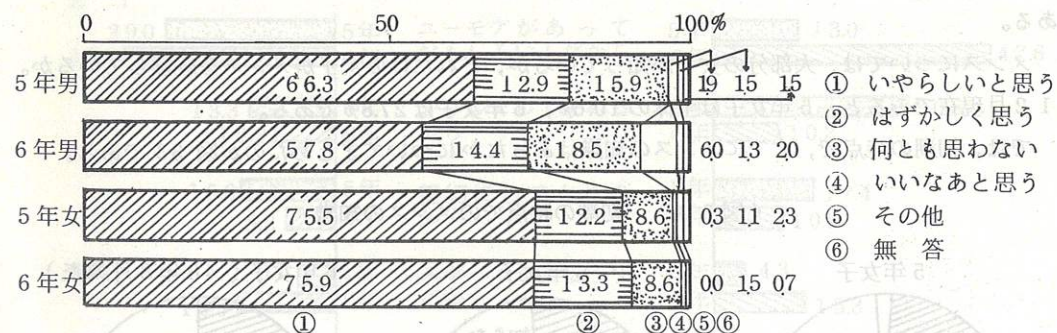
〈図30〉 雑誌・週刊誌の入手方法、みる機会



「買ってみる」というのがもっとも多く、次が「友だちからかりてみる」である。これを男女別にみると、女子は「買ってみる」とか「友だちからかりてみる」「家にあるものをみる」というのが多く、男子の場合は「病院、理髪店、食堂」とか「本屋で立ち読みする」など、人の集まる所でも見たり、読んだりしている。医院や理髪店、食堂とか家にある本というのは、大人向きの雑誌や週刊誌が多いのではないかと考えられるし、児童が雑誌から受ける影響は大きいと思われる。

図31は、雑誌にのっているはだかの絵・写真をみてどう思うかについてまとめたものである。

〈図31〉 雑誌の絵や写真をみての感想

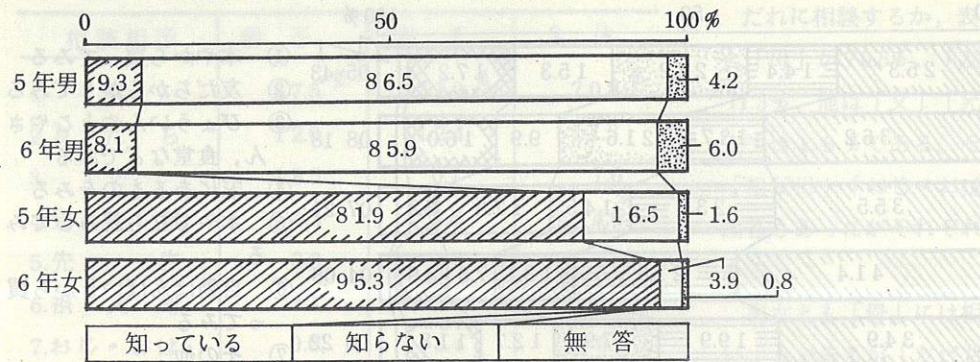


大部分の児童は、女のはだかの絵や写真をみて「いやらしい」と答えており「はずかしい」ともいっている。このことは児童の発達段階からして正常な意識でないかと考えられる。また「何とも思わない」というのが男子に17.2%、女子に8.6%、中には「いいなあ」と感じている児童もいる。

(4) メンスについての知識

女の子にメンスがあることを知っているか。について回答をまとめたのが図32である。「知っている」と回答した男子は10%弱、女子の場合は5年81.9%、6年が95.3%である。女子の大部分が知っているということである。

〈図32〉 メンスについての知識



では、どのようにして知ったのか、表8をみると「先生から」というのが全体で52.8%、「お母さんから」が28.4%、次が「友だち」で11.1%となっている。その他「雑誌・週刊誌」というのも約3%いるが、「兄姉」「父」という割合は1~2%である。

女子は「先生」55.9%、「母」28.8%という大きい割合となっており、女子の大部分はメンスについて正しく理解しているといえるようである。

メンスについては、大部分の女子が知っているが、どれだけの女子がメンスを経験しているか。12月現在でみると、5年女子は全体の10.6%、6年女子は27.8%である。

では、初潮の時点で、すでにメンスの知識はあったかについてまとめたのが図33である。

〈図33〉 初潮の時点でのメンスの知識

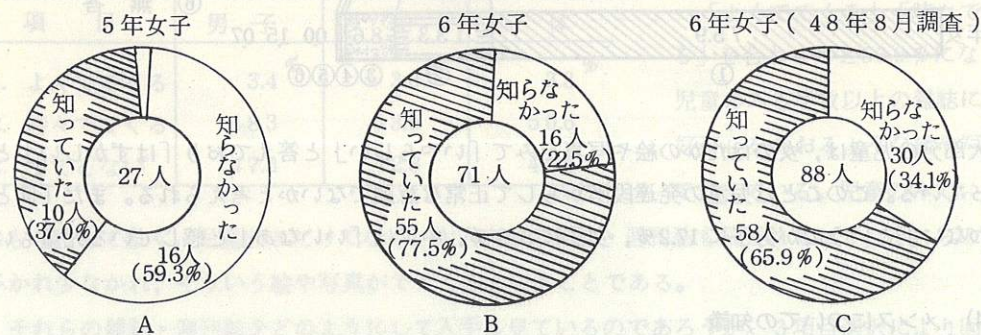


図33のA・Bをみると「知らなかった」というのが、5年で59.3%、6年は22.5%である。メンスの知識がないまま初潮を経験するという実態は、学校や家庭で指導しなければならない基本的なことを指導していないということであり、ここにも発達段階に応じた性教育の必要性が指摘される。

〈表8〉 メンスを教えてくれた人

性別	先生から	母から	友だちから
1. 男	22.9%	22.9%	20.8%
2. 女	55.9	28.8	10.1
3. 計	52.8	28.4	11.1

(5) 男女交際

5~6年頃になると、性意識が芽生え、異性への関心も高まり、異性の友だちもできる頃である。表9は、特に親しい異性の友だちの有無をまとめたものである。

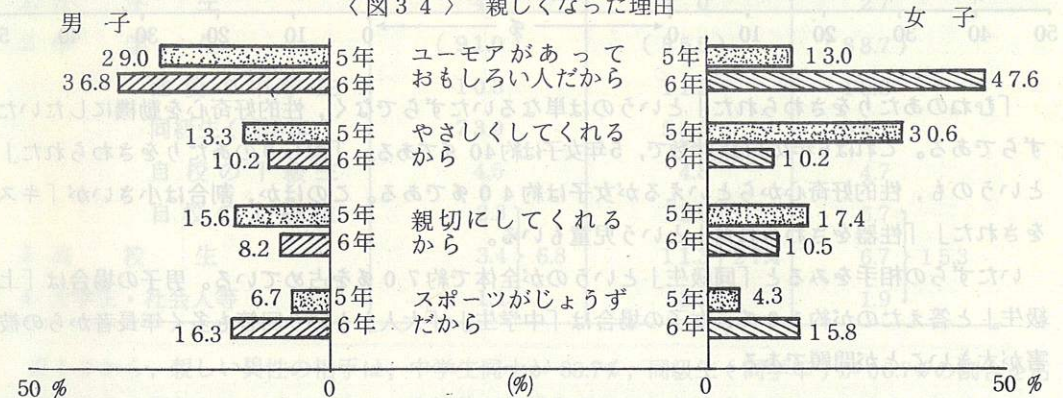
〈表9〉 交際している異性の有無

学年	交際相手	いる (%)	いない (%)
5年男		11.2%	85.7%
6年男		10.0	88.4
5年女		5.5	91.4
6年女		4.7	93.4

5~6年男子は10%程度、女子は約5%でそう多いとはいえない。しかし、交際している児童は少ないといっても、性に関する正しい知識をもちたず判断力の甘い児童であり、早い時期において正しい男女交際のあり方を指導することが重要である。そこで、どう理由から異性の友だちを選んでいるかをまとめてみたのが図34である。

交際している児童のうち「ユーモアがあっておもしろい人だから」というのがもっとも多くて31.6%、次いで「いつもやさしくしてくれるから」「こまわっているときに親切にしてくれるから」をあげている。これを男女別にみると、5年女子だけは「やさしくしてくれるから」が30.6%、ほかは「ユーモアがあるから」をあげている。その他、学年の特徴的なものとして、6年が男女とも「運動やスポーツがじょうずだから」をあげているのに、5年は「親切にしてくれるから」をあげている。男子が「顔かたちがいいから」をあげているのが約10%いるのに、女子の場合は皆無である。

〈図34〉 親しくなった理由



こうした回答をみると、交際は「ユーモアのある人」「おもしろい人」「やさしい人」ということで「学校の成績がよいから」とか「勇気がある人だから」「顔かたちがいいから」というのは異性交際の理由として、それほど重視されていないことがわかる。

現在、異性と交際していないという児童(5・6年男女89.7%)に、交際していない理由を聞いたのが表10である。

〈表10〉 交際していない理由 (1項目選択)

理由	男 (%)	女 (%)	計 (%)
まだ早いと思っているから	39.6%	52.5%	46.3%
交際したいと思う人がいないから	37.0	29.5	33.2
交際したい人がいるがさそえないから	8.4	7.2	7.8
相手にされないことがわかっているから	3.5	4.9	4.2

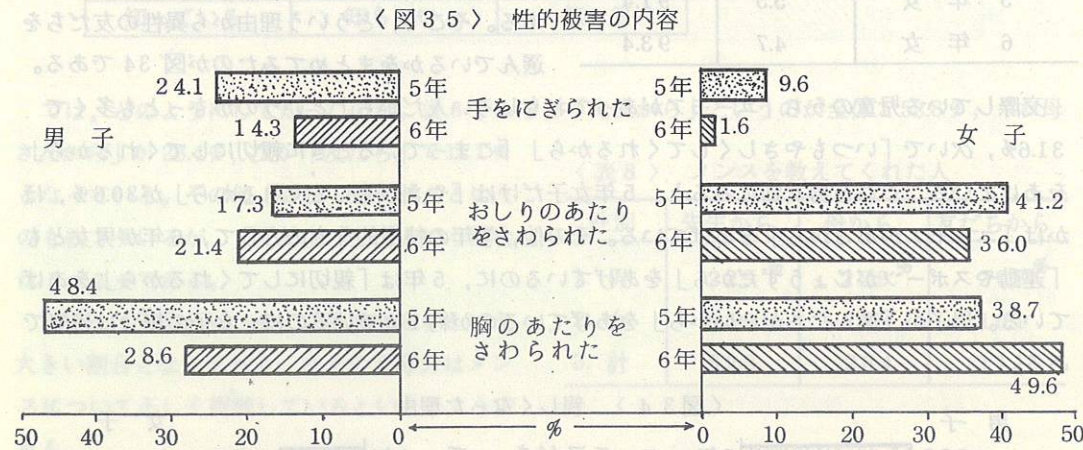
これを見ると「まだ早い」と

いうのが全体で46.3%いる。現在の児童は早熟になっているとはいえ、これは小学生にとって健全な考えといえるようである。また「さそえない」「相手にされないことがわかっている」というのが約12%おり、異性との交際に消極的な児童がいる。そのほか「父母からおこられる」「ことわられた」というのもわずかいいる。

(6) 性被害

性被害といっても、小学生の場合は性的いたずらともいえる。「異性からいたずらされたことがあるか」という問に対し、男子が約10%、女子は約30%で被害は女の方に多い。

図35は被害の内容を示したものである。



「むねのあたりをさわられた」というのは単なるいたずらでなく、性的好奇心を動機にしたいたずらである。これは6年女子は約半数で、5年女子は約40%である。「おしりのあたりをさわられた」というのも、性的好奇心からといえるが女子は約40%である。このほか、割合は小さいが「キスをされた」「性器をさわられた」という児童もいる。

いたずらの相手を見ると「同級生」というのが全体で約70%を占めている。男子の場合は「上級生」と答えたのが約10%、女子の場合は「中学生」「大人」という回答も多く年長者からの被害が大きいことが問題である。

(7) 要約

- ① からだの成熟に気づいているのは女子に多い(とくに乳房の発達)。
- ② 児童のみる半数以上の雑誌や週刊誌に性的好奇心をあおるような絵や写真がでてる。
- ③ メンスになった時点で、メンスの知識がなかったというのが5年で59.3%、6年で22.5%である。発達の時期に即応した指導が必要である。
- ④ 異性交際の理由は主に「ユーモアのある人」「やさしい人」である。
- ⑤ 性被害として、胸やおしりをあたりをさわられたという児童が多い。いたずらの相手は同級生というものが約70%であるが、女子の場合、年長者からの被害が多い。

2 中学生

(1) とくに親しい異性の友人

親しい異性の友人が「いる」と答えている割合は、全体で14.4%であり、これを男女別にみると、男子16.3%、女子12.4%となっている。表11は「いる」と答えた生徒の割合を、地区別に表したものである。

〈表11〉 地区別にみたとくに親しい異性の友人のいる割合

地区	村山	最北	置賜	庄内	全県	男子	女子
割合	18.1%	12.7%	12.9%	12.5%	14.4%	16.3%	12.4%

この表からわかるように、「村山」が他のいずれの地区よりも大きい割合となっている。これは、村山地区は山形市を含み、他の地区と比較して相対的に人口密度が高く、都市型に近いせいであろう。「村山」を除いた他の地区の割合は、ほぼ均等である。

次に、とくに親しく交際している異性が「いる」と答えた生徒の相手の内訳を男女別の割合で表すと表12のようになる。

〈表12〉 とくに親しい異性の交際相手の内訳

交際相手	男子	女子	全体
1. 小学生	4.5%	0%	2.7%
2. 中学生	(91.0)	(85.5)	(88.7)
他校の中学生	10.3	11.3	10.6
同級生(同学年)	73.9	56.5	66.7
自校の下級生	4.5	4.8	4.7
自校の上級生	2.3	12.9	6.7
3. 高校生	3.4	11.3	6.7
4. 大学生・社会人等	1.1	3.2	1.9
	6.8	27.4	15.3

表12から、親しい異性の相手は、中学生同士が88.7%、同級生(同学年)が66.7%の割合を占めていることがわかる。このことは、中学生の発達段階では、顔を合わせる機会の多い身近な集団の中で交際相手を見い出していることを物語っている。また、交際相手の年長者の割合をみると、男子については、6.8%であるのに対して、女子においては27.4%と男子に比べて大きい割合となっている。このことから、交際相手について男子は同年者志向型であり、女子は年長者志向型であるといえよう。「他校の中学生」が交際相手となっている割合は、男子10.3%、女子11.3%と男女間に大差は認められないが、「他校の中学生」が交際相手となる主なきっかけは、部活動等とおしての学校間の交流に起因しているであろう。

表13は、親しい異性の交際相手のいない生徒について、交際相手が欲しいと思うかどうかの回答割合を示したものである。異性の交際相手が欲しいと「思う」割合が全体で34.2%、「思わない」が18.4%となっている。これを男女別にみると、「思う」割合は、男子30.6%に対して女子は38.0%

%で男子に比べて、より強く異性の交際相手を求めているといえよう。

〈表13〉 異性の交際相手が欲しいかどうか

項目	男	女	全体
1. 思う	30.6 %	38.0 %	34.2 %
2. 思わない	20.0	16.8	18.4
3. わからない	48.3	44.5	46.5
4. 無答	1.1	0.7	0.9

(2) 男女交際の心構えと学習への影響

表14は、異性との交際上もっとも大切な心構えを項目別に示したものである。項目1の「明るく、けじめをつける」から項目5の「自分の考えをはっきり言うようにする」までの累積割合は、ほぼ90%を占めている。このように、圧倒的多数の中学生は、男女交際について健全な考えをもっていることがうかがえる。これらの意識を一層高める指導が望まれると同時に、きわめて少数であるが、「周囲の人に目立たないようにする」ことが大切だと考えている生徒にも配慮した指導が大切であろう。

〈表14〉 男女交際上大切な心構え(2項目選択)

項目	男	女	全体
1. 明るく、けじめをつける	22.8 %	29.1 %	25.9 %
2. 家の人に心配をかけないようにする	19.6	25.0	22.2
3. 自分で責任をとるようにする	18.3	18.8	18.5
4. 相手の気持を常に尊重する	15.1	7.5	11.5
5. 自分の考えをはっきり言うようにする	12.3	10.5	11.5
6. お互いに金品のことで負担をかけないようにする	6.0	3.8	4.9
7. 服装や身だしなみに注意する	2.8	4.6	3.7
8. 周囲の人に目立たないようにする	2.3	0.7	1.5
9. その他	0.8	0.0	0.3

表15は、「特定の異性との交際は学習にどんな影響を与えるか」という問いに対する回答割合を、親しい交際相手の有無別に表したものである。親しい交際相手のいる生徒の場合をみると、「励みになる」と考えている生徒の割合は30.7%で、「交際相手のいない」場合の21.4%と比べて大きくなっている。しかし、「障害になる」から「なんともいえない」までの割合を合計すると約70%に達する。このことから、中学生にとって異性の交際相手をもつことが、学習上好ましい影響を受けるとは言いきれないであろう。

なお、男子に比べて女子の割合が大きい主な項目は、「明るく、けじめをつける」、「家の人に心配をかけないようにする」の2つである。「自分で責任をとるようにする」割合に男女の差はほとんど認められないが、この場合の責任の意味と内容については今後の検討が必要である。

〈表15〉 特定の異性との交際が学習に与える影響

項目	親しい交際相手のいない人	親しい交際相手のいる人
1. 励みになる	21.4 %	30.7 %
2. 障害になる	15.3	11.3
3. 影響しない	19.9	24.7
4. なんともいえない	42.7	32.7
無答	0.7	0.7

(3) 1対1の男女交際に対する賛否と交際限度

表16は、1対1の男女交際についてどう考えているかをまとめたものである。

〈表16〉 1対1の男女交際に対する賛否

項目	男子	女子	全体
1. 男女交際は自由でよい	67.1 %	54.8 %	61.1 %
2. 親が認めればよい	21.1	24.9	23.0
3. 避けたほうがよい	8.7	16.5	12.5
4. 無答・その他	3.1	3.8	3.4

男女交際が「自由でよい」と考えている割合は61.1%、「親が認めればよい」23.0%、「避けたほうがよい」とする割合は12.5%ともっとも小さい。内訳を男女別にみると、「自由でよい」とする割合は、女子に比べて男子の方が大きく、「親が認めればよい」と「避けたほうがよい」とする割合は女子の方が大きい。

いずれにせよ、条件付きを含めて、90%弱の生徒は、1対1の男女交際にためらいの感情をもっていないのではあるまいか。とくに、「自由でよい」とする割合が男女とも50%を超えているのは、男女同権を標ぼうする社会風潮の反映であると考えられる。

表17は、男女交際の限界についての生徒の意識をまとめたものである。

〈表17〉 男女交際の限界

項目(限界)	男子	女子	全体
1. 手紙の交換・話し合い	52.5 %	70.7 %	60.8 %
2. 手をにぎる・腕を組む	36.9	23.5	30.7
3. 抱き合う・キスする	6.7	3.7	5.4
4. ベッティング	0.8	0.0	0.4
5. その他	3.1	2.1	2.7

項目1の「手紙の交換・話し合い」と2の「手をにぎる・腕を組む」の合計で90%を超えており、「抱き合ったり、キスしたりする」程度以上の直接的性行動まで許容すべきだと考えている生徒の割合は、全体の5.8%ときわめて少なく、圧倒的多数の生徒は健全な考えをもっているとみて

よいだろう。したがって、性に関する非行等で表面化し問題にされるのは、きわめて少数の生徒の行動と考えられる。表16に現れた反応と合わせて考察すると、中学生の男女交際に対する意識の特徴が明らかになっている。

(4) 性描写やヌードなどにふれる機会

表18は、よく見る雑誌の中にヌードの写真や絵・キスの場面がでてくるかどうかの問いに対する回答をまとめたものである。

〈表18〉 よく見る雑誌の中にヌードの写真等のでてくる程度

項目	男子	女子	全体
1. よくでてくる	1.6 %	3.9 %	2.8 %
2. 時々でてくる	42.2	56.2	48.8
3. でてこない	55.5	39.4	47.7
無答	0.7	0.5	0.7

ヌードやキスの場面が「よくでてくる」のが2.8%、「時々でてくる」が48.8%で、合わせると50%を超えていることがわかる。男子のみる雑誌の方が、女子のみるそれに比較して、ヌードやキスの場面のでてくる割合が小さくなっている。これは、たとえばバイク・自動車・無線やラジコン等に関する雑誌を購読したり、見たりしている生徒は男子に片寄っているためであろう。

表19は、よく見る雑誌の入手先や目にふれる場所を割合で示したものである。

〈表19〉 よく見る雑誌の入手先、目にふれる場所

項目	男子	女子	全体
1. 本屋から買って見る	33.8 %	36.1 %	35.1 %
2. 本屋で立ち読み	24.9	14.5	19.0
3. 自動販売機から買って見る	0.9	0.6	0.7
4. 友だちから借りて見る	17.4	30.2	24.7
5. 病院・理髪店・食堂などで	13.9	9.8	11.6
6. 家にあるものを見る	8.6	8.5	8.5
7. その他	0.5	0.3	0.4

表18、表19からわかるように、生徒の見る半分以上の雑誌にヌードやキスの場面が現れ、しかもこれらの雑誌にふれる機会は多方面にわたっている。また、性に関する記事の中には、一部の事実を誇張し興味本位に書きたて、いたずらに好奇心をおおっているものが多い。これらの事実は、生徒の正しい性のあり方を理解するのに妨げになっていることは明白である。

このような状況のもとでは、特定の雑誌の購読を指定したり、立ち入り禁止場所を決めたりしても、生徒にとって好ましくない性情報を完全に締め出すことは困難であろう。したがって、情報の受け手としての生徒が、好ましくない性情報を自立的に拒否できる健全な精神と強固な意志の持ち

主でなければならぬ。このように考えてくると、性教育を進めるにあたっては、その背景や基礎に人格教育がなければならないだろう。

(5) 性に関する不安や悩みの有無とその種類

表20は、不安や悩みの有無をまとめたものであり、表21は、主な不安や悩みの内容を男女別にまとめたものである。

〈表20〉 性に関する不安や悩みの有無

有無	男子	女子	全体
1. ある	9.3 %	24.5 %	16.6 %
2. ない	89.8	74.3	82.3
無答	0.9	1.2	1.1

「ある」と答えている割合は、全体で16.6%である。男女別にみると男子9.3%、女子24.5%となっており、男子は約10人に1人、女子は4人に1人の割合で性に関する不安や悩みをもっていることがわかる。

〈表21〉 不安や悩みの内容(2項目選択)

男子	女子
1. 性器	1. メンズ
2. マスターベーション	2. 乳房
3. 性病	3. 性器
4. 陰毛	4. 陰毛
5. 夢精	5. 性病

性に関する不安や悩みのうちで上位を占めている項目は、男女に共通するものは少なく、むしろ性差や身体の個人差に起因するものであることがわかる。したがって、中学生段階における生理的性教育は、男女を区別して行なった方がよい場合もあると思われる。

表22は、不安や悩みをもっている生徒がそれらをうち明けたり、相談したりするかどうかをまとめたものである。

〈表22〉 不安や悩みの相談

相談	男子	女子	全体
1. する	24.0 %	49.2 %	42.0 %
2. しない	66.0	46.8	52.3
3. 無答	10.0	4.0	5.7

相談する生徒は、男子24.0%、女子49.2%で女子の割合が男子のそれに比べて大きい。表21にかかげてある不安や悩みをもっていないが、男子66.0%、女子46.8%に当たる生徒は、相談しない

と答えている。これは、相談しにくいことと、それによってただちに不安や悩みが解消されると考えている生徒が少ないためであろう。

表 23 は、不安や悩みを相談すると答えた生徒の相談相手をまとめたものである。

〈表 23〉 性に関する不安や悩みの相談相手

相談相手	男子	女子	全体
1. 親	8.3 %	32.8 %	28.8 %
2. 兄 姉	—	6.5	5.5
3. 友人・先輩	58.4	59.1	58.9
4. 雑誌・新聞等	25.0	1.6	5.5
5. ヤングテレホン	8.3	—	1.3
6. 教 師	—	—	—
7. 医 師	—	—	—
8. そ の 他	—	—	—

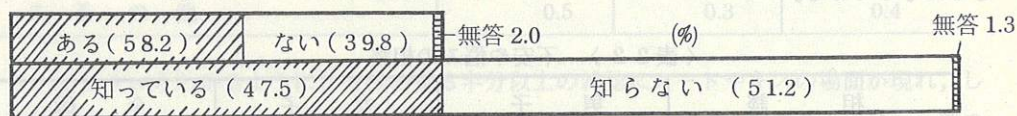
相談相手のうちで、女子の「親」と「兄姉」の合計割合は 39.3% で男子の 8.3% を大きく上回っている。これは、メンスにかかわる不安や悩みを同性の母親や姉など肉親に相談する機会が多いためであろう。教員は相談相手に選ばれていないが、日頃の学校生活で可能な限り多くの機会をとらえて生徒に接し、ラポート（融和）を高める努力が先決のように思われる。

(6) 精通・メンスの有無と開始時期

図 36 は、精通を知っているかどうかの割合と知っている生徒の精通の経験の有無を表したものである。これによると、精通を知っている生徒と知らない生徒の割合は、ほぼ均等である。知っている生徒の約 60% が精通を経験していることがわかる。また、知らないと答えている生徒のうちで精通を経験しているものもいるだろう。

精通の始まった時期については、小学校 6 年頃から徐々にふえ、中学 1 年がピークとなっていることが図 37 からわかる。中学 2 年についての数値は、調査時点が 10 月であったこと（2 年の 2 学期）を考慮しなければならない。

〈図 36〉 精通の知識と精通経験の有無

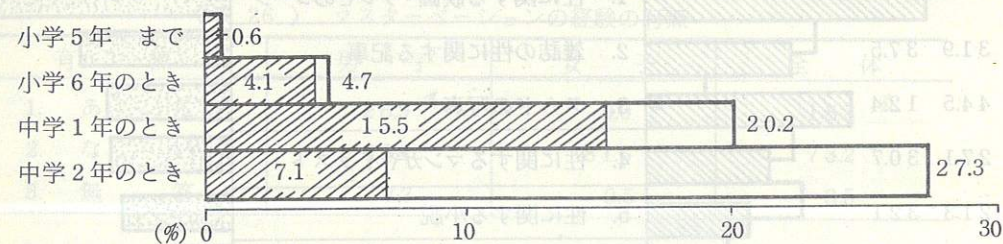


メンスについては、中学 2 年まで経験したものは、図 38 からわかるようにほぼ 90% に達しており、4 年に始まり 6 年がピークになっていることは図 39 からうかがえる。

以上の事実から、精通やメンスについての指導を開始すべきおおよその時期が明らかである。精通やメンスについては、生理的性教育の実施にとどまらず、それらが基本的に正常な現象であり、

一人前のおとなに成長しつつあるあかしでもあるから、責任感のある青年になるように励ましてやるべきであろう。同時に、身体や下着を清潔にする心がけの指導を忘れてはならないと思われる。

〈図 37〉 精通の開始時期



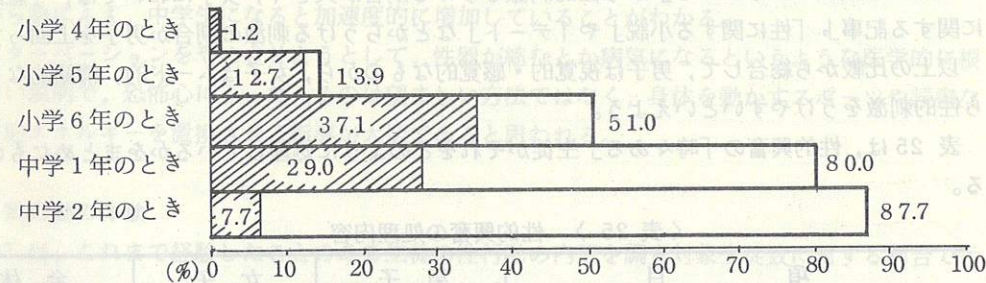
(陰影の部分は当該学年で「あった」と答えた人数の調査対象人数に対する割合、空白の部分を含めたグラフの高さは、「あった」と答えた生徒の当該学年までの累積割合を示す。図 39 の初潮についても同じ)

〈図 38〉 メンスの有無 (%)



(メンスの開始時期などについては P 52 を参照のこと)

〈図 39〉 初潮の時期



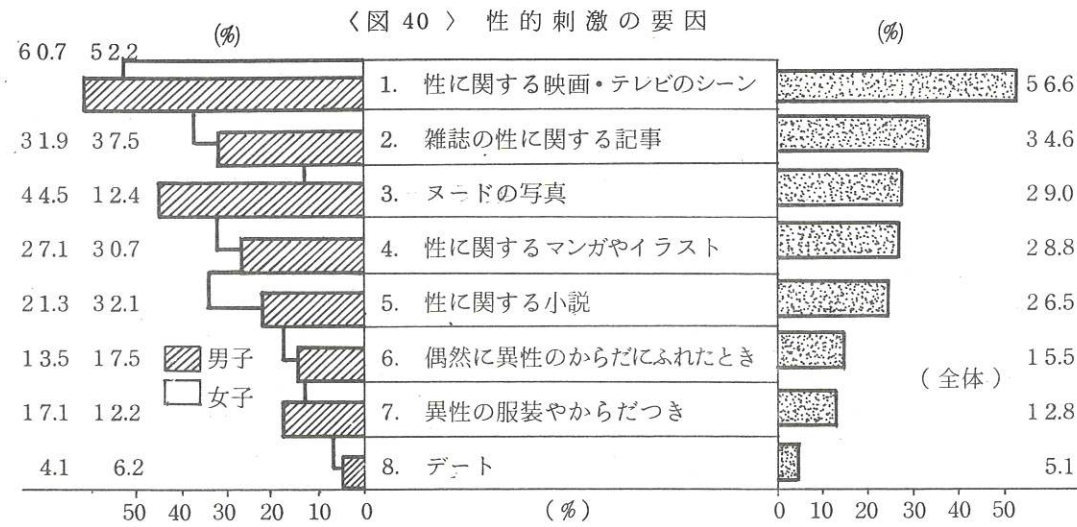
(7) 性的興奮の刺激要因とその処理

表 24 は、日常生活の中での性的興奮の有無をまとめたものである。「時々ある」と答えた生徒の割合は、23.8% であり、その内訳は、男子 31.7%、女子 15.4% となっており、男子の割合が女子のそれを上回っている。

〈表 24〉 日常生活の中での性的興奮

項 目	男子	女子	全 体
1. 時々ある	31.7 %	15.4 %	23.8 %
2. あまりない	66.7	82.7	74.4
無 答	1.6	2.0	1.8

図 40 は、性的な刺激をうける要因をまとめたものである。



性的興奮の要因となるもののうちで、「性に関する映画やテレビのシーン」56.6%、「雑誌の性に関する記事」34.6%、「ヌードの写真」29.0%、「性に関するマンガやイラスト」28.8%、それに「性に関する小説」26.5%などが主なものである。男子は女子に比較して、「ヌードの写真」とか「異性の服装やからだつき」から性的刺激をうける割合が大きく、女子においては、「雑誌の性に関する記事」「性に関する小説」や「デート」などからうける刺激の割合が男子を上回っている。

以上の比較から総合して、男子は視覚的・感覚的なものから、女子はムード的、情緒的なものから性的刺激を受けやすいといえよう。

表 25 は、性的興奮の「時々ある」生徒がそれをどのように処理しているかをまとめたものである。

〈表 25〉 性的興奮の処理内容

項目	男子 (%)	女子 (%)	全体 (%)
1. がまんする	39.9	32.1	37.4
2. 学習や趣味に励む	12.9	24.4	16.5
3. スポーツをする	15.2	11.5	14.1
4. 性に関する絵や写真を見る、本を読む	11.7	11.5	11.6
5. マスターベーションをする	11.1	2.6	8.4
6. 異性と話し合う	1.1	3.8	2.0

男子 28.1% (項目 2, 3)
女子 35.9% (項目 2, 3)
全体 30.6% (項目 2, 3)

男女とも、「がまんする」割合が圧倒的に大きく、全体で 37.4% を占めている。「学習や趣味に励む」と「スポーツをする」の合計割合は 30.6% になっている。逆に言えば、性的興奮の望ましい発散のしかたをしている生徒の割合が 30.6% であることを意味している。この割合を男女別にみると、それぞれ 28.1%、35.9% となっており、女子の方が男子に比べて大きくなっている。性的興

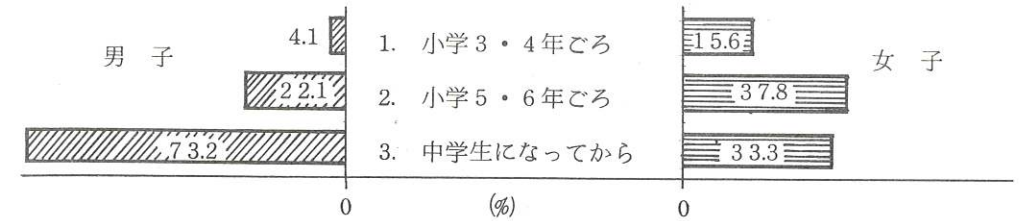
奮を直接処理する「マスターベーション」に向かう割合は、女子に比べて男子の方が多い。

表 26 は、「マスターベーション」の経験の有無を、図 41 は、経験ある生徒の開始時期をまとめたものである。

〈表 26〉 マスターベーションの経験の有無

有	無	男子 (%)	女子 (%)	全体 (%)
1. あ	る	26.9	9.0	18.3
2. な	い	65.4	81.6	73.2
3. 無	答	7.7	9.5	8.5

〈図 41〉 マスターベーションの開始時期 (経験のある生徒)



マスターベーション(オナニー)の経験を有する割合は、男子 26.9%、女子 9.0% となっている。換言すれば、男子は約 4 人に 1 人、女子は 10 人に 1 人の割合で経験していることになる。開始時期については、図 41 から小学校 3・4 年ごろまでさかのぼる早熟な生徒もみられるが、小学校 5・6 年ごろから急にふえ、中学生になると加速度的に増加していることがわかる。

マスターベーションをやめさせようとして、性器が縮むとか病気になるというような医学的に根拠のない説明で、恐怖心にうったえるのは望ましい方法ではなく、身体を動かすスポーツや読書などに性的エネルギーを置換させる指導が大切であると思われる。

(8) 性行動の体験

表 27 は、これまで経験したことのある生徒の性行動の内訳を調査対象生徒数に対する割合で示したものである。また、表 28 は、性行動の体験相手についてまとめたものである。

〈表 27〉 性行動の内訳

内 訳	男子 (%)	女子 (%)	全体 (%)
1. 手をにぎったり、腕を組んだりする	11.5	11.7	11.6
2. デート	7.0	9.1	8.1
3. キス	0.3	1.6	0.9
4. 異性とだきあう	0.7	0.8	0.8
5. ペッティング	0.1	0.2	0.2

(項目別の件数/生徒数 × 100)

項目 1 の「異性と手をにぎったり、腕を組んだり」した経験のある中学生は、男女とも 11% 強となっており、項目 2 の「デート」の経験ある中学生の割合は、男子 7%、女子 9% となっている。

また、中学生にとって、好ましいとは思われない項目3から5までの行動の経験者がいることもわかる。

項目3から5までの女子の割合が男子に比べて高いのは、女子の交際相手は年長者であることと関係があると思われる。表28は、中学生の性行動体験の相手を示している。

〈表28〉 性行動の体験相手

相手	男子	女子	全体
1. 小学生	8.5 %	2.4 %	5.4 %
2. 中学生	(85.4)	(74.1)	(79.6)
下級生	1.2	2.4	1.8
同級(同学年)生	78.1	54.1	65.8
上級生	6.1	17.6	12.0
3. 高校生	1.2	15.3	8.4
4. 大学生	1.2	1.2	1.2
5. 社会人	-	1.2	0.6
6. その他	3.7	5.8	4.8

この表からわかるように、中学生の性行動の体験相手の特徴は、同じ中学生が男子85.4%、女子74.1%と大きい割合となっていることと、女子は男子に比べて、年長者志向型になっていることである。このような傾向は、「親しい異性の友人」の場合(P32)と同様である。

(9) 性知識の多寡意識と性についての情報源

表19は、性知識の多寡意識をまとめたものである。

〈表29〉 性知識の多寡意識

項目	男子	女子	全体
1. 多いほうだと思う	9.1 %	6.4 %	7.8 %
2. 普通だと思う	46.4	51.4	48.8
3. 少ないほうだと思う	37.2	35.2	36.2
4. わからない	7.0	5.8	6.4
無答	0.3	1.2	0.8

性知識が多いほうだと意識している中学生は、男子9.1%、女子6.4%となっており、大部分の生徒は、「普通」ないし「普通以下」だと考えている。

性についての知識は主にどこから得ているかを、メディアと人的情報源の2つにわけて整理すると、表30-1、表30-2となる。表30-1から読みとれるように、「週刊誌・マンガ」は、他のメディアを圧倒しており、46.1%を占めている。これに「テレビ・映画」と「ラジオ」を加えた割合は、実に65%に達する。性についての情報伝達手段としても、これらのメディアは大きな影響力をもっていることがわかる。

また、表30-1からわかるように、「学習雑誌」・「教科書」・「医学書」などを情報源としている生徒の割合は15%程度と小さく、さらにこれを男女別にみると、男子18.9%、女子11.9%

となっており、男子の割合が女子のそれを上回っている。

〈表30-1〉 性の知識源(メディア)

項目	男子	女子	全体
1. 週刊誌・マンガ	39.5 %	53.2 %	46.1 %
2. テレビ・映画	13.6	11.5	12.6
3. ラジオ	10.2	2.2	6.3
4. 学習雑誌	8.5	6.8	7.7
5. 教科書	5.2	2.3	3.8
6. 医学書	5.2	2.8	4.0
7. 小説	4.2	7.1	5.7
8. 婦人雑誌	3.3	3.4	3.3

〈表30-2〉 性の知識源(人)

項目	男子	女子	全体
1. 友人	73.7 %	72.0 %	72.8 %
2. 先輩	9.8	2.8	6.4
3. 教師	4.1	5.2	4.6
4. 親	1.6	6.0	3.7
5. 兄姉	0.7	1.9	1.3
6. 医師	0.7	0.3	0.6
7. 無答, その他	9.4	11.8	10.6

性知識の人的情報源のうちで、「友人」の占める割合は、男女とも他の項目の割合を大きく引き離している。クラスや同学年において、性知識を多くもっているとみなされているリーダー格の生徒の影響が大きいことを物語っているであろう。表30-1と表30-2を総合して、中学生にとって「週刊誌・マンガ」と「友人」は、性に関する二大情報源になっていることがわかる。このことは同時に、中学生は不確かで、わい雑な性情報にとり囲まれ、それらに汚染されていることを意味していると考えられる。

表31-1、表31-2は、それぞれ中学生の性についての希望する情報源を、メディアと人的情報源の2つに分けて整理したものである。表31-1からわかるように、中学生は依然として「週刊誌・マンガ」から性知識を得たいと望んでいるものがもっとも多い。しかし、表30-1と表31-1との比較から、「週刊誌・マンガ」から情報を得ている割合は46.1%、得たいとする割合は36.3%で後者は前者に比べて約10%低くなっている。また、「医学書」・「学習雑誌」・「教科書」の3つの合計割合についてみると、得ている割合が15%強に対して、得たいとする割合は31%強と前者の2倍となっていることが注目される。

次に、表30-2と表31-2を比較してみると、「友人」から性知識を得ている割合は72.8%であるのに対して、得たいとする割合は62.9%で約10%低くなっている。一方、「教師」・「親」・「医師」から性知識を得たいとする割合は、得ている割合よりもそれぞれ2倍ないし10倍となっ

ている。以上の比較から、中学生は、正確でまじめな性知識を求めているといえよう。

〈表 31 - 1〉 生徒の希望する性の知識源 (メディア)

項目	男子	女子	全体
1. 週刊誌・マンガ	35.6 %	36.9 %	36.3 %
2. 医学書	14.7	16.5	15.5
3. 学習雑誌	9.2	7.8	8.4
4. 教科書	8.5	6.7	7.7
5. テレビ・映画	8.5	6.0	7.3
6. 小説	4.4	9.3	6.8
7. ラジオ	8.2	2.0	5.2
8. 婦人雑誌	2.0	6.4	4.1
9. 無答・その他	8.9	8.4	8.7

〈表 31 - 2〉 生徒の希望する性の知識源 (人)

項目	男子	女子	全体
1. 友人	64.9 %	61.0 %	62.9 %
2. 教師	8.3	8.5	8.4
3. 医師	5.8	7.2	6.4
4. 親	3.7	9.0	6.2
5. 先輩	7.4	3.4	5.5
6. 兄姉	0.3	2.1	1.2
7. 無答・その他	9.6	8.8	9.2

表 32 は、生徒が性について知りたいと思っている内容をまとめたものである。

〈表 32〉 性について知りたい内容 (3項目以内選択)

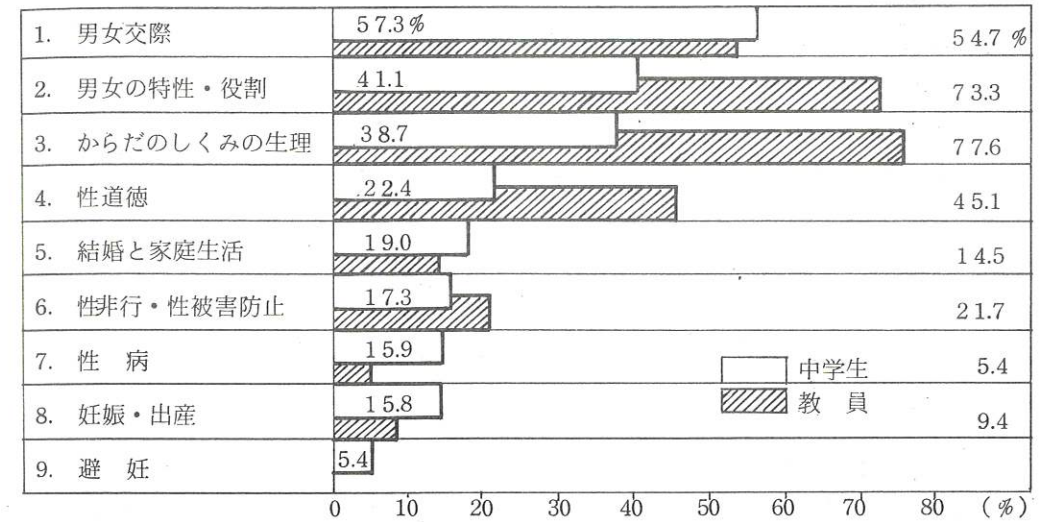
項目	男子	女子	全体
1. 男女交際	54.0 %	60.8 %	57.3 %
2. 男女の特性・役割	46.2	35.7	41.1
3. からだのしくみと生理	41.6	35.7	38.7
4. 性道徳	25.4	19.1	22.4
5. 結婚と家庭生活	16.9	21.3	19.0
6. 性非行・性被害の防止	19.5	14.9	17.3
7. 性病	17.4	14.3	15.9
8. 妊娠・出産	13.9	17.7	15.8
9. 避妊	4.8	6.0	5.4

「男女交際」が57.3%で首位を占め、続いて「男女の特性・役割」が41.1%である。「からだの

しくみと生理」は38.7%で3番目であり、性道徳がこれに続く。項目1・2の割合が大きいのは、異性への関心の高まりを示しているためと思われる。このような意識をとらえた教育をとおして正しい異性観や愛情を育てることが大切であると思われる。

図 42 は、性教育の重点項目に関する教師の考えと、生徒の知りたい内容 (表 32 の全体) をグラフに表し比較したものである。教員と生徒の意識の間に大きなずれがある項目は、「男女の特性・役割」・「からだのしくみと生理」・「性道徳」などであることがわかる。

〈図 42〉 教師の教えたい内容と生徒の知りたい内容



⑩ 性被害の実態と被害防止の心構え

表 33 は、性的被害の有無を、表 34 は、あると答えた者の被害の内訳をまとめたものである。

〈表 33〉 性被害の有無

被害の有無	男子	女子	全体
1. ある	3.9 %	13.9 %	8.7 %
2. なし	93.0	85.3	89.3
3. 無答	3.1	0.8	2.0

〈表 34〉 性被害の内容 (重複選択を含む)

項目	男子	女子	全体
1. 胸やおしりをさわられた	14.3 %	71.4 %	58.2 %
2. 手をにぎられた	14.3	30.0	26.4
3. 衣服をいたずらされた	14.3	22.9	20.9
4. 抱きつかれた	—	15.7	12.1
5. キスされた	4.8	10.0	8.8
6. 下着を盗まれた	4.8	5.7	5.5
7. 性器をいたずらされた	47.5	5.7	15.4

(被害率 被害件数/被害者数 × 100)

性的被害を受けた割合は、男子約4%、女子約14%となっており、女子の方が圧倒的に大きい。性被害の内訳を男女別にみると、「胸やおしりをさわられた」割合が女子にもっとも多く、男子では、「性器をいたずらされた」が首位を占めている。

表35は、加害者の内訳をまとめたものである。

〈表35〉性の加害者

項目	男子	女子	全体
1. 小学生ぐらいの人	11.8%	4.5%	6.0%
2. 中学生ぐらいの人	52.9	50.0	50.7
3. 高校生ぐらいの人	—	15.2	12.0
4. 大学生ぐらいの人	5.9	3.0	3.6
5. おとな	—	22.8	18.1
6. わからない	29.4	4.5	9.6

加害者の特徴は、同年輩の「中学生ぐらいの人」が男女ともほぼ半数を占めていることと、女子の場合、年長者が41%も占めていることである。

表36は、被害防止のためにどうすればよいかについて生徒の意識をまとめたものである。

〈表36〉被害防止の方法

項目	男子	女子	全体
1. 知らない人のさそいに応じない	35.7%	45.8%	40.5%
2. 服装や態度に注意する	20.8	30.3	25.5
3. 取締りやパトロールを強化してもらう	10.0	7.2	8.6
4. 雑誌・テレビ・映画などを規制してもらう	8.7	4.0	6.4
5. 無答・その他	23.9	12.3	18.3

被害防止のためには、「取締り」や「規制」によるべきだとする生徒の割合は15%であるのに対して、「知らない人のさそいに応じない」40.5%、「服装や態度に注意する」が25.5%で両者を合わせて66%になる。自己の心がけの問題だとする生徒の健全な意識がうかがえる。

次に、被害を受けたと答えた女生徒の反省や要望をまとめてみると表37のようになる。「服装や態度に注意」すべきだったとする割合は44.3%と首位を占め、「知らない人のさそい」に気づけなかったと答えている割合は32.9%である。この両者の合計割合が77.1%となっている事実は、性被害防止の指導の上でも重視しなければならないと思われる。

一方、性加害者についてみると、同じ中学生が50%ほどになっていることは前にみたとおりである。即効性には乏しいが、自己制御・相手の人格の尊重・自己中心の反省などの重要性を教える地道な教育が、性教育に含まれるようにしなければならないと思われる。また、項目3～4の取締りや規制の訴えにおとなの社会は耳を傾けなければなるまい。

〈表37〉性被害についての反省・要望

項目	女子
1. 服装や態度に注意する	44.3%
2. 知らない人のさそいに応じない	22.9
3. 取締りやパトロールの強化	14.3
4. 性的刺激を与える雑誌・テレビ・映画等の規制	7.1
5. 無答・その他	1.4

① 要約

アンケートの調査結果をまとめてみると、次のようになる。

- ① 「親しい異性の友人」のいる割合は、中学生全体で14.4%であり、男女別にみると、男子16.3%、女子12.4%となっている。
- ② 「交際相手」は自校の中学生が圧倒的に多い。女子は年長者を選ぶ傾向がある。
- ③ 異性の交際相手のいない中学生で、それを欲しいと思っている割合は、男子約30%、女子約38%である。
- ④ 1対1の男女交際は自由でよいと考える中学生は、男子約67%、女子約55%である。「親が認めれば」という条件付きを含めると、1対1の男女交際に約90%の生徒が賛成している。
- ⑤ 男女交際の限界については、「手をにぎったり、腕を組んだり」する程度までとする生徒が約90%である。
- ⑥ 性知識の情報源としては、マスコミが大きく、とくに「週刊誌・マンガ」が首位を占め、人的情報源としては、「友人」が他を圧倒している。
- ⑦ 性についての不安や悩みをもつ中学生は、男子約10人に1人、女子約4人に1人の割合になっている。不安や悩みの主な内容は、男子の場合、性器とマスターベーションであり、女子の場合、メンス、乳房である。
- ⑧ マスターベーションの経験者は、男子は約4人に1人、女子は約10人に1人の割合である。
- ⑨ 生徒が性について知りたい内容は、生理的なものよりも「男女交際」・「男女の特性・役割」などの社会的・心理的な面である。また、教師が教えようとしている内容と生徒の知りたがっている内容とにずれがある。
- ⑩ 女子性被害者の反省として、「服装や態度」に注意し、「知らない人のさそい」に気づけなかったとする割合が、約70%となっている。

3 高校生

(1) 男女交際の相手と心構え

「現在特に親しくしている異性がいる」と答えている生徒は、男子27.3%、女子26.5%と男女とも全体の約30%である。

交際相手について、男女別に比較すると表38のようになる。

〈表38〉 交際相手

	男子	女子	全体
1. 中学生	0.7%	0.0%	0.4%
2. 高校生	(95.1)	(87.6)	(91.1)
自校の下級生	4.4	1.3	2.8
同級(同学年)生	27.6	18.8	23.1
自校の上級生	5.1	13.3	9.2
他校生(同中卒)	29.7	29.2	29.4
他校生(他中卒)	28.3	25.0	26.6
3. 大学生	0.7	3.5	2.1
4. 社会人・その他	2.1	7.6	5.0

自校生と交際している生徒の割合は、男子37.1%、女子35.1%であり、その大多数は同級生(同学年生)を交際相手としている。これに対し、他校生と交際している生徒の割合は、男子58.0%、女子54.2%と、どちらも自校生と交際している生徒の割合よりも大きい。

女子は男子に比べ、上級生、大学生および社会人などの年長者を交際相手として選ぶ傾向がある。次に交際する場合の心構えについてみてみると表39のようになる。

〈表39〉 異性と交際する場合の心構え

	男子	女子	全体
1. 明るく、けじめをつける	24.4%	31.8%	28.3%
2. 自分で責任をとれるようにする	21.6	23.2	22.4
3. 家の人に心配かけない	14.5	16.8	15.7
4. 相手の気持ちを常に尊重する	19.7	9.6	14.5
5. 自分の考えをはっきり言う	12.7	11.3	12.0
6. 金品のことで負担をかけない	4.2	4.5	4.3
7. 服装や身だしなみに注意する	1.8	1.7	1.7
8. 周囲に目立たないようにする	0.9	0.7	0.8

男女とも「明るく、けじめをつける」と答えているものももっとも多く、次に多いのが「自分で責任をとれるようにする」である。ところが、第3番目に多いものをみると、男子では「相手の気

持を常に尊重する」(女子では第5番目)であるが、女子の方は「家の人に心配をかけないようにする」(男子では第4番目)となっており、両者に微妙な違いがみられる。

不健全な交際に陥りやすい「周囲に目立たないようにする」という考えをもっているものは、ごくわずかである。

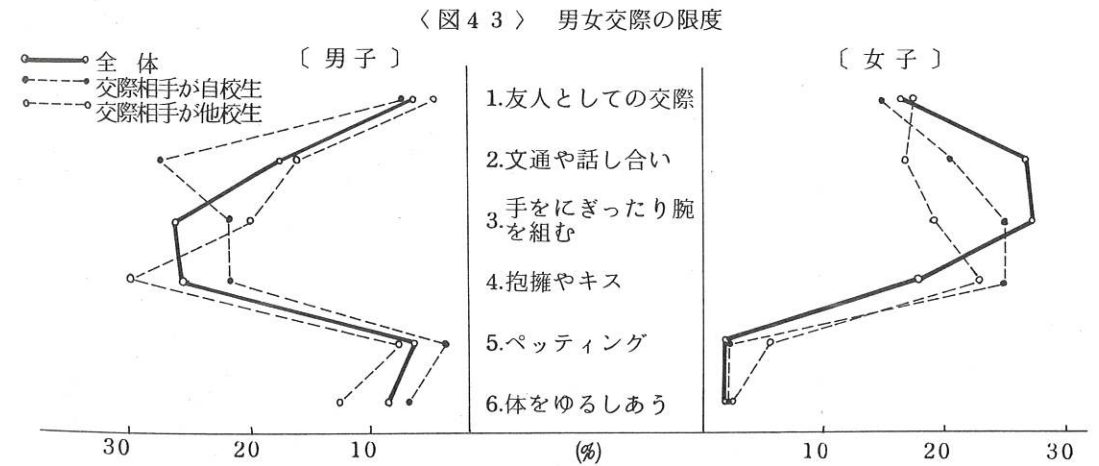
異性の交際相手ができたら親に話すか、という問に対し、「話す」と答えている生徒は、男子11.5%、女子27.9%であるが、それに「聞かれたら話す」という生徒を加えると、男子53.4%、女子60.9%となり、男女とも過半数が親に話すつもりである。ただし、自分から話す生徒よりも、聞かれたら話す生徒の方が多いので、親からの働きかけが必要である。とくに男子においてその傾向が強い。

ここで、「親に話す」と答えている生徒についてみてみると、男子の性行動体験率が各項目とも高く、女子においては、1対1の男女交際の限度についてみると、手をにぎったりキスする程度までとするものが「親に話さない」という生徒よりも多い。また、抱擁、キス、ペッティング、性交のいずれかを体験した女子をみると、その40.4%が「親に話す」と答えている。親としては、子供が交際相手のことを話してくれた時、ただそれだけで安心してしまふことなく、常にどのような交際が行われているかに心をくばり、健全な男女交際となるよう注意しなければならないだろう。

(2) 男女交際の限度

特定の異性との親しい交際が、「学習の励みになる」と答えているものは、男女全体で25.9%であり、女子の方が男子よりもやや多くなっている。一方、「障害になる」というものについては、男女の差がみられず、全体で5.9%とかなり少ない。さらに1対1の交際についてみて、「避けたほうがよい」というものは、女子が男子よりやや多いものの、全体で2.0%とごくわずかであり、男女交際については積極的であることがうかがわれる。とくに「自由でよい」というものは、男子が92.1%と女子の78.7%を上回り、男子の方が積極的といえる。

それでは、高校生は1対1の男女交際の限度について、どのような考えをもっているのだろうか。これを、男女別に分けて、全体及び、自校生と交際している生徒並びに他校生と交際している生徒について比較したのが図43である。



まず、男子全体及び女子全体についてみると、次のようなことがいえる。

「友人としての交際にとどめる」・「文通や話し合う程度」とするものを合わせると、女子が43.0%と男子の24.6%をはるかに上回っている。このことから女子の方が、男女交際に精神的な交流を求める傾向が強いといえる。また、「手をにぎったり腕を組んだりする程度」とするものは男女ともほぼ同じ割合を占めている。

「ペッティング」や「体をゆるしあう」までとするものは、女子はごくわずかであり、男子でもいずれも10%未満である。大部分の高校生は、ペッティングや性交を、男女交際の限度外として考えている。

一方、抱擁、キス、ペッティング、性交などを認める生徒を合わせた割合は、男子40.5%と女子21.2%を大幅に上回っている。男子の方が、直接肉体的な接触をとまなう交際をより強く意識しているといえる。

次に自校生と交際している生徒と他校生と交際している生徒について、男女交際の限度をどう考えているかをみている。

まず男子について、差の大きい項目をみると、「文通や話し合う程度」までとするものは、自校生と交際している生徒の方が多く、「抱きあったりキスをする」・「ペッティング」・「体をゆるしあう」までとするものは、いずれも他校生と交際している生徒の方が多くなっている。すなわち、自校生と交際している生徒は、男女交際の限度については控え目であり、精神的な交流を求めようとする傾向が強い。これに対し他校生と交際している生徒は、交際の限度については積極的な考えをもち、直接肉体的な接触をとまなう交際を意識しているのではないだろうか。

一方女子では、自校生と交際している生徒と他校生と交際している生徒の間に、特徴的な差異はみられず、女子全体と比較すると、どちらも男女交際の限度については積極的な考えをもっている。交際相手のいない女子については、女子全体とほぼ同じパターンを示している。

これらのことから、男子では、交際相手の有無よりも、交際相手が自校生であるか他校生であるかによって、男女交際の限度についての考えが異なり、女子の場合は、交際相手の有無により、すでに考え方が異なっており、相手が他校生であるか自校生であるかによる差異は少ないといえる。

最後に、生徒のもっている男女交際の限度についての考えと実際の性行動体験との関係を探ってみる。各限度項目の考えをもつ生徒について、その性行動体験率をまとめたものが表40である。なお、男女ともほぼ同じ傾向を示すので、男子についてのみ表示する。

〈表40〉 各交際限度を考えている生徒の性行動体験率 (男子)

交際の限度	性行動					
	(デート)	(手をにぎる)	(抱きあう)	(キス)	(ペッティング)	(性交)
1. 友人としての交際	32.4%	14.7%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%
2. 文通や話し合い	40.4	24.7	3.4	4.5	1.1	0.0
3. 手をにぎる	50.8	38.5	7.7	6.9	3.8	3.1
4. キス	54.8	57.0	14.1	13.3	1.6	0.0
5. ペッティング	71.0	58.1	25.8	29.0	22.6	3.2
6. 性交	72.1	67.4	46.5	34.9	25.6	16.3

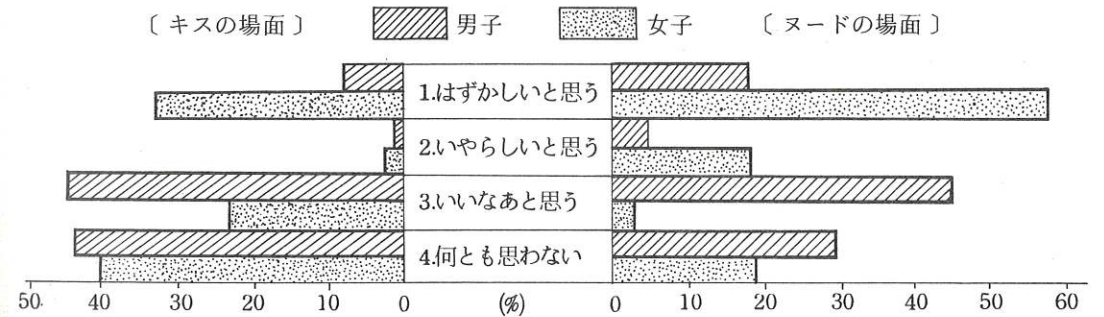
この表でみると、キスまでが限度であると考えている生徒では、その54.8%がデートを体験しており、手をにぎったことがあるものは57.0%、抱擁体験者は14.1%、キス体験者は13.3%と漸減する。ペッティング及び性交になると、それぞれ1.6%、0.0%と激減している。その他の内容までを限度と考えている生徒についても、同様の傾向がみられる。すなわち、自分が交際限度と考えている性行動までは、漸減するものの、かなりの生徒が体験している。しかし、それ以上の性行動体験者はごく少数である。このことから、表40の項目1及び項目2をみると、高校生が「友人としての交際」とか「文通や話し合い」という時は、デートや手をにぎる程度までのことを意識しているのではないだろうか。

(3) マスコミの性情報

週刊誌や映画・テレビなどにでてくる性に関することについて、男子は94.0%、女子では89.8%が関心をもっていると答えており、両者に差異はみられない。しかしその取り扱いに対する考えをみると、「自由に表現してよい」というものは、男子が59.7%と女子の26.1%を大きく上回り、「露骨すぎてよくない」というものでは、女子の方が23.6%と男子の10.4%を上回っている。

また、雑誌や映画・テレビのキスやヌードの場面には次のような反応を示している。

〈図44〉 キスやヌードの場面に対する反応



キスの場面については、男女とも拒否反応はごくわずかである。一方、ヌードの場面については、女子が男子よりも強い拒否反応を示している。男子は、両方の場面に対して「いいなあと思う」ものが多いのに対し、女子は「はずかしいと思う」ものが多い。とくにヌードの場面に対する男女の差異が対照的である。

(4) 性に関する悩みや不安

性に関する悩みや不安をもっている生徒は、男子が20.9%、女子が25.1%で、女子の方がやや多い。悩みや不安の内容をみると表41のようになっている。

男子では「性器に関すること」・「マスターベーション」・「性病」が多く、女子では「乳房の発達」・「メンス」・「性器に関すること」が多い。悩みや不安があるという男子の約70%が「性器に関すること」をあげている点に注意する必要がある。悩みの性質からみて、性器に関することについては、生理上の科学的な知識を与えてやることで解決する場合が少なくないものと考えられる。

〈表41〉 性に関する悩みや不安 (⊕⊖印は全体と比較して、10%近い差があるもの)

項目	高校生全体		他校生と交際している生徒		性行動を体験した生徒 [⊕]	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1. 性器に関すること	69.8%	30.9%	⊖57.9%	25.0%	⊖50.0%	⊕40.0%
2. マスターベーション	35.9	9.6	⊖21.1	8.3	⊖22.7	10.0
3. 性病	32.1	13.2	31.6	16.7	⊕45.5	10.0
4. 避妊	11.3	9.6	⊕26.3	⊕25.0	⊕31.8	⊕30.0
5. 夢精・メンス	7.5	41.2	5.3	⊖20.8	0.0	⊖20.0
6. 妊娠・中絶	5.7	11.8	⊕21.1	⊕20.8	⊕22.7	⊕20.0
7. 陰毛	2.8	3.7	0.0	8.3	0.0	0.0
8. 乳房の発達	0.0	41.8	0.0	45.9	0.0	40.0

(2項目選択) (⊕ 全生徒のなかで、抱擁、キス、ペッチングまたは性交のいずれかを体験したもの)

悩みや不安がある生徒のうち、うちあけたり相談したりしているものは、男子20.8%、女子39.7%であり、大部分の生徒はだれにも相談できずに、自分ひとりで悩んでいるのではないだろうか。

相談相手としてもっとも多くあげているのが「友人・先輩」であり、男子では86.5%に達し、女子はやや少ないものの66.7%である。このように、友人・先輩の占める割合が大きくなっているのは、性に関する悩みや不安に限らず、すべてについて友人・先輩を頼りにしている、この年代の特徴のあらわれであろう。しかし、これらの悩みや不安は、友人・先輩の不正確な知識や興味本位的な考えによって、かえって助長されているのではないかと懸念される。

肉親に相談するというものは、女子が27.8%と男子の9.0%を大きく上回っている。これは、メンスに関する相談などが含まれているためと考えられる。なお、教員に相談するというものは男女とも皆無である。

交際相手がいるという生徒についてみると、悩みや不安があるというものが、男女とも、交際相手のいない生徒よりかなり多くなっている。そこで、交際相手がいる生徒の悩みや不安の内容を考察してみる。なかでも、男女交際の限度に対し積極的な考えをもつ、他校生と交際している生徒(図43参照)についてまとめると表41のようになる。これによると、男子では「性器に関すること」・「マスターベーション」といった、自分の身体に関するものの占める割合が減少し、「避妊」・「妊娠・中絶」などの性交にかかわる悩みが大きな割合を占めている。また、男子全体の中で抱擁、キス、ペッチング及び性交のいずれかを体験した生徒についてみると、「避妊」・「妊娠・中絶」の占める割合がいっそう大きくなっており、とくに「性病」の増加が著しい。

女子についても、他校生と交際している生徒では、「メンス」の占める割合が女子全体よりも小さく、「避妊」・「妊娠・中絶」の割合が大きくなっており、男子と同様の傾向がみられる。

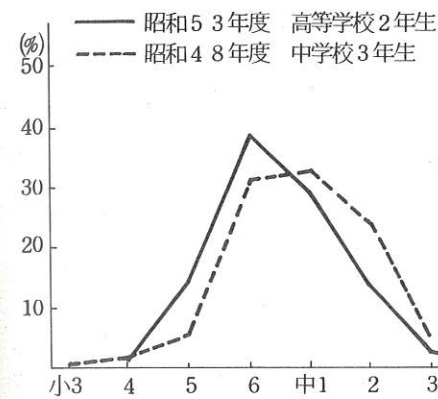
「避妊」・「妊娠・中絶」に関する悩みや不安をいただくものが、親しい異性がある生徒、とくに他校生と交際している生徒の中に多いことは、男女交際のなかに、性交までを意識している生徒が多いのではないだろうか。

(5) 男女の性生理

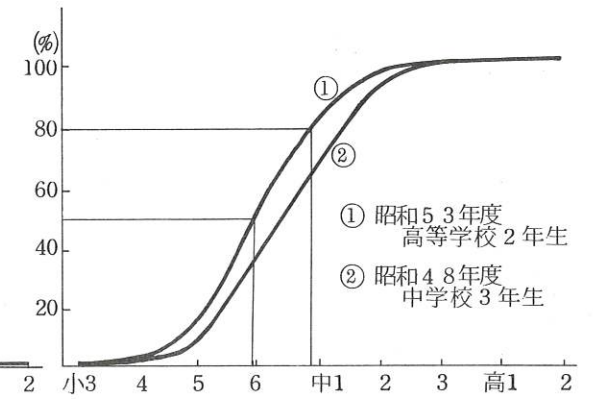
① 成熟について

昭和53年度高等学校2年生の女子について、何年生の時、どれだけの初潮者があったか(初潮率)を示したのが図45である。また、その時までには初潮を経験している生徒の割合(既潮率)を示すと図46のようになる。女子の初潮がどれだけ早まっているかを比較するために、昭和48年8月に、中学校3年生を対象に行った調査結果を両図に示してある。昭和53年度の高校2年生は、昭和54年4月1日現在17歳であり、昭和48年度の中学3年生(昭和54年4月1日現在20歳)より3歳年少の生徒である。

〈図45〉 初潮率



〈図46〉 既潮率



昭和53年度の高校2年生では、小学6年において初潮率が最大となっており、この時までには54.1%の女子がメンスを経験している。中学1年では、既潮率が83.1%に達している。

昭和48年度の中学2年生では、中学1年の時に初潮率が最大となっており、その時の既潮率は65.6%である。

図46から、昭和53年度の高校2年生について、既潮率が50%に達した時点と求めると、小学6年の3学期後半頃と推定される。また、80%の生徒がメンスを経験したのは中学1年の3学期中頃と推定される。これを、昭和48年度の中学3年生と比較すると、既潮率が50%及び80%に達した時期は、いずれも昭和53年度の高校2年生の方が早くなっており、早熟化傾向が顕著に表れている。しかし、どちらの生徒も、中学3年までにはほぼ全員が初潮をむかえている。

次に男子について、何年生の時、どれだけの精通経験者があったか(精通率)を示したのが図47であり、その時までの精通経験者累計を示したのが図48である。女子の場合と同様、比較資料として、昭和48年度中学3年生のデータを合わせて図示する。ただし、中学3年の8月に調査したデータであるため、中学3年における精通経験者累計の横軸を8月に補正した上でグラフを求めてある。

昭和53年度の高校2年生では、中学1年の精通率が最大であり、この時までには男子の57.6%が精通を経験している。中学3年の1学期中に、精通経験者累計が90%に達していると推定される。

昭和48年度の中学3年生では、中学2年の時に精通率が最大であり、この時までの精通経験者は68.5%である。

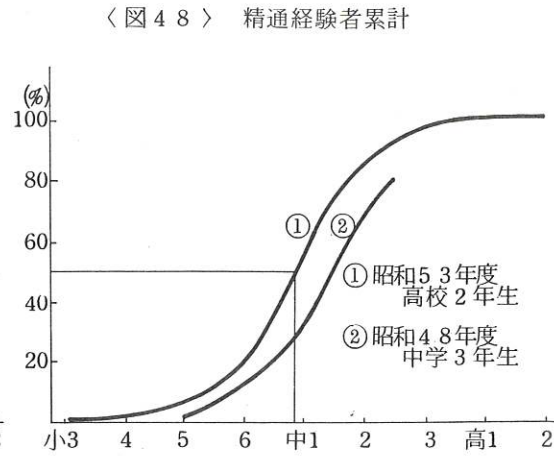
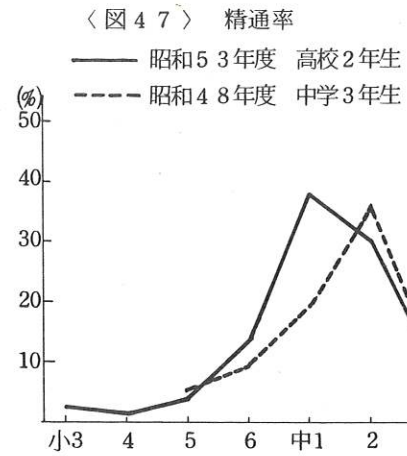


図48から、昭和53年度の高校2年生について、精通経験者累計が50%に達した時点を探ると、中学1年の3学期中頃と推定される。これを昭和48年度の中学3年生と比較すると、精通を経験したものが半数に達した時期は、昭和53年度高校2年生の方が早くなっており、女子と同様男子についても早熟化傾向が顕著にうかがわれる。

② 性欲について

日常生活の中で、性欲を感じる事が「時々ある」と答えている生徒は、男子の場合、74.4%と、「あまりない」と答えている生徒の25.5%を大きく上回っている。一方女子では、22.2%だけであり、大部分の生徒(77.3%)は「あまりない」と答えている。

性欲の発散についてみると、男子の方が「スポーツをする」・「マスターベーション」などの行動的な方法を取り、女子は「学習や趣味に励む」といった昇華的な方法をとる傾向がみられる。

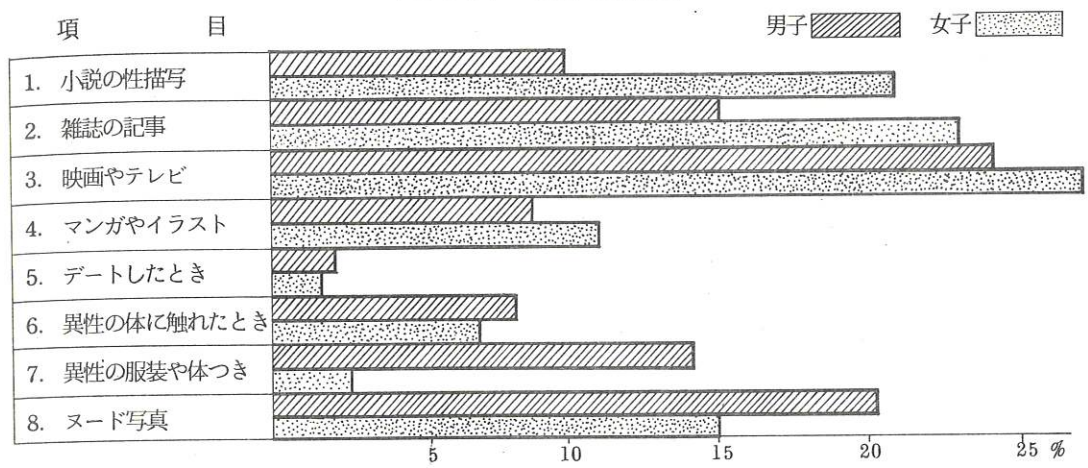
自校生と交際している男子と他校生と交際している男子との間に対照的な差異がみられる。性欲を感じる事が「時々ある」と答えているものが、自校生と交際している男子では60.8%と男子全体よりも少ないが、他校生と交際している男子では86.3%とかなり多くなっている。また性欲の発散についても違いがみられ、前者には、スポーツ、異性と話し合うというものの割合が大きく、後者ではマスターベーションの占める割合が大きい。

③ 性的な刺激源

性的な刺激を受けるものとして、3項目以内選択させたものをまとめたのが図49である。これによると、小説の性描写や雑誌の記事といった文字による刺激に対しては、女子の方が44.1%と男子の25.1%より高い反応を示している。これに対して、異性の服装やからだつき、ヌード写真などの直接視覚に訴える刺激に対しては、男子の方が34.5%と女子の8.3%よりはるかに高い反応を示している。映画やテレビの性に関するシーンからは、男女とももっとも多くのもが性刺激を受け

ている。デートや異性の体に触れた時に受ける性刺激には、男女差が認められない。

〈図49〉 性的な刺激源



④ 性行動について

特徴的な生徒群について、その性行動体験率を比較したのが表42-1、表42-2である。

〈表42-1〉 性行動の体験 〈男子〉

生徒群	性行動					
	(デート)	(手をにぎる)	(抱きあう)	(キス)	(ペッティング)	(性交)
男子全体	52.0%	44.0%	14.0%	12.8%	6.1%	2.6%
1. 交際相手がいる	88.4	69.6	29.0	26.8	12.3	7.2
2. 交際相手がない	37.8	34.5	8.2	7.7	3.8	0.8
3. 交際相手が自校生	90.2	60.8	21.6	19.6	9.8	5.9
4. 交際相手が他校生	88.8	75.0	31.3	27.5	11.3	6.3
5. 交際相手を親に話す	62.1	48.3	19.0	13.8	10.3	3.4
6. 悩みや不安がある	60.4	55.7	17.9	14.2	14.2	4.7

〈表42-2〉 性行動の体験 〈女子〉

生徒群	性行動					
	(デート)	(手をにぎる)	(抱きあう)	(キス)	(ペッティング)	(性交)
女子全体	49.3%	26.6%	7.4%	7.8%	2.6%	0.7%
1. 交際相手がいる	88.9	53.5	20.8	23.6	7.6	2.1
2. 交際相手がない	34.9	16.8	2.5	2.0	0.8	0.3
3. 交際相手が自校生	97.9	56.3	18.8	20.8	4.2	0.0
4. 交際相手が他校生	85.9	50.0	17.9	21.8	9.0	2.6
5. 交際相手を親に話す	53.0	29.1	10.6	11.3	3.3	0.7
6. 悩みや不安がある	54.5	47.1	15.7	15.4	8.2	3.5
7. 性被害を受けたことがある	64.9	43.9	17.5	18.4	6.1	2.1

2つの表から、現在交際相手がいない生徒でも、どの性行動をも体験していることがわかる。これらの体験者は、かつて男女交際をしていた生徒と考えられるが、軽い気持で性行動を体験した生徒もいるのではないだろうか。たとえば、抱擁、キス、ペッティング及び性交のいずれかを体験した生徒についてみると、男子の実に45.1%に当る生徒が、現在交際相手がいないと答えているのである。キスや性交といった性行動の内容から考えると、その体験相手と交際していないというものが、少なくとも約半数にも達しているということは、その性行動がまじめな男女交際のなかで体験されたものばかりとは言えないであろう。

次に特徴的な生徒群の性行動体験を考察する。他校生と交際している男子では、手をにぎる、抱きあう、キスなどの体験率が、自校生と交際している男子よりも高い。女子の場合、交際相手が自校生であるか他校生であるかによる差異はみられない。このことは、前に述べたように、他校生と交際している男子の方が自校生と交際している男子より、男女交際の限度について積極的な考えをもっており、女子にはこのような差異がみられないことと一致している。

「交際相手を親に話す」及び「悩みや不安がある」という生徒では、男女とも各性行動の体験率が全体のそれよりも高い。

「性被害を受けたことがある」という女子では、各性行動ともかなり高い体験率を示している。性行動の体験相手をみると表43のようになる。

〈表43〉 性行動の体験相手

	男子	女子	全体
1. 中学生	3.5%	1.1%	2.4%
2. 高校生	(93.4)	(87.4)	(90.6)
自校の下級生	2.9	0.0	1.5
同級(同学年生)	44.8	29.7	37.8
自校の上級生	4.1	13.8	8.6
他校生	41.6	43.9	42.7
3. 大学生	0.3	3.3	1.7
4. 社会人・その他	2.8	8.2	5.3

女子では、年長者の占める割合が男子よりも大きくなっており、交際相手のところでみたことと一致している。ところが、体験相手が大学生や社会人であった女子についてみると、その55.6%が現在交際相手がいないと答えている。安易な気持で大学生や社会人と交際し、これらの性行動を体験してしまう生徒もいるのではないだろうか。男女交際の指導に当たって、年長者との交際については、十分な配慮が必要である。なお、男子については、体験相手が大学生や社会人であるという数がきわめて少なく、厳密な比較はできないのであるが、女子にみられるような傾向は認められない。

(6) 純潔

① 純潔についての解釈

「純潔」ということをどのように理解しているかを示したのが表44である。

〈表44〉 高校生の純潔観

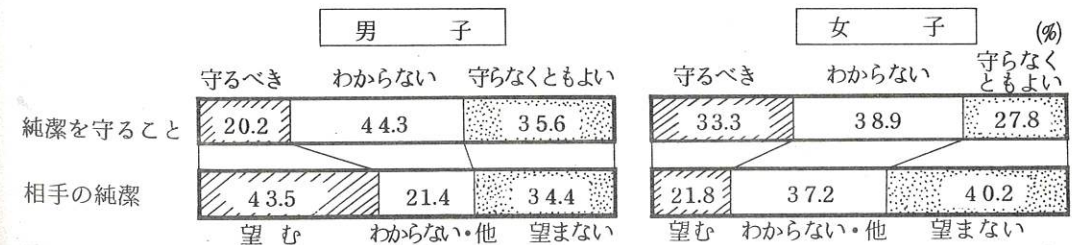
項目	性別		全体
	男子	女子	
1. 異性の肉体に興味や関心をもたないこと	5.3%	2.0%	3.6%
2. 愛情があっても異性のからだに触れないこと	11.2	11.2	11.3
3. 愛情があっても性交をおこなわないこと	16.8	30.5	23.9
4. 愛情なしに異性のからだに触れないこと	16.6	13.0	14.7
5. 愛情のない性交をおこなわないこと	50.1	43.1	46.5

愛情の有無にかかわらず性交をおこなわないことが「純潔」とするもの(項目3と項目5)が男子で66.9%、女子では73.6%に達している。項目5を裏返して考えれば、「愛情のある性交」を「純潔である」と考えるものは、男子が50.1%と女子の43.1%より多く、逆にそれを「純潔でない」と考えるもの(項目3)は、女子の方が30.5%と男子の16.8%を上回っている。

② 純潔観

結婚まで純潔を守ることについてどう思うかを表44の回答割合がもっとも多い生徒群についてみってみる。「愛情のない性交をおこなわないこと」が「純潔」と考えている生徒(項目5)をみると、男子では「守らなくてよい」という生徒の方が「守るべきだ」という生徒より多く、女子では「守るべきである」という生徒の方が多い。ところが「結婚する相手が純潔であることを望むか」という質問に対し、「望む」というものの方が多いのは男子であり、女子では「必ずしも望まない」というものの方が多い。男女間に微妙な違いがみられる。(図50参照)

〈図50〉 結婚までの純潔



純潔は守らなくともよいと答えた生徒があげている、守らなくともよい理由をみると、男女とも「愛情があればよいことだから」というのがもっとも多く、約半数を占めている。また「自分で責任をとればよいことだから」という理由も、女子で約30%のものがあげている。高校生のいう「愛情がある」及び「自分で責任をとる」とはどういうことなのかを、もっと明確にし、真の愛情や

本当の意味での責任というものを指導する必要があると考えられる。

(7) 性知識

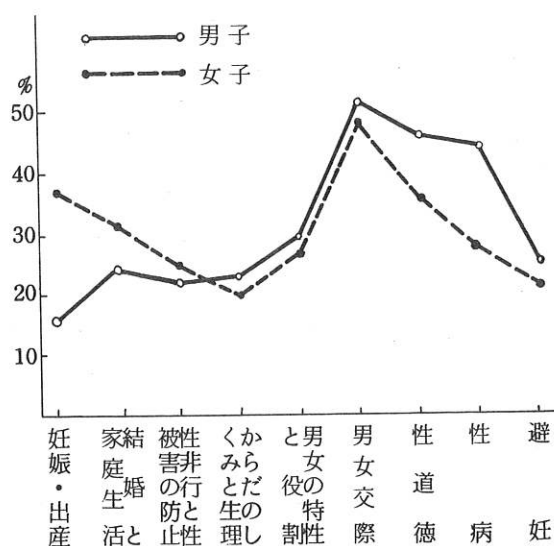
性知識の情報源、内容、知りたいと思っていることなどについて考察してみる。情報源としては、男女とも週刊誌・マンガが圧倒的に多く(男子74.4%、女子63.5%)、次に続く、男子のテレビ・映画(6.6%)、女子の婦人雑誌(9.1%)を大きく引き離している。また人的情報源についてみると、男子の89.8%、女子の92.7%が友人から性知識を得ており、あとはごくわずかである。

性知識の多面性から考えると、その情報源も多方面にわたっていなければならないのであるが、生徒のあげた情報源の中で、週刊誌・マンガ及び友人の占める割合だけが極端に高くなっている。このことから、生徒の持っている性知識は、基本的内容より興味本位的なものに片寄り、科学的にみると誤っているものが多いのではないかと懸念される。

知識量に対する意識をみると、多いほうだと思っている生徒(8.2%)より、少ないほうだと思っている生徒(20.2%)の方が多く、大部分の生徒が普通だと思っている。各項目に対して「知っている」と答えているものの割合を比較すると、男子の方が女子よりも性知識が豊富である。抱擁、キス、ペッチャング及び性交のいずれかを体験している生徒では、男女とも「狩野式」・「りん病」・「フリーセックス」・「人工妊娠中絶」・「婚前交渉」について、「知っている」と答えている割合がかなり高くなっている。男女交際が進むにつれ、性知識も豊富になる傾向がみられる。ところがその内容を見ると、性意識を刺激するものが多い。これらの知識によって男女交際が不健全なものにならぬよう、指導にあたっては充分注意する必要がある。

知りたいと思っている内容を男女別に比較したのが図51である。また、生徒が知りたいと思っていることと、性教育は必要であると考えている教員が「性教育を行う場合、力を入れるべき内容」としてあげていることを比較してみると図52のようになる。教員については昭和52年度の調査資料による。なお「避妊」については生徒にのみ設問してあるので図52から割愛した。

〈図51〉 知りたいと思う内容



〈図52〉 生徒が知りたい内容と教員が力を入れるべきだとする内容

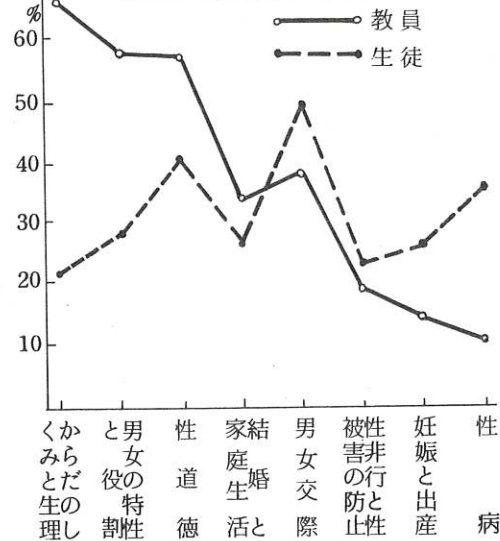


図51をみると、男女とも、もっとも多くのものが知りたいとしているのは「男女交際」についてであり、男子が51.2%、女子が47.6%となっている。

「妊娠・出産」については、女子の方が男子よりも強い関心をもっているが(女子36.9%、男子15.6%)、「性病」については男子の44.3%が知りたいと思っており、女子(27.5%)より関心が強い。また「結婚と家庭生活」・「性非行・性被害の防止」については、女子の方がやゝ多く、「性道徳」・「避妊」については男子が多くなっているなど、男女の微妙な違いが対照的にあらわれている。

「性に関する悩みや不安がある」という男女、「抱擁やキスなどの体験がある」男子では、「避妊」・「妊娠・出産」・「性病」について、「抱擁やキスなどの体験がある」女子では、「避妊」について知りたいという生徒の割合が大きくなっている。

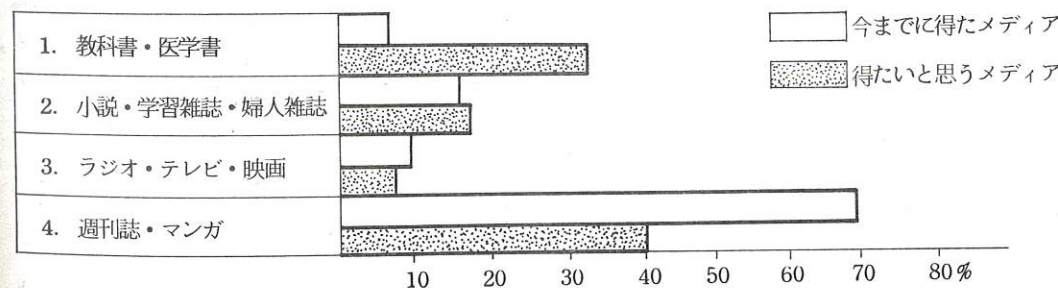
また、自校生と交際している女子と他校生と交際している女子の知りたいと思う内容に違いがみられる。自校生と交際している女子の方が多く知りたいと思っているのは「男女の特性と役割」・「男女交際」・「性道徳」についてであり、他校生と交際している女子の方が多いのは「性非行と性被害の防止」・「避妊」・「性病」についてである。大学生や社会人と交際している女子については、数が少ないので比較できない。男子については、このような差異がみられなかった。これらの相違が何に起因しているかを明確にしたうえで、男女交際の指導にあたる必要があると思われる。

次に、図52から教員と生徒の考え方の相違を考察してみる。教員は、「からだのしくみと生理」・「男女の特性と役割」・「性道徳」といった、生理的、抽象的内容に力を入れようとしている。これに対して、生徒の方は「男女交際」・「性非行と性被害の防止」・「妊娠と出産」・「性病」などの、実際の、具体的な知識を求めている。

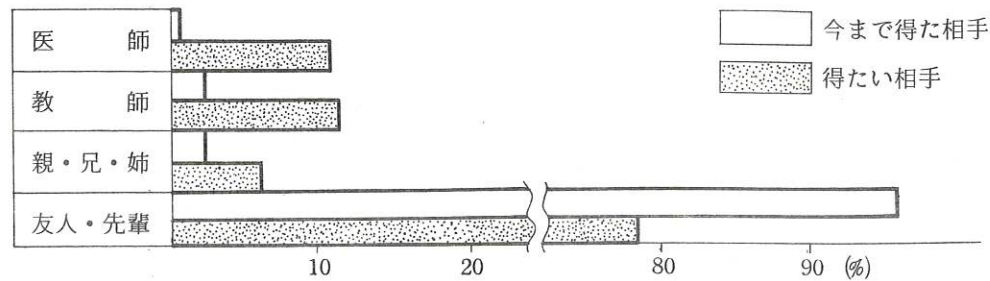
性教育を行う場合、生徒が知りたがっていることを、そのまま取り入れることには多くの問題がある。かといって、教員の考え方を固守すれば、生徒の実態から遊離するだけである。教員と生徒の間にあるこのような違いを充分認識したうえで指導にあたる必要がある。

性知識の情報源をメディアと人的情報源に分け、これについて、これまで得たものとこれから得たいと思っているものの割合を比較したのが、図53-1及び図53-2である。

〈図53-1〉 メディア



〈図53-2〉 人的情報源



週刊誌やマンガ及び友人・先輩から知識を得ている割合が非常に大きいのであるが、そこから得たいと思っている割合はそれよりかなり小さい。ところが、教科書や医学書及び医師や教師から知識を得たいと思っている割合に比べ、実際にそこから得ている割合がきわめて小さく、生徒の希望がほとんどかなえられていないことがわかる。これらの希望がかなえられればかなえられるほど、さらに希望者が増加し、逆に週刊誌・マンガ及び友人・先輩から知識を得たいと思うものが減少するのではないだろうか。これらの希望がかなえられるような環境を作ってやることも、性教育の課題の一つであろう。

(8) 性被害

高校生全体に関する、被害者数、被害内容及び加害者については、2 児童・生徒の問題行動と被害(P13)で述べたとおりである。表45は女子の各生徒群について、性被害を受けた生徒の割合、被害者1人当りの被害件数及び主な内容をまとめたものである。

〈表45〉 性被害率、被害者1人当りの件数

生徒群	被害率	1人当りの件数	主な内容
女子全体	21.0%	1.63	
1 交際相手がいる	29.2	1.93	衣服のいたずら, キス
2 他校生と交際している	26.9	2.14	衣服のいたずら, キス
3 悩みや不安がある	29.4	1.85	胸などをさわられた
4 抱擁以上の体験がある	48.9	2.22	抱きつかれた, キス, 下着盗難

「悩みや不安がある」という生徒の悩みや不安の内容をみると、性被害と直接関係あるとは考えられないものの割合が大きい。異性との交際が積極的であるために、悩みや不安を生じ、さらにはその積極性が、性被害をも招いているのではないだろうか。異性との交際が非常に積極的といえる、抱擁以上の体験がある生徒では、約2人に1人が何らかの性被害を受けている。しかも1人当たりの被害件数が2.22件とかなり高くなっている。

(9) 性被害の防止

「性被害を防ぐにはどうしたらよいと思うか」という設問に対し、「服装や態度に注意する」(40.6%)というものと、「知らない人のさそいに応じない」(36.8%)というものを合わせると、

77.4%に達し、大部分の生徒は自分自身で注意することであると考えている。パトロール強化やマスコミの規制という、他人を頼る考えをもつものはいずれも10%未満である。性被害の防止について男女ともほぼ同じような考え方をしている。

性被害の防止策を考えるために、被害を受けたもの(女子)にみられる特徴を要約してみる。

ア、被害を受けたことがない生徒に比べ、親しい異性がいるというものの割合が大きい。

イ、男女交際の限度についてはかなり積極的な考えをもっている。

ウ、性行動の体験率が各項目ともかなり高い。とくに体験率が高いのは「デート」「手をにぎったり腕を組む」「抱きあう」「キス」である。

エ、性に関する悩みや不安をもつものが多い。しかし、悩みや不安の内容をみると、各項目の割合には、被害を受けたことがない生徒との差異は認められない。被害と直接関係ある悩みや不安は少ないようである。

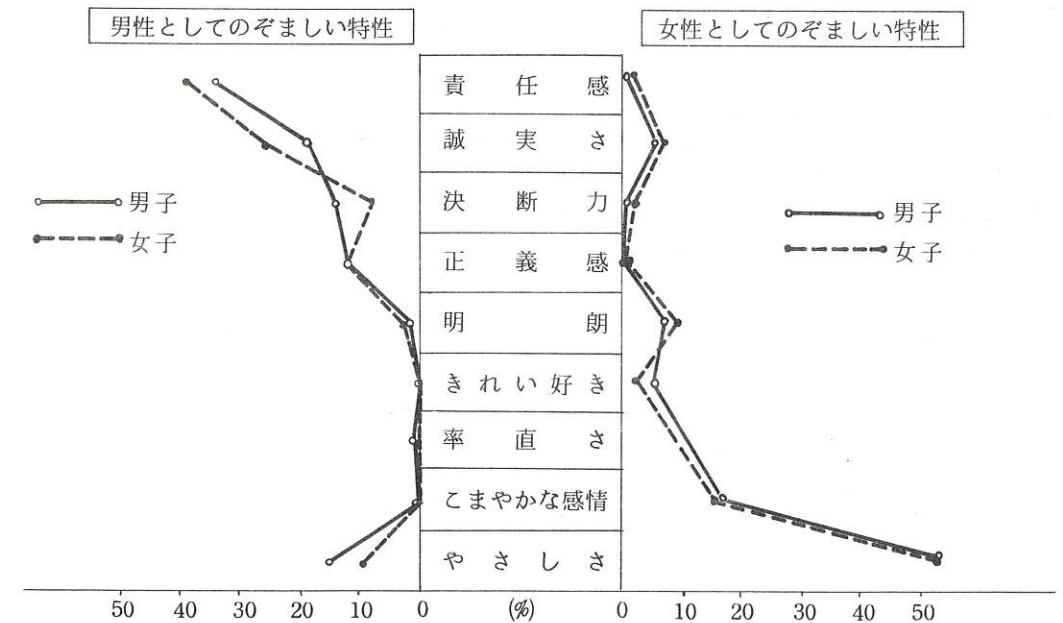
オ、性被害の防止に対する考えに甘さがみられる。たとえば「服装や態度に注意する」と考えるものの割合は女子全体のそれよりもかなり小さく、「取り締りやパトロールを強化してもらう」と考えるものは25.4%にも達している。

これらの特徴をみると、被害者自身が被害を招いているケースがかなりあるのではないだろうか。取り締りやパトロールを強化するといっても限界がある。「服装や態度に注意する」「知らない人のさそいに応じない」といった基本的な自己防衛的態度を守ることによって、かなりの性被害を防止できるであろう。

(10) 男女の特性

生徒があげた、男性及び女性のもぞましい特性についてまとめたのが図54である。

〈図54〉 のぞましい男女の特性



Ⅶ 今後の課題

1 計画的指導の必要性

さきほどの調査結果から明らかなように、小・中・高等学校の過半数以上の学校が、指導計画のもとに性教育を実施しているということである。しかし、小学校では、圧倒的多数の学校が「長期休業や旅行の機会」に指導し、その指導者の半数近くが養護教諭であって、指導内容は「身体のしくみや生理」・「男女の特性と役割」に傾斜しているのである。中・高等学校でも「教科・道徳・特別活動」における指導は多いが、やはり保健体育などの特定教科に集中しがちである。

実際に学校の計画にしたがい指導したことの教員は、小・中・高等学校全体で17%にすぎず、明らかに特定の教員のみが計画に加わっているだけである。このように、計画的に指導しているといっても、指導内容が生理的分野など特定面に限られ、指導者も主に保健体育担当教諭や養護教諭など一部の教員であって、関連教科や領域との連携をはかるような計画でなく、多くは年間計画のなかに時間のみを位置づけているにすぎないのではないと思われる。

性教育は現行のカリキュラムに明確に位置づけられているわけではなく、また特定の領域を設け、特別に指導することも学校教育の現実からして困難である。したがって、多くの学校では、ややもすると一部の指導者が特定の分野のみを断片的散発的に指導しがちになる。しかし、これではせっかくの指導も性教育本来の目標にかなうものではない。

現実的には、生理、心理、社会の各分野を児童・生徒の発達課題と学校の実態に応じて、できるだけ関連教科や領域に組み込み、指導上必要な事項でどれにも組み込めないものは、特設時間で扱うなどの工夫が必要なのである。このため、指導内容の調和をはかり、全体的に推進する指導計画が不可欠である。現在計画的に実施している学校は、もう一步進めて指導内容の体系化をはかる全体計画の作成を検討し、性教育の一層の充実をはかることが望まれよう。

しかし、さまざまな問題をかかえながらも、実施校は計画的指導の意義と成果を見出していると言えよう。それは、実施校の大部分が今後「より一層の充実をはかりたい」とか「これまで通りの指導を続けたい」と積極的な意欲を示し、未実施校の多くが消極的な指導姿勢であるのと対照的であることからもうかがえる。

また、高等学校を例にあげると、不純異性交遊など性に関する問題行動については、普通校、職業校及び定時制をとわず、実施校の発生率は未実施校のそれより際立って低いという事実である。これも計画的指導の重要性を示唆しているのではないと思われる。

2 指導態勢の確立

以前から、性教育について「何をどう教えたらいいかわからない」という声が、多くの教員から出ておったが、このたびの調査でも、指導上の問題として教員の20%以上は、それぞれ「指導内容の不明」・「指導法の不明」をあげている。これらの悩みは、もっぱら教員個人の意欲に帰すべき問題のようである。

男性としてのぞましい特性は、男女とも「責任感」をもっとも多くあげている。つぎに多いのが「誠実さ」「決断力」「正義感」である。「きれい好き」「率直さ」「こまやかな感情」などはごくわずかであるが、「やさしさ」をあげているものが、男女とも10%ほどみられる。一方、女性としてのぞましい特性には、男女とも過半数が「やさしさ」をあげており、「こまやかな感情」「率直さ」「明朗」が続く。

のぞましい女性像については、男女差がみられない。これに対し、男性ののぞましい特性として、女性の特性としてもっとも多くあげられている「やさしさ」を、男子の方が女子よりも多くあげている。更に、男性に強く求められる「責任感」や「誠実さ」については、男子があげている割合の方が女子の割合よりも小さい。いわゆる男性の女性化傾向が顕著にあらわれている。

(11) 要 約

- ① 大部分の生徒が、男女交際は自由であると考えており、交際経験者もかなり多いと思われる。とくに他校生と交際している生徒の割合が、自校生と交際している生徒よりも多く、性行動の体験率も高いことに注意しなければならない。
- ② 「愛情がある」とか「自分で責任をとる」という考えのもとに、男女交際における行為をすべて認めようとする傾向がみられる。しかし、それらには生徒の開き直った、自己弁護の態度が含まれてはいないだろうか。本当の意味の愛情や真の責任ということを、単なる知識としてではなく、行動レベルで理解できるよう指導する必要がある。
- ③ 悩みや不安の内容及び知りたいと思う性知識をみると、交際相手のいない生徒では、身体に関するものが多い。ところが、交際相手がいる生徒や性行動を体験している生徒では性交にかかわる内容のものが多くなっている。男女交際において、性交までを意識している生徒がかなりいるものと思われる。高校生の男女交際は、抱擁やキスなどの体験を契機にして性交体験までエスカレートする危険性が充分考えられる。男女交際の限度やけじめについて、性心理や男女の人間関係についての慎重な指導が必要であろう。
- ④ 性教育の指導内容として、教員は依然として生理的内容に固執する傾向がみられるが、生徒の実態に即応した指導ができるような意識の変革が必要であろう。
- ⑤ 教科書や医学書により、また医師や教員から、正確で信頼できる性知識を得ようとしている生徒がいるが、その希望はほとんどかなえられていない。希望が充分満たされるような指導を工夫する必要がある。
- ⑥ マスコミによる性情報には、大部分の生徒が大きな関心を示している。青少年にとって好ましくないものを規制し、環境浄化をはかると同時に、それらの性情報に対し正しい価値判断ができる生徒を育成することが大切であろう。したがって、性教育は単に性に関する知識伝達にとどまらず、生徒の全人格の完成を目指す人間教育でなければならないと考える。
- ⑦ 性被害についてみると、被害者自身がそれを招いている場合が少くないと思われる。自分自身で注意する、という基本的な心構えを強く指導することにより、かなりの被害を未然に防止できるものと考えられる。

ところが、小・中・高等学校の教材教具の所有状況についてみると、全般にそれらの不足はおおむねなくもないのである。つまり、スライドを備えている学校は全体で60%に達しているが、備えやすく、教員も生徒ももっとも利用しやすい図書を所有している学校は37%で、とくに小学校では27%にすぎない。そのほかの教材教具についても、まったくとるに足らない状況である。

第二は、性教育の指導経験者のことであるが、すでにみたように42%がなんらかの指導経験を有する教員である。このうち「計画はなかったがやった」はほぼ60%で、あとは計画にしたがい指導した教員である。計画がないのに指導した教員の大半は、児童・生徒の「問題行動を防止するため」や「問題行動がおきたから」行ったのである。これは、これらの指導者が十分な準備もできないまま、対症療法的指導にあたらざるをえなかったことを物語るものと言えよう。

実施校、未実施校が一致してあげた障害に「教員の共通理解がえられない」「児童・生徒の実態がわからない」という悩みが多かったが、これは、明らかに教員間の情報交換や意見の交流の不足を物語るもので、研究ならびに研修機会の欠如を示すものではないだろうか。

このように、大方の学校での性教育は、教材教具にも恵まれず、研修・研究の機会もないまま児童・生徒の問題行動への対応にせまられ、特定教員の個人的努力にゆだねられていると言えないだろうか。

したがって、「指導内容や指導法がわからない」という声は、単に教員個人の意欲というよりどちらかと言えば学校の指導態勢に根ざす問題ではないかと判断され、その確立が緊急の課題であると思われる。今後、教材教具を整備し、研究や研修を組織化したり、指導計画の作成や推進にあたる機関を設けるなど指導態勢の確立に努めるならば、教員個人の意欲も一層高まるものと予想される。

3 教師の意識の変革

これまでも述べたように、性教育の指導者の大部分は、保健体育担当教諭や養護教諭であるし、その指導内容も主に「身体のしくみや生理」である。また、今後指導上力を入れるべき内容として、小学校から高等学校までの教員が一致してあげているのも「身体のしくみや生理」である。これは性教育といえは性の生理的指導という意識が教員を根強く支配していることを示す証左ではなからうか。

しかし、すでにくりかえして述べたように、人間の性は心理や社会とも深い係わりをもつので生理面だけを切り離して扱うのでは、人間教育を土台とした性教育とは言えない。

たとえば、中・高校生の段階では男女交際が活発化する時期でもあって、大部分のものが「男女交際は自由でよい」としており、高校生の35%は実際に「手をにぎったり、腕を組んだりする」交際を経験している。同時に、性衝動も高進する時期で性行動の体験者も増加し、避妊や性病など性行動にともなう悩みや不安をあげるものもある。また、かつてより結婚まで純潔を「守るべきである」という高校生は男女とも減少し、「守らなくともよい」理由として、「愛情があればよい」

をあげるものはきわめて増加している。

以上はごく限られた例にすぎないが、これらは、中・高校生の発達段階においては、生理的分野や単なる男女交際のあり方の指導だけでなく、すでに大人の責任や男女の人間関係などを掘り下げて考えさせるべき時期にいたっていることを示唆するものであろう。

性教育は児童・生徒の人格の総体にかかわるもので、生き方の教育でもある。それを単なる生理教育や道徳教育の狭い枠内にとどめるべきではない。そのためには、全教員が生理、心理、社会の各分野のいずれか一端をにない、教科や領域の連携をはかりながら組織的な指導に努めるべきである。これまでの「性教育は生理教育」という狭い性教育意識を払拭し、人格教育という自覚のもとに教員なら誰しも指導にあたらうという心構えをもつことが肝要であると思われる。

4 児童・生徒の実態に即した指導

児童・生徒はマスコミや友人などから雑多な性知識を得ているが、それらを興味本位に吸収するので、性行為に関するものに片寄りがちで、基本的科学的事項に欠けている場合が多い。さきほどもふれたように、多くの学校では生理的分野を中心に性教育を行っているのであるが、児童生徒のなかにはその最低必要限度の知識すらもっていないものも少なくない。

たとえば、中学生のなかで受精を知っているのは37%、第二次性徴や性ホルモンはほぼ20%、排卵にいたっては女子ですらわずか12%にすぎない。高校生でも家族計画を知っている割合は、43%だけである。

これらの基本的知識を欠いているというのは、児童・生徒がマスコミの性情報にほんろうされている結果ではないと思われる。性情報が児童・生徒の心にくい込むのは、それらが興味本位に送りこまれるだけでなく、児童・生徒の実態に対応しない指導が断片的散発的に行われているためでもないだろうか。

さらに、せつかくの指導が児童・生徒の身体的発達に即応していない場合もある。それは、小学校の児童で初潮を経験したときに、その知識をもっていなかったのが34%もいるという事実や精通経験が大部分の生徒にも及ぶ中学2年で、精通を知らない生徒が半数を上回るという実態などからも指摘できよう。

教科においても領域にしても、指導者は児童・生徒の実態をは握したうえでそれに応じた指導内容を編成し、指導方法を執るものである。とくに性教育においては、性情報を入手する機会も多く、身体の変化の激しい時期でもあるので、児童・生徒の知識の程度、成熟の度合や生活態度などを充分配慮し、実態に対応した指導を行うことが重要でなからうか。

また、性教育の内容は大別して、教科指導を中心にして行われる知的理解と主として教科以外の教育活動や特別活動などで行われる情緒、習慣や態度の育成の二つから成っている。とくに後者は人格形成に重要なかわりを持ち、知的理解を助け、その適用を導くのである。しかし、実際には、ややもすると知的理解のみが重視されがちである。情緒、習慣、態度などに支えられない知識は単なる観念にすぎなく、生活の力とはなりえないだろう。したがって、両者の調和をはかった指導に留意すべきでないと思われる。

5. 個別指導の充実

性に関する悩みや不安をもつものは、わずかではあるが小学生にも出ており、中学生では男子が10人に1人、女子は4人に1人の割合となり、高校生では男子21%、女子25%にものぼる。小学生から高校生に共通して多いのは、男子では「性器に関すること」・「マスターベーション」・「性病」などであり、女子の場合は「メンス」や「乳房の発達」に関するものなどである。

ところが、これらの悩みや不安をだれにも相談できずに自分ひとりで悩んでいるものが多く、また相談するというものも、その相手は大部分が「友人・先輩」であって、悩みや不安がどれだけ軽減したり解消しているか疑問である。これらの悩みや不安はこの年頃の特徴として、医師の力にまつべきものというより、成長の過渡期特有のものや児童・生徒の思い違いによるものが多く、身体の機能や構造の基本的な知識を与えてやるだけで軽減したり解消するものが少なくないようである。

したがって、指導者に求められるのは、性生理に関する専門的知識の深さより、日頃受容的態度で児童・生徒に接し、信頼関係を確立しておくことであろう。

本県においても、最近児童・生徒の性の逸脱行為や性非行は増加し、大都市なみの様相をおびている。すでに述べたように、昭和52年度において性に関する問題行動は、小学校12%、中学校16%、高等学校42%の学校で起きている。

小学校では、スカートめくりなどいたずらのなものが大部分であるが、すでにこれらの行動の動機の中には、性に関するゆがんだ好奇心が含まれており、性教育上重要な段階に達していることを物語っている。

中学校から高等学校に進むにつれ、不純異性交遊や売春など非行的行動の増加が目立つようになるが、その指導対象の80%近くが女子である。これらの行動で指導や補導を受けたもののなかでは、基本的な性知識の欠けているのが多く、これを契機に性教育にふみきる学校も少なくない。

たしかに、性教育は問題行動を防ぐうえでも大きな成果をあげていることは、さきに述べた通りである。しかし、不純異性交遊や売春などの背景には、非性的要因が働いている場合が多く、根本的には性教育の枠内だけで解決できないように思われる。ところが性に関する問題行動は他の非行と異なり、指導上特別視される傾向があって、高等学校ではこれをもとに退学していく生徒はあとを断たない。したがって、問題行動の事後指導が重要な課題であって、基本的には、行動の現象面にとらわれず、背後にある原因を突きとめ、今後の生き方を重視した指導に努めるべきではないだろうか。

性意識や性的成熟には個人差が大きく、それだけに児童・生徒の性に関する悩みや不安も多様である。また、性の問題行動や被害についても事実関係のは握や事後指導などは大切である。性教育においても、他に劣らず個別指導は重要性をもち、指導者にはカウンセリングなどをとり入れ、生徒のかかえる問題について共に考える共感的態度と児童・生徒の内面をとらえる受容的指導が必要とされるのではないだろうか。

付 属 資 料

I 学校における指導の実態調査

1. 学 校 対 象	66
2. 教 員 対 象	70

II 性についての児童・生徒の意識と行動の調査

1. 小 学 生	73
2. 中 学 生	82
3. 高 校 生	89

I 学校における指導の実態調査

1 学校対象

問1 貴校では指導計画を作成し、性教育を行っていますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
いる	190	57.5	67	45.5	38	56.8	295	54.2
いない	141	42.5	80	54.5	29	43.2	250	45.8
計	331	100.0	147	100.0	67	100.0	545	100.0

【実施校】(問1で「いる」と答えた学校)

問2 どんなかたちで指導していますか。

1. 性教育の時間を特設して指導している。 2. 長期休業や修学旅行の機会に指導している。
3. 放課後などを利用し、相談に応じている。 4. 教科、道徳、および特別活動を通して指導している。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1	9	4.7	2	3.0	2	5.3	13	4.4
2	136	71.6	20	29.9	2	5.3	158	53.6
3	11	5.8	3	4.5	1	2.6	15	5.1
1+2+3	156	82.1	25	37.4	5	13.2	186	63.1
4	34	17.9	42	62.6	33	86.8	109	36.9
計	190	100.0	67	100.0	38	100.0	295	100.0

問3 おもに誰が指導していますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 学級担任	61	39.1	6	24.0	2	40.0	69	37.1
2. 保健主事	14	9.0	1	4.0	0	0.0	15	8.1
3. 生徒(生活)指導担当教諭	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4. 保健体育担当教諭	2	1.3	7	28.0	1	20.0	10	5.4
5. 養護教諭	76	48.7	11	44.0	0	0.0	87	46.7
6. 校長・教頭	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	0.5
7. 校医	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8. その他	3	1.9	0	0.0	1	20.0	4	2.2
計	156	100.0	25	100.0	5	100.0	186	100.0

問4 どんな内容について指導していますか。3つ選択してください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. からだのしくみと生理	156	100.0	24	96.0	3	60.0	183	98.4
2. 男女の特性と役割	128	82.1	22	88.0	2	40.0	152	81.7
3. 性非行・性被害の防止	28	17.9	4	16.0	3	60.0	35	18.8
4. 男女交際のあり方	48	30.8	16	64.0	1	20.0	65	34.9
5. 性道徳	23	14.7	4	16.0	2	40.0	29	15.6
6. 結婚と家庭生活	3	1.9	1	4.0	1	20.0	5	2.7
7. 妊娠・出産	5	3.2	0	0.0	1	20.0	6	3.2
8. 性病	1	0.6	4	16.0	1	20.0	6	3.2
9. その他	12	7.7	0	0.0	0	0.0	12	6.5
計	156		25		5		186	

(各項目の%は、項目毎、各学校数に対する割合を示す)

問5 指導上おもにどんな問題がありますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 指導内容が不明確である	42	26.9	8	32.0	1	20.0	51	27.4
2. 時間が足りない	15	9.6	2	8.0	0	0.0	17	9.1
3. 資料や教材が得られない	59	37.8	8	32.0	1	20.0	68	36.6
4. 共通理解が得られない	8	5.1	3	12.0	1	20.0	12	6.5
5. 価値観にずれがある	16	10.3	3	12.0	2	40.0	21	11.3
6. その他	16	10.3	1	4.0	0	0.0	17	9.1
計	156	100.0	25	100.0	5	100.0	186	100.0

問6 問2で4に回答した学校は次に答えてください。

○おもにどの時間に性教育を行っていますか。三つ以内選択してください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 国語	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2. 社会	1	2.9	0	0.0	3	9.1	4	3.7
3. 保健体育	27	79.4	40	95.2	32	97.0	99	90.0
4. 理科	5	14.7	7	16.7	7	21.2	19	17.4
5. 芸術	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. 家庭	3	8.8	10	23.8	20	60.6	33	30.3
7. 道徳	13	38.2	25	59.5	0	0.0	38	34.9
8. 特別活動	32	94.1	29	69.0	16	48.5	77	70.6
9. その他	3	8.8	6	14.3	3	9.1	12	11.0
計	34		42		33		109	

(各項目の%は、項目毎、各学校数に対する割合を示す)

【未実施校】(問1で「いない」と答えた学校)

問7 性教育を行っていないのは、おもにどんな理由からですか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 必要性なし	0	0.0	1	1.3	1	3.4	2	0.8
2. 家庭でやるべきである	9	6.4	2	2.5	0	0.0	11	4.4
3. 担任がやっているので十分	84	59.6	30	37.5	13	44.8	127	50.8
4. 障害が多く実施不可	33	23.4	37	46.2	15	51.8	85	34.0
5. その他	15	10.6	10	12.5	0	0.0	25	10.0
計	141	100.0	80	100.0	29	100.0	250	100.0

問8 障害としてはどんなものがありますか。三つ以内選択してください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 実態がわからない	20	14.2	9	11.3	2	6.9	31	12.4
2. 共通理解が得られない	27	19.1	24	30.0	6	20.7	57	22.8
3. 指導法がわからない	34	24.1	35	43.8	9	31.0	78	31.2
4. 教材・教具が不足している	24	17.0	23	28.8	4	13.8	51	20.4
5. 指導内容がわからない	33	23.4	23	28.8	8	27.6	64	25.6
6. 保護者の理解が得られない	2	1.4	2	2.5	0	0.0	4	1.6
7. 適当な推進者がいない	32	22.7	24	30.0	6	20.7	62	24.8
8. 時間がとれない	19	13.5	18	22.5	8	27.6	45	18.0
9. その他	4	2.8	6	7.5	0	0.0	10	4.0
計	141		80		29		250	

(各項目の%は、項目毎、各学校数に対する割合を示す)

【今後のとりくみ】貴校では性教育に対して、今後どのような取り組み方をしていく方針ですか。

問9 <実施校>……問1で「いる」と回答した学校は次に答えてください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. より一層の充実	89	46.9	27	40.3	23	60.5	139	47.1
2. これまで通り	85	44.7	36	53.7	12	31.6	133	45.1
3. 学級担任等にまかせる	15	7.9	1	1.5	3	7.9	19	6.4
4. とりやめたい	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. その他	1	0.5	3	4.5	0	0.0	4	1.4
計	190	100.0	67	100.0	38	100.0	295	100.0

問10 <未実施校>……問1で「いない」と回答した学校は次に答えてください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 実施にふみきりたい	27	19.1	16	20.0	7	24.1	50	20.0
2. 実施困難	8	5.7	16	20.0	3	10.4	27	10.8
3. 担任の判断にまかせる	86	61.0	43	53.7	14	48.3	143	57.2
4. 必要性をみとめない	0	0.0	1	1.3	0	0.0	1	0.4
5. その他	20	14.2	4	5.0	5	17.2	29	11.6
計	141	100.0	80	100.0	29	100.0	250	100.0

【教材教具】

問11 貴校には性教育の教材、教具としてどんなものがありますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. スライド	216	65.2	63	42.8	49	73.1	328	60.1
2. 掛図	141	42.5	39	26.5	11	16.4	191	35.0
3. トラパンシート	21	6.3	8	5.4	3	4.4	32	5.8
4. 写真	7	2.1	4	2.7	1	1.4	12	2.2
5. 模型	4	1.2	2	1.3	7	10.4	13	2.3
6. 映画(フィルム)	15	4.5	8	5.4	2	2.9	25	4.5
7. 図書	91	27.4	76	51.7	37	55.2	204	37.4
8. その他	44	13.2	6	4.0	3	4.4	53	9.7
計	331		147		67		545	

(各項目の%は、項目毎、各学校数に対する割合を示す)

【問題行動】

問12 貴校には、51年度中、性に関する問題行動を起こした児童・生徒がいましたか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. いた	40	12.1	23	15.6	28	41.8	91	16.7
2. いなかった	291	87.9	124	84.4	39	58.2	454	83.3

問題行動の内訳

項目	小学校		中学校		高等学校		全体		
	件数	児童数		件数	生徒数		件数	生徒数	
		男	女		男	女		男	女
1. スカートめくり	111	127	8	2	9	5	0	0	0
2. トイレ・更衣室等のぞき見	49	58	7	9	21	0	2	2	0
3. 下着盗み	2	2	0	10	12	0	2	2	0
4. わいせつ行為	2	2	0	2	2	0	1	1	0
5. 婦女暴行	0	0	0	1	1	0	0	0	0
6. 不純異性交遊	0	0	0	3	0	4	23	6	22
7. 妊娠及び妊娠中絶	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 同棲及び異性との家出	0	0	0	0	0	0	13	3	13
9. 売春	0	0	0	0	0	0	2	0	5
10. その他	9	8	1	3	2	0	0	0	0

【性被害】

問13 貴校には、51年度中、性に関する被害を受けた児童・生徒がいましたか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. いた	24	7.3	17	11.6	9	13.4	50	9.2
2. いなかった	307	92.7	130	88.4	58	86.6	495	90.8

性被害の内訳

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	件数	児童数	件数	生徒数	件数	生徒数	件数	生徒数
1. トイレ・更衣室等ののぞき見	42	59	4	16	1	1	47	76
2. 下着盗難	0	0	3	4	3	2	6	6
3. わいせつ行為	9	17	11	31	0	0	20	48
4. 婦女暴行	0	0	1	1	1	1	2	2
5. 売春	0	0	0	0	2	2	2	2
6. その他	5	3	4	7	23	29	32	39

【事後指導】

問14

項目	小学校		中学校		高等学校	
	問題行動	性被害	問題行動	性被害	問題行動	性被害
事後指導のしかた						
ア、学級担任の判断にまかせた	33	9	4	2	0	0
イ、同学年の担任で協議のうえ指導した	3	1	3	2	2	0
ウ、生徒(生活)指導担当と学級担任が協議のうえ指導した	6	1	7	7	8	5
エ、管理職と学級担任で協議のうえ指導した	1	4	6	6	7	0
オ、職員会議で協議し指導した	8	8	14	11	24	3
カ、その他	3	2	0	2	0	2

【性教育の手びき】

問15 貴校には山形県教育委員会で配布した「性教育の手びき」(昭和49年3月刊行)が現在ありますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
あ る	292	88.2	126	85.7	61	91.0	479	87.9
な い	39	11.8	21	14.3	6	9.0	66	12.1

(1) どこに保管してありますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 図書室	4.8		4.8		0.0		4.2	
2. 職員室	44.8		56.4		52.4		48.8	
3. 校長室	3.4		9.5		0.0		4.6	
4. 保健室	40.8		23.0		36.1		35.5	
5. その他	6.2		6.3		11.5		6.9	

(2) どのように利用されていますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. よく利用されている	2.7		0.0		4.9		2.3	
2. ときたま利用されている	63.7		58.7		59.0		61.8	
3. ほとんど利用されていない	31.5		39.7		36.1		34.2	
4. わからない	2.1		1.6		0.0		1.7	

2 教員対象

問1 あなたは昨年度、性に関して児童・生徒から相談を受けたことがありますか。一つ選んでください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. たびたびあった	20	3.0	23	3.6	11	1.8	54	2.8
2. 1~2回程度あった	174	26.5	173	27.3	125	20.7	472	24.9
3. 全然なかった	459	70.0	430	67.8	466	77.0	1,355	71.6
無 答	3	0.5	8	1.3	3	0.5	14	0.7

問2 問1で、1. 2と回答された方は次の(1)、(2)の間にお答えください。

(1) どのような内容の相談を受けましたか。次のなかから三つ以内を選んでください。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. からだのしくみや生理	174	89.7	109	55.6	56	41.2	339	64.4
2. 避妊	0	0.0	0	0.0	6	4.4	6	1.1
3. 妊娠・出産	21	10.8	15	7.7	15	11.0	51	9.7
4. 自慰	6	3.1	13	6.6	8	5.9	27	5.1
5. 性病	2	1.0	18	9.2	22	16.2	42	8.0
6. 性に関する問題行動(いたすら、性非行も含む)	43	22.2	42	21.4	35	25.7	120	22.8
7. 性被害	1	0.5	6	3.1	7	5.1	14	2.7
8. 男女交際	45	23.2	146	74.5	108	79.4	299	56.8
9. その他	8	4.1	8	4.1	7	5.1	23	4.4

(各項目の%は、問1で、1. 2に回答した教員に対する割合を示す。)

(2) おもにどんなかたちで指導しましたか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 個別に	99	51.0	130	66.3	100	73.5	329	62.5
2. グループに	32	16.5	24	12.2	11	8.1	67	12.7
3. 学級で	55	28.4	32	16.3	19	14.0	106	20.2
4. 保護者に	6	3.1	4	2.0	5	3.7	15	2.9
5. その他	0	0.0	5	2.6	1	0.7	6	1.1

(各項目の%は、問1で、1. 2に回答した教員に対する割合を示す。)

問3 あなたは、昨年度、性に関する指導をやったことがありますか。

項目	小学校		中学校		高等学校		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 計画あるからやった	118	18.0	99	15.6	104	17.2	321	16.9
2. 計画はなかったがやった	177	27.0	164	25.9	128	21.2	469	24.7
3. やったことがない	354	53.9	362	57.1	370	61.1	1,086	57.4
無 答	7	1.1	9	1.4	3	0.5	19	1.0

問4 問3で「計画があるからやった」と答えた方は、どの領域に計画がありましたか。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 教 科	23	19.5	63	63.6	71	68.3	157	48.9
2. 道 徳	0	0.0	14	14.1	0	0.0	14	4.4
3. 特別活動	54	45.8	15	15.2	21	20.2	90	28.0
4. 学校の特別計画	28	23.7	6	6.1	10	9.6	44	13.7
5. その他	13	11.0	1	1.0	2	1.9	16	5.0
無 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

問5 問3で「計画がなかったがやった」と答えた方は、その理由をあげてください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 質問をうけたから	46	26.0	53	32.3	19	14.9	118	25.1
2. 問題行動がおきたから	13	7.3	14	8.5	25	19.5	52	11.1
3. 問題行動を防止するため	65	36.7	79	48.2	69	53.9	213	45.4
4. その他	41	23.2	17	10.4	15	11.7	73	15.6
無 答	12	6.8	1	0.6	0	0.0	13	2.8

問6 昭和49年に、山形県教育委員会が発行した「性教育の手びき」について、次のなかから該当するものを一つ選んでください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 知らない	182	27.8	189	29.8	204	33.7	575	30.3
2. 指導に利用したことがある	56	8.5	37	5.8	32	5.3	125	6.6
3. 見たことがある	277	42.2	297	56.9	251	41.5	825	43.6
4. 読んで内容を知っている	126	19.2	98	15.5	102	16.9	326	17.2
5. その他	9	1.4	6	0.9	8	1.4	23	1.2
無 答	6	0.9	7	1.1	7	1.2	20	1.1

問7 性教育を行う場合、障害になると思われるものを次のなかから三つ選んでください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 児童・生徒の実態がわからない	210	11.7	223	12.5	233	13.5	666	12.6
2. 教師間の共通理解がえられない	159	8.8	155	8.7	216	12.6	530	10.0
3. 指導法が不明である	406	22.6	408	22.8	371	21.6	1,185	22.4
4. 教具教材が不足している	275	15.3	213	11.9	159	9.2	647	12.2
5. 指導内容が不明である	415	23.1	416	23.3	352	20.5	1,183	22.3
6. 保護者の理解がえられない	41	2.3	25	1.4	30	1.7	96	1.8
7. 適当な推進者がいない	134	7.5	157	8.8	172	10.0	463	8.7
8. 時間がとれない	119	6.6	164	9.2	154	9.0	437	8.2
9. その他	37	2.1	26	1.4	32	1.9	95	1.8

問8 学校で性教育を行う必要があると思いますか。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 思 う	562	85.7	517	81.6	498	82.3	1,577	83.2
2. 思わない	90	13.7	113	17.8	104	17.2	307	16.2
無 答	4	0.6	4	0.6	3	0.5	11	0.6

問9 問8で「思わない」と答えた方はその理由を次のなかから選んでください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 特別に指導しなくても健全に育っていくから	9	10.0	20	17.7	18	17.3	47	15.3
2. これまでの学校の指導で充分であるから	15	16.7	15	13.3	20	19.3	50	16.3
3. もともと家庭で指導すべきものであるから	43	47.8	42	37.2	36	34.6	121	39.4
4. 指導することで、かえって寝ている子を起すような結果になるから	21	23.3	24	21.2	13	12.5	58	18.9
5. その他	2	2.2	10	8.8	10	9.6	22	7.2
無 答	0	0.0	2	1.8	7	6.7	9	2.9

問10 問8で「思う」と答えた方は次の(1)~(4)の間にお答えください。

(1) 性教育を行わなければならない理由を一つお答えください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 性教育は人間の健全な成長を促すのに必要だから	371	66.0	284	54.9	261	52.4	916	58.1
2. 性に関する問題行動が増加しているから	26	4.6	30	5.8	82	16.5	138	8.7
3. 不良出版物などにより児童・生徒の性知識にゆがみが見られるから	105	18.7	168	32.5	140	28.1	413	26.2
4. 児童・生徒の早熟の傾向がみられるから	55	9.8	34	6.6	6	1.2	95	6.0
5. その他	3	0.5	1	0.2	5	1.0	9	0.6
無 答	2	0.4	0	0.0	4	0.8	6	0.4

(2) 性教育を行う場合、特に、どの内容に力をいれるべきか次のなかから三つ選んでください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. からだのしくみと生理	527	93.8	401	77.6	334	67.1	1,262	80.0
2. 男女の特性・役割	506	90.0	379	73.3	291	58.4	1,176	74.6
3. 性非行・性被害の防止	117	20.8	112	21.6	99	19.9	328	20.8
4. 男女交際	230	40.9	283	54.7	192	38.6	705	44.7
5. 性 道 徳	178	31.7	233	45.1	284	57.0	695	44.1
6. 結婚と家庭生活	70	12.5	75	14.5	165	33.1	310	19.6
7. 妊娠・出産	27	4.8	38	7.4	70	14.1	135	8.6
8. 性 病	7	1.2	28	5.4	50	10.0	85	5.4
9. その他	8	1.4	2	0.4	9	1.8	19	1.2
無 答	16	2.9	0	0.0	0	0.0	16	1.0

(3) 性教育を行う場合、おもにだれが中心になってやるべきだと思いますか。一つ選んでください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 学級担任	411	73.1	258	49.9	109	21.9	778	49.3
2. 養護教諭	114	20.3	94	18.2	72	14.5	280	17.8
3. 保健体育担当教諭	13	2.3	95	18.4	166	33.3	274	17.4
4. 生徒指導(生活指導)担当教諭	2	0.4	6	1.2	22	4.4	30	1.9
5. 校 医	7	1.2	15	2.9	37	7.4	59	3.7
6. 保健主事	13	2.3	35	6.7	44	8.9	92	5.8
7. 校長・教頭	1	0.2	1	0.2	10	2.0	12	0.8
8. その他	1	0.2	12	2.3	34	6.8	47	3.0
無 答	0	0.0	1	0.2	4	0.8	5	0.3

(4) 性教育を行う場合、おもに、どの領域でやるのが適していると思いますか。一つ選んでください。

項 目	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		全 体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1. 教 科	120	21.4	135	26.1	208	41.8	463	29.3
2. 道 徳	48	8.5	61	11.8	70	14.1	179	11.4
3. 特別活動	328	58.4	263	50.9	153	30.7	744	47.2
4. その他	53	9.4	44	8.5	54	10.8	151	9.6
無 答	13	2.3	14	2.7	13	2.6	40	2.5

Ⅱ 性についての児童・生徒の意識と行動の調査

1 小学生

上段	割合(%)
下段	人数(または件数)

問1

(1) 男の子が「声がわりする」ということを知っていますか。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 知っている	79.1	76.0	77.5	92.3	93.3	92.8	86.2	84.7	85.4
	204	193	397	275	238	513	479	431	910
2. 知らない	20.5	20.5	20.5	7.4	4.7	6.1	13.5	12.6	13.1
	53	52	105	22	12	34	75	64	139
無答	0.4	3.5	2.0	0.3	2.0	1.1	0.3	3.0	1.5
	1	9	10	1	5	6	2	14	16

(2) 女の子に「メンス(月経)」があるということを知っていますか。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 知っている	9.3	81.9	45.3	8.1	95.3	48.3	8.6	88.6	46.9
	24	208	232	24	243	267	48	451	499
2. 知らない	86.5	16.5	51.8	85.9	3.9	48.1	86.2	10.2	49.9
	223	42	265	256	10	266	479	52	531
無答	4.2	1.6	2.9	6.0	0.8	3.6	5.2	1.2	3.2
	11	4	15	18	2	20	29	6	35

(3) (2)で「知っている」と答えた人はどのようにして知ったのか次の中から一つえらんでその番号を□の中に入れてください。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. お母さんから	29.2	34.1	33.6	16.7	24.3	23.6	22.9	28.9	28.4
	7	71	78	4	59	63	11	130	141
2. お父さんから	12.5	0.5	1.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.2	0.8
	3	1	4	0	0	0	3	1	4
3. おねえさんから	0.0	1.9	1.8	4.2	0.8	1.1	2.1	1.3	1.4
	0	4	4	1	2	3	1	6	7
4. お兄さんから	0.0	0.5	0.5	4.2	0.4	0.8	2.1	0.4	0.6
	0	1	1	1	1	2	1	2	3
5. 先生から	25.0	50.5	47.9	20.7	60.5	57.0	22.9	55.9	52.8
	6	105	111	5	147	152	11	252	263
6. 友だちから	16.6	11.5	12.0	25.0	8.7	10.0	20.8	10.1	11.1
	4	24	28	6	21	27	10	45	55
7. 雑誌・週刊紙から	0.0	1.0	1.0	12.5	3.7	4.5	6.3	2.4	2.8
	0	2	2	3	9	12	3	11	14
8. テレビから	12.5	0.0	1.4	4.2	0.4	0.8	8.2	0.2	1.1
	3	0	3	1	1	2	4	1	5
9. その他	0.0	0.0	0.0	8.3	0.4	1.1	4.2	0.4	0.8
	0	0	0	2	1	3	2	2	4
無答	4.2	0.0	0.0	4.2	0.8	1.1	4.2	0.2	0.2
	1	0	0	1	2	3	2	1	1

問2

(1) あなたは自分のからだに次の□の中の変化がありますか。変化がある人は1, 変化がない人は2と答えてください。

- | |
|--------------|
| 1. 声がわりした |
| 2. にきびがでてきた |
| 3. 陰毛がはえてきた |
| 4. ひげがめだってきた |

- | |
|----------------|
| 1. おちちがふくらんできた |
| 2. メンス(月経)がある |
| 3. 陰毛がはえてきた |
| 4. にきびがでてきた |

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 変化ある	17.8	74.4	45.9	36.6	85.1	59.0	27.9	79.8	52.7
	46	189	235	109	217	326	155	406	561
2. 変化なし	79.5	24.8	52.3	60.1	14.1	38.9	69.1	19.4	45.4
	205	63	268	179	36	215	384	99	483
無答	2.7	0.8	1.8	3.3	0.8	2.1	3.0	0.8	1.9
	7	2	9	10	2	12	17	4	21

(2) 「変化がある」と答えた人はどんな変化か上の□の中から四つ以内えらんでください。

項目	学年	
	5年	6年
1. 声がわり	49.2	24.7
	25	35
2. にきび	21.5	18.3
	11	26
3. 陰毛	15.6	23.2
	8	33
4. ひげ	13.7	33.8
	7	48

項目	学年	
	5年	6年
1. おちち	66.8	50.5
	173	194
2. にきび	10.8	15.1
	28	58
3. 陰毛	12.0	15.9
	31	61
4. メンス	10.4	18.5
	27	71

(3) 男の子だけ … 「声がわりした」のはいつ頃からですか。

女の子だけ … 「メンスがある」のはいつ頃からですか。

項目	学年	
	5年	6年
1. 3年	8.0	5.7
	2	6
2. 4年	28.0	8.6
	7	3
3. 5年	40.0	0.0
	10	0
4. 6年	0.0	28.6
	0	10
無答	24.0	0.0
	6	0

項目	学年	
	5年	6年
1. 3年	3.8	1.4
	1	1
2. 4年	37.0	2.8
	10	2
3. 5年	40.7	39.4
	11	28
4. 6年	0.0	45.1
	0	32
無答	18.5	11.3
	5	8

- (4) 女の子だけ … 「メンスがある」と答えた人は次に答えてください。
メンスになったとき、すでにメンスのことを知っていましたか。

項目	学 年	
	5年女子	6年女子
1. 知っていた	37.0	77.5
	10	55
2. 知らなかった	59.3	22.5
	16	16
無 答	3.7	0.0
	1	0

問3

- (1) あなたは自分のからだのことでなやみをもっていますか。

項目	学 年			6 年			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. もっている	38.7	47.2	42.9	46.9	56.0	51.1	43.1	51.8	47.2
	100	120	220	140	143	283	240	263	503
2. もっていない	60.6	51.3	56.6	51.8	42.7	47.7	35.9	46.9	51.6
	156	130	286	154	109	263	310	239	549
無 答	0.7	1.5	1.1	1.3	1.1	1.2	1.0	1.3	1.2
	2	4	6	4	3	7	6	7	3

- (2) 「もっている」と答えた人はどんなことか、次の中から一つえらんで番号で答えてください。

項目	学 年			6 年			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 背たけのこと	29.0	25.0	26.8	34.3	29.3	30.7	32.1	26.2	29.0
	29	30	59	48	39	87	77	69	146
2. やせすぎ・ふとりすぎ	45.0	40.0	42.3	41.4	36.4	38.9	42.9	38.0	40.4
	45	48	93	58	52	110	103	100	203
3. にきび	2.0	5.0	3.6	2.1	9.8	6.0	2.1	7.6	4.9
	2	6	8	3	14	17	5	20	25
4. ちぶさ	1.0	6.7	4.9	0.0	6.3	3.2	0.4	6.5	3.6
	1	8	9	0	9	9	1	17	18
5. メンス	2.0	3.3	2.7	0.0	8.4	4.2	0.8	6.1	3.6
	2	4	6	0	12	12	2	16	18
6. やけど・傷あと	7.0	6.7	6.8	7.9	6.3	7.1	7.5	6.5	7.0
	7	8	15	11	9	20	18	17	35
7. 性 器	0.0	0.8	0.5	0.7	0.7	0.7	0.4	0.8	0.6
	0	1	1	1	1	2	1	2	3
8. その他	6.0	4.2	5.0	8.6	0.7	4.6	7.5	2.3	4.8
	6	5	11	12	1	13	18	6	24
無 答	8.0	8.3	8.2	5.0	4.2	4.6	6.3	6.4	6.2
	8	10	18	7	6	13	15	16	31

- (3) ① ②のなやみごとはだれかにそうなんですか。

項目	学 年			6 年			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. そうなんする	46.0	59.1	53.2	32.9	51.7	42.4	38.3	55.1	47.1
	46	71	117	46	74	120	92	145	237
2. そうなんしない	46.0	31.7	38.2	59.3	41.3	50.2	53.8	36.9	44.9
	46	38	84	83	59	142	124	97	226
無 答	8.0	9.2	8.6	5.0	7.0	7.4	7.9	8.0	8.0
	8	11	19	11	10	21	19	21	40

- ② ①で「そうなんする」と答えた人はだれにそうなんですか。一つえらんで番号で答えてください。

項目	学 年			6 年			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. おとうさん	17.6	1.4	8.5	17.4	0.0	6.7	18.5	0.7	7.6
	9	1	10	7	0	8	17	1	1
2. おかあさん	60.9	80.4	72.7	54.4	74.1	66.6	57.5	77.2	70.8
	28	57	85	27	56	83	55	113	168
3. にいさん・ねえさん	4.3	5.6	5.1	4.3	4.1	4.2	4.3	4.8	4.6
	2	4	6	2	3	5	4	7	11
4. 友だち	6.5	7.0	6.8	17.4	17.6	17.5	12.0	12.4	11.3
	3	5	8	7	12	19	10	17	29
5. 先生	4.3	0.0	1.7	2.2	1.4	1.7	3.3	0.7	1.6
	2	0	2	1	1	2	3	1	4
6. おじさん・おばさん	0.0	1.4	0.9	0.0	1.4	0.8	0.0	1.4	0.8
	0	1	1	0	1	1	0	2	2
7. おじいさん・おばあさん	2.2	2.8	2.6	0.0	0.0	0.0	1.1	1.4	1.2
	1	2	3	0	0	0	1	2	3
8. その他	2.2	1.4	1.7	4.3	1.4	2.5	3.3	1.4	2.1
	1	1	2	2	1	3	3	2	5

問4

- (1) あなたは現在、異性の中にとくに親しく交際している人はいますか。

項目	学 年			6 年			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. いる	11.2	5.5	8.3	10.0	4.7	7.5	10.6	5.1	7.9
	29	14	43	30	12	42	59	26	85
2. いない	85.7	91.4	88.6	88.4	93.4	90.7	87.1	92.4	89.7
	221	232	453	263	238	501	484	470	954
無 答	3.1	3.1	3.1	1.6	1.9	1.8	2.3	2.5	2.4
	8	8	16	5	5	10	13	13	26

(2) 「いる」と答えた人は親しくなったわけを二つえらんで番号で答えてください。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. こまっている時親切	15.6 7	17.4 4	16.2 11	8.2 4	10.5 2	8.8 6	11.7 11	14.3 6	12.5 17
2. ユーモア・おもしろい	29.0 13	13.0 3	23.5 16	36.8 18	47.6 9	38.4 27	33.1 31	28.6 12	31.6 42
3. 運動スポーツがじょうず	6.7 3	4.3 1	5.9 4	16.3 8	15.8 3	16.2 11	11.7 11	9.5 4	11.0 15
4. 勇気がある	4.4 2	8.7 2	5.9 4	6.1 3	5.3 1	5.9 4	5.3 5	7.1 3	5.9 8
5. 学校の成績がよい	2.2 1	4.3 1	2.9 2	0.0 0	5.3 1	1.5 1	1.1 1	4.8 2	2.2 3
6. 顔などがよい	13.3 6	0.0 0	8.8 6	6.1 3	0.0 0	4.4 3	9.6 9	0.0 0	6.6 9
7. しゅみが同じ	11.1 5	8.7 2	10.3 7	6.1 3	0.0 0	4.4 3	8.5 8	4.8 2	7.4 10
8. やさしくしてくれる	13.3 6	30.6 7	19.1 13	10.2 5	10.2 2	10.3 7	11.7 11	21.4 9	14.7 20
9. その他	4.4 2	13.0 3	7.4 5	10.2 5	5.3 1	8.8 6	7.4 7	9.5 4	8.1 11

(3) (1)で「いない」と答えた人は、そのわけを次の中から一つえらんで番号で答えてください。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 交際したい人がいない	40.1 79	32.1 70	35.9 149	34.3 79	27.1 62	30.7 141	37.0 158	29.5 132	33.2 290
2. 勉強のじゃま	5.1 10	0.0 0	2.4 10	4.8 11	0.4 1	2.6 12	4.9 21	0.2 1	3.5 22
3. まだ早い	36.5 72	51.9 113	44.7 185	42.3 97	53.3 122	47.7 219	39.6 169	52.6 235	46.3 404
4. 父母におこられる	2.5 5	0.9 2	1.7 7	0.4 1	0.8 2	0.7 3	1.4 6	0.9 4	1.1 10
5. ことわられた	0.5 1	0.0 0	0.2 1	0.4 1	0.0 0	0.2 1	0.5 2	0.0 0	0.2 2
6. さそえない	6.1 12	7.3 16	6.7 28	10.4 24	7.0 16	8.7 40	8.4 36	7.2 32	7.8 68
7. 相手にされることがわかる	5.6 11	4.1 9	4.8 20	1.7 4	5.7 13	3.7 17	3.5 15	4.9 22	4.2 37
8. その他	3.6 7	3.7 8	3.6 15	5.7 13	5.7 13	5.7 26	4.7 20	4.7 20	4.7 41

問5

あなたは今まで、とくに親しく交際してきた異性と次のような経験がありますか。あるものには○、ないものには×印をつけてください。

(1) 家に遊びにいった

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. ある	13.5 35	10.6 27	12.1 62	11.0 33	7.8 20	9.5 53	12.2 68	9.2 47	10.7 115
2. ない	76.9 198	75.3 191	76.0 389	72.6 216	74.2 189	73.4 405	74.5 414	74.7 380	74.7 794
無答	9.6 25	14.1 36	11.9 61	16.4 49	18.0 46	17.1 95	13.3 74	16.1 82	14.6 156

(2) 手紙を交かんした

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. ある	1.9 5	2.7 7	2.3 12	2.3 7	3.1 8	2.7 15	2.1 12	2.9 15	2.5 27
2. ない	88.1 227	83.2 211	85.6 438	81.3 242	78.9 201	80.2 443	84.5 469	81.0 412	82.8 881
無答	10.0 26	14.1 36	12.1 62	16.4 49	18.0 46	17.1 95	13.4 75	16.1 82	14.7 157

(3) 写真を交かんした

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. ある	0.7 2	0.3 1	0.5 3	1.0 3	0.0 0	0.5 3	0.8 5	0.1 1	0.5 6
2. ない	88.9 229	85.2 216	87.3 445	82.5 246	81.6 208	82.2 454	85.6 475	83.4 424	84.5 899
無答	10.4 27	14.5 37	12.5 64	16.4 49	18.4 47	17.3 96	13.6 76	16.5 84	15.0 160

(4) 手をにぎった

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. ある	3.1 8	3.5 9	3.3 17	1.3 4	1.5 4	1.4 8	2.1 12	2.5 13	2.3 25
2. ない	86.5 223	82.0 208	84.2 431	82.5 246	80.5 205	82.2 451	84.5 469	81.2 413	82.9 882
無答	10.4 27	14.5 37	12.5 64	16.1 48	18.0 46	16.4 94	13.4 75	16.3 83	14.8 158

(5) デートをした

項目	5年		6年		全体				
	男	女	計	男	女	計			
1. ある	0.7	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.2
	2	1	3	0	0	0	2	1	3
2. ない	88.9	85.2	87.0	83.5	82.0	82.9	86.1	83.6	84.9
	229	216	445	249	209	458	478	425	903
無答	10.4	14.5	12.5	16.4	18.0	17.1	13.6	16.3	14.9
	27	37	64	49	46	95	76	83	159

(6) うでをくんで歩いた

項目	5年		6年		全体				
	男	女	計	男	女	計			
1. ある	1.5	0.0	0.7	0.0	0.3	0.1	0.7	0.1	0.4
	4	0	4	0	1	1	4	1	5
2. ない	88.1	85.5	86.9	83.6	81.7	82.8	85.7	83.6	84.7
	227	217	444	249	208	457	476	425	901
無答	10.4	14.5	12.5	16.4	18.0	17.1	13.6	16.3	14.9
	27	37	64	49	46	95	76	83	159

(7) キスをした

項目	5年		6年		全体				
	男	女	計	男	女	計			
1. ある	0.3	0.3	0.3	0.0	0.3	0.1	0.1	1.3	0.2
	1	1	2	0	1	1	1	2	3
2. ない	88.5	85.2	86.9	82.9	81.7	82.4	85.6	82.4	84.5
	228	216	444	247	208	455	475	424	899
無答	11.2	14.5	12.8	17.1	18.0	17.5	14.3	16.3	15.3
	29	37	66	51	46	97	80	83	163

問6

(1) あなたがよくみる雑誌の中に、女の人のほだかの写真や絵、キスの場合などができますか。次の中から一つえらんで番号で答えてください。

項目	5年		6年		全体				
	男	女	計	男	女	計			
1. よくでてる	3.8	2.3	3.1	3.0	4.3	3.6	3.4	3.3	3.3
	10	6	16	9	11	20	19	17	36
2. 時々でてる	45.7	59.2	52.4	50.5	46.8	48.7	48.3	53.0	50.6
	118	150	268	150	119	269	268	259	537
3. でてこない	49.0	37.4	43.2	45.9	48.2	47.0	47.3	42.8	45.1
	126	95	221	137	123	260	263	218	481
無答	1.5	1.1	1.3	0.6	0.7	0.7	1.0	0.9	1.0
	4	3	7	2	2	4	6	5	11

(2) (1)で「1, 2」に答えた人は、どんな雑誌にでてるのか、その雑誌名を三つ以内あげてください。(略す)

(3) (2)で雑誌名をあげた人は、その雑誌をみたり、手にいれたりするところはどこですか。次の中から三つ以内えらんで番号で答えてください。

項目	5年		6年		全体				
	男	女	計	男	女	計			
1. 本屋で買う	25.3	35.5	31.1	36.2	41.4	38.6	31.4	38.0	34.9
	53	98	151	95	98	193	148	96	344
2. 立読み	17.2	6.2	10.7	16.0	8.9	12.6	16.5	7.4	11.8
	36	17	53	42	21	63	78	38	116
3. 自動はんばいき	0.5	0.7	0.6	0.8	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6
	1	2	3	2	1	3	3	3	6
4. 友だち	14.4	23.2	19.2	13.7	27.8	20.4	14.1	25.3	19.9
	30	64	94	36	66	102	66	130	196
5. 病院・床屋・食堂	23.2	14.5	18.0	21.6	13.1	17.6	22.1	13.9	17.9
	48	40	87	57	21	88	105	71	176
6. 家	15.3	17.8	16.5	9.9	7.6	8.8	12.3	13.2	12.7
	32	49	81	26	18	44	58	67	125
7. その他	4.3	2.1	3.9	1.8	0.8	1.4	3.0	1.6	2.2
	9	6	15	5	2	7	14	8	22

問7

テレビや雑誌、まちの映画のかんばんなどに、ほだかやキス、だきあった絵、写真をよくみかけるとおもいますが、それをみたときどう思いますか。次の中から一つえらんで番号で答えてください。

項目	5年		6年		全体				
	男	女	計	男	女	計			
1. いいなと思う	1.9	0.3	1.2	6.0	0.0	3.2	4.1	0.1	2.2
	5	1	6	18	0	18	23	1	24
2. はずかしく思う	12.9	12.2	12.5	14.4	13.3	13.9	13.7	12.7	13.2
	33	31	64	43	34	77	76	65	141
3. いやらしく思う	66.3	75.5	70.8	57.8	75.9	66.2	61.8	75.8	68.5
	171	191	362	172	193	365	343	384	727
4. 何とも思わない	15.9	8.6	12.4	18.5	8.6	13.9	17.3	8.6	13.1
	41	22	63	55	22	77	96	44	140
5. その他	1.5	1.1	1.3	1.3	1.5	1.4	1.4	1.3	1.4
	4	3	7	4	4	8	8	7	15
無答	1.5	2.3	1.9	2.0	0.7	1.4	1.7	1.5	1.6
	4	6	10	6	2	8	10	8	18

問8

(1) あなたは今まで、異性から次の□の中のような、いたずらをされたことがありますか。「ある」人は1、「ない」人は2と答えてください。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. ある	11.6	29.9	20.7	7.0	30.5	17.9	9.1	30.2	19.2
	30	76	106	21	78	99	51	154	205
2. ない	81.5	69.8	75.6	85.3	67.6	77.1	83.6	68.7	76.4
	210	177	387	254	172	426	464	349	813
無答	6.9	0.3	3.7	7.7	1.9	5.0	7.3	1.1	4.4
	18	1	19	23	5	28	41	6	47

(2) 「ある」と答えた人はどんなことをされたのか。上の□の中から二つ以内えらんで番号で答えてください。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 手をにぎられた	24.1	9.6	12.6	14.3	1.6	3.9	19.3	5.4	8.1
	7	11	18	4	2	6	11	13	24
2. 胸をさわられた	48.4	38.7	40.6	28.6	49.6	45.8	38.6	44.3	38.3
	14	44	58	8	62	70	22	106	128
3. おしりをさわられた	17.3	41.2	36.4	21.4	36.0	33.3	19.3	38.5	34.8
	5	47	52	6	45	51	11	92	103
4. だきつかれた	3.4	7.0	6.3	7.1	5.6	5.9	5.3	6.3	6.1
	1	8	9	2	7	9	3	15	18
5. キスをされた	3.4	0.0	0.7	3.6	3.2	3.3	3.5	1.7	2.0
	1	0	1	1	4	5	2	4	6
6. 性器をさわられた	3.4	3.5	3.5	25.0	4.0	7.8	14.0	3.8	5.7
	1	4	5	7	5	12	8	9	17

(3) 「ある」と答えた人はどういう人からか。次の中から二つ以内えらんで番号で答えてください。

項目	5年			6年			全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 下級生	3.2	10.8	8.9	8.7	14.1	13.3	5.6	12.4	10.9
	1	10	11	2	13	15	3	23	26
2. 上級生	77.5	63.5	66.9	69.6	72.7	72.1	74.1	88.1	69.5
	24	59	83	16	67	83	40	126	166
3. 上級生	16.1	8.6	10.5	0.0	3.3	2.6	9.3	5.9	6.7
	5	8	13	0	3	3	5	11	16
4. 中学生	0.0	6.5	4.8	0.0	2.2	1.7	0.0	4.3	3.3
	0	6	6	0	2	2	0	8	8
5. 高校生	0.0	1.1	0.8	4.3	1.1	1.7	1.8	1.1	1.3
	0	1	1	1	1	2	1	2	3
6. おとな	0.0	8.6	6.5	4.3	4.4	4.3	1.8	6.5	5.4
	0	8	8	1	4	5	1	12	13
7. わからない	3.2	1.1	1.6	13.1	2.2	4.3	7.4	1.6	2.9
	1	1	2	3	2	5	4	3	7

2 中学生

問1 (1) あなたには、現在とくに親しくしている異性はいますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. いる	88	16.3	62	12.4	150	14.4
2. いない	451	83.7	439	87.5	890	85.5
無答	0	0.0	1	0.1	1	0.1

(2) (1)で「いる」と答えた人は、次に回答してください。

とくに親しく交際している異性は、次のどれにあたりますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 小学生	4	4.5	0	0	4	2.7
2. 自校の下級生	4	4.5	3	4.8	7	4.7
3. 同級(同学年)生	65	73.9	35	56.5	100	66.7
4. 自校の上級生	2	2.3	8	12.9	10	6.7
5. 他校の中学生	9	10.3	7	11.3	16	10.6
6. 高校生	3	3.4	7	11.3	10	6.7
7. 大学生	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8. 社会人	0	0.0	2	3.2	2	1.3
9. その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無答	1	1.1	0	0.0	1	0.6

(3) (1)で「いない」と答えた人は、次に回答してください。

あなたは、異性の交際相手をほしいと思いますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 思う	138	30.6	166	38.0	304	34.2
2. 思わない	90	20.0	74	16.8	164	18.4
3. わからない	218	48.3	196	44.5	414	46.5
無答	5	1.1	3	0.7	8	0.9

問2 (1) 異性と交際する場合、どんなことを心がけたらよいと思いますか。

次のうちから、大切だと思うものを二つえらんでください。

項目	男		女		全体	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. お互いに金品のことで負担をかけないようにする	65	6.0	38	3.8	103	4.9
2. 明るく、けじめをつける	246	22.8	292	29.1	538	25.9
3. 家の人に心配をかけないようにする	211	19.6	251	25.0	462	22.2
4. 相手の気持を常に尊重する	163	15.1	75	7.5	238	11.5
5. 周囲の人に目立たないようにする	25	2.3	7	0.7	32	1.5
6. 服装や身だしなみに注意する	30	2.8	47	4.6	77	3.7
7. 自分の考えをはっきり言うようにする	133	12.3	106	10.5	239	11.5
8. 自分で責任をとれるようにする	197	18.3	188	18.8	385	18.5
9. その他	3	0.3	0	0.0	3	0.1
無答	5	0.5	0	0.0	5	0.2

② 特定の異性との親しい交際は学習にどんな影響をあたえると思いますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 励みになる	97	17.9	126	25.2	223	21.4
2. 障害になる	69	12.8	90	17.9	159	15.3
3. 影響しない	130	24.1	77	15.3	207	19.9
4. なんともいえない	238	44.3	206	41.0	444	42.7
無 答	5	0.9	3	0.6	8	0.7

問3 (1) あなたは中学生の1対1の男女交際についてどう思いますか。次のうちから一つえらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 1対1の交際は避けたほうがよい	47	8.7	83	16.5	130	12.5
2. 1対1の交際でも親が認めればよい	114	21.1	125	24.9	239	23.0
3. 男女の交際は自由でよい	361	67.1	275	54.8	636	61.1
4. その他	7	1.3	11	2.2	18	1.7
無 答	10	1.8	8	1.6	18	1.7

② (1)で2と3に答えた人は、次に回答してください。

中学生の1対1の男女交際は、どこまでが限度だと思いますか。次のうちから一つえらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 手紙の交換をしたり、話し合う程度	249	52.5	282	70.7	531	60.8
2. 手をにぎったり、腕を組んだりする程度	175	36.9	94	23.5	269	30.7
3. 抱きあったり、キスする程度	32	6.7	15	3.7	47	5.4
4. ペッティングをする程度	4	0.8	0	0.0	4	0.4
5. その他	3	0.6	1	0.2	4	0.4
無 答	12	2.5	8	1.9	20	2.3

問4 (1) あなたがよく見る雑誌の中にヌードの写真や絵、キスの場面等がでていますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. よくでてくる	9	1.6	20	3.9	29	2.8
2. 時々でてくる	227	42.2	281	56.2	508	48.8
3. でてこない	299	55.5	198	39.4	497	47.7
無 答	4	0.7	3	0.5	7	0.7

③ (2)で雑誌名をあげた人は、その雑誌を見たり、手に入れたりする場所はどこですか。次の中から三つ以内えらんでください。

項目	男		女		全体	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. 本屋から買って見る	180	33.8	246	36.1	426	35.1
2. 本屋で立ち読み	133	24.9	98	14.5	231	19.0
3. 自動販売機から買って見る	5	0.9	3	0.6	8	0.7
4. 友だちから借りて見る	93	17.4	207	30.2	300	24.7
5. 病院・理髪店・食堂などで見る	74	13.9	67	9.8	141	11.6
6. 家にあるものを見る	46	8.6	58	8.5	104	8.5
7. その他	3	0.5	2	0.3	5	0.5
無 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0

問5 (1) あなたには、性に関する不安や悩みがありますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. ある	50	9.3	123	24.5	173	16.6
2. ない	484	89.8	373	74.3	857	82.3
無 答	5	0.9	6	1.2	11	1.1

② (1)で「ある」と答えた人は、次の中から不安や悩みの大きなものを二つ以内えらんでください。

項目	男		女		全体	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. 性器について	25	50.0	17	13.8	42	24.3
2. 夢精・月経(メンス)について	4	8.0	85	69.1	89	51.4
3. 乳房について	1	2.0	48	39.0	49	28.3
4. 陰毛について	9	18.0	12	9.8	21	12.1
5. 妊娠・中絶について	0	0.0	3	2.4	3	1.7
6. マスターベーション(オナニー)について	16	32.0	4	3.2	20	11.6
7. 性病について	12	24.0	5	4.1	17	9.8
8. 避妊について	1	2.0	0	0.0	1	0.6
その他	2	4.0	8	6.5	10	5.8

③ (1) (1)で「ある」と答えた人は、不安や悩みをうちあげたり、相談したりしますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. する	12	24.0	60	49.2	72	42.0
2. しない	33	66.0	58	46.8	91	52.3
無 答	5	10.0	5	4.0	10	5.7

② (1)で「する」と答えた人は、その相手は次のうちどれですか。一つ選んでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 親	1	8.3	19	32.8	20	28.8
2. 兄 姉	0	0.0	4	6.5	4	5.5
3. 教師	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4. 友人・先輩	7	58.4	36	59.1	43	58.9
5. 医師	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. 雑誌・新聞等	3	25.0	1	1.6	4	5.5
7. ヤングテレホン	1	8.3	0	0.0	1	1.3
8. その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0

問6 (1) 男子のみ答えてください。

① あなたは、精通(はじめて精液がでること)とは、どういうことか知っていますか。

項目	人数	%
1. 知っている	256	47.5
2. 知らない	276	51.2
無 答	7	1.3

② (1)で「知っている」と答えた人は、いままでのうちに精通がありましたか。

項目	人数	%
1. あった	149	58.2
2. まだない	102	39.8
無 答	5	2.0

③ ②で「あった」と答えた人は、いつごろありましたか。

項目	人数	%
1. 小学5年生までに	3	0.6
2. 小学6年生のとき	22	4.1
3. 中学1年生のとき	83	15.5
4. 中学2年生のとき	38	7.1
無 答	3	0.6

② ①で「あった」と答えた人は、いつごろですか。

項目	人数	%
1. 小学3年生までに	0	0.0
2. 小学4年生のとき	6	1.4
3. 小学5年生のとき	63	14.5
4. 小学6年生のとき	184	42.3
5. 中学1年生のとき	144	33.1
6. 中学2年生のとき	38	8.7

問7 (1) あなたは、日常生活の中で、性的興奮を感じる時がありますか。

項目	男		女		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 時々ある	171	31.7	77	15.4	248	23.8
2. あまりない	359	66.7	415	82.7	774	74.4
無 答	9	1.6	10	2.0	19	1.8

(2) あなたがとくに性的な刺激をうけるのは次のうちどの場合ですか。三つ以内えらんでください。

項目	男		女		全 体	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. 雑誌の性に関する記事	172	31.9	188	37.5	360	34.6
2. ヌードの写真	240	44.5	62	12.4	302	29.0
3. 性に関する映画やテレビのシーン	327	60.7	262	52.2	589	56.6
4. 性に関する小説	115	21.3	161	32.1	276	26.5
5. デ ー ト	22	4.1	31	6.2	53	5.1
6. 異性の服装やからだつき	92	17.1	41	12.2	133	12.8
7. 偶然に異性のからだにふれたとき	73	13.5	88	17.5	161	15.5
8. 性に関するマンガやイラスト	146	27.1	154	30.7	300	28.8
9. そ の 他	5	0.9	8	1.6	13	1.2

(3) (1)で「時々ある」と答えた人だけ、次に回答してください。

あなたはそのときどのようにしていますか。次のうちから一つえらんでください。

項目	男		女		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. スポーツをする	26	15.2	9	11.5	35	14.1
2. 学習や趣味に励む	22	12.9	18	24.4	40	16.5
3. 性に関する絵や写真を見たり本を読む	20	11.7	9	11.5	29	11.6
4. 異性と話し合う	2	1.1	3	3.8	5	2.0
5. マスターベーション(オナニー)をする	19	11.1	2	2.6	21	8.4
6. ペットtingをする	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. がまんする	68	39.9	25	32.1	93	37.4
8. そ の 他	2	1.1	5	6.4	7	2.8
無 答	12	7.0	6	7.7	18	7.2

(2) 女子のみ答えてください。

① あなたは、いままで月経(メンス)がありましたか。

項目	人数	%
1. あった	435	86.7
2. まだない	61	12.2
無 答	6	1.1

問8 (1) あなたは、次のような経験がありますか。あるものには○印、ないものには×印をつけない。

項目	男		女		全 体	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. デ ー ト	38	7.0	46	9.1	84	8.1
2. 異性と手をにぎったり腕をくむ	62	11.5	59	11.7	121	11.6
3. 異性と抱きあう	4	0.7	4	0.8	8	0.8
4. キ ス	2	0.3	8	1.6	10	0.9
5. ペットting	1	0.1	1	0.2	2	0.2

(2) (1)で、いずれかに○印をつけた人のみ次に回答してください。そのおもな相手は、次のどれにあたりますか。

項目	男		女		全 体	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. 小 学 生	7	8.5	2	2.4	9	5.4
2. 自校の下級生	1	1.2	2	2.4	3	1.8
3. 同級(同学年)生	64	78.1	46	54.1	110	65.8
4. 自校の上級生	5	6.1	15	17.6	20	12.0
5. 高 校 生	1	1.2	13	15.3	14	8.4
6. 大 学 生	1	1.2	1	1.2	2	1.2
7. 社 会 人	0	0.0	1	1.2	1	0.6
8. そ の 他	3	3.7	5	5.8	8	4.8

問9 (1) あなたはマスターベーション(オナニー)の経験がありますか。

項目	男		女		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. あ る	145	26.9	45	9.0	190	18.3
2. な い	352	65.4	410	81.6	762	73.2
無 答	42	7.7	47	9.5	89	8.5

(2) (1)で「ある」と答えた人は、次に回答してください。

① あなたが、はじめてそれをしたのはいつごろですか。

項目	男		女		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 小学3.4年生ごろ	6	4.1	7	15.6	13	6.8
2. 小学5.6年生ごろ	32	22.1	17	37.8	49	25.8
3. 中学生になってから	106	73.2	15	33.3	121	63.7
無 答	1	0.6	6	13.3	7	3.7

② あなたは現在どの程度マスターベーションをしていますか。

項目	男		女		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 時々している	28	19.3	3	6.7	31	16.3
2. たまにしている	91	62.8	16	35.5	107	56.3
3. していない	23	15.8	21	46.7	44	23.2
無 答	3	2.1	5	11.1	8	4.2

問10 (1) あなたは性についての知識が多いほうだと思いますか、少ないほうだと思いますか。

項目	男		女		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 多いほうだと思う	49	9.1	32	6.4	81	7.8
2. 普通だと思う	250	46.4	258	51.4	508	48.8
3. 少ないほうだと思う	200	37.2	177	35.2	377	36.2
4. わ か ら ない	38	7.0	29	5.8	68	6.4
無 答	2	0.3	6	1.2	8	0.8

② あなたの性についての知識をおもにどこから得ましたか。A、Bから一つずつえらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
A	1. 週刊誌・マンガ	212	39.5	267	53.2	479	46.1
	2. 婦人雑誌	18	3.3	17	3.4	35	3.3
	3. 学習雑誌	46	8.5	34	6.8	80	7.7
	4. 小説	23	4.2	36	7.2	59	5.7
	5. 教科書	28	5.2	12	2.3	40	3.8
	6. 医学書	28	5.2	14	2.8	42	4.0
	7. ラジオ	55	10.2	11	2.2	66	6.3
	8. テレビ・映画	73	13.6	58	11.5	131	12.6
	9. その他	8	1.4	5	0.9	13	1.2
	無答	48	8.9	48	9.7	96	9.3
B	1. 友人	396	73.7	361	72.0	757	72.8
	2. 先輩	53	9.8	14	2.8	67	6.4
	3. 親	9	1.6	30	6.0	39	3.7
	4. 兄姉	4	0.7	10	1.9	14	1.3
	5. 教師	22	4.1	26	5.2	48	4.6
	6. 医師	4	0.7	2	0.3	6	0.6
	7. その他	6	1.1	9	1.7	15	1.4
		無答	45	8.3	50	10.1	95

問11 (1) あなたは性について知りたいと思っていることを、なにかから得たいと思いますか。A、Bから一つずつえらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
A	1. 週刊誌・マンガ	192	35.6	185	36.9	377	36.3
	2. 婦人雑誌	11	2.0	32	6.4	43	4.1
	3. 学習雑誌	49	9.2	39	7.8	88	8.4
	4. 小説	24	4.4	47	9.3	71	6.8
	5. 教科書	46	8.5	34	6.7	80	7.7
	6. 医学書	79	14.7	83	16.5	162	15.5
	7. ラジオ	44	8.2	10	2.0	54	5.2
	8. テレビ・映画	46	8.5	30	6.0	76	7.3
	9. その他	4	0.7	5	1.0	9	0.9
	無答	44	8.2	37	7.4	81	7.8
B	1. 友人	349	64.9	306	61.0	655	62.9
	2. 先輩	40	7.4	17	3.4	57	5.5
	3. 親	20	3.7	45	9.0	65	6.2
	4. 兄姉	2	0.3	11	2.1	13	1.2
	5. 教師	45	8.3	43	8.5	88	8.4
	6. 医師	31	5.8	36	7.2	67	6.4
	7. その他	7	1.3	8	1.6	15	1.4
	無答	45	8.3	36	7.2	81	7.8

② あなたはどんなことを知りたいと思いますか。次のうちから三つ以内えらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		件数	%	件数	%	件数	%
1. からだのしくみと生理		224	17.3	179	15.9	403	16.6
2. 男女の特性・役割		249	19.4	179	15.8	428	17.6
3. 性非行・性被害の防止		105	8.1	75	6.6	180	7.4
4. 男女交際		291	22.6	305	27.0	596	24.6
5. 性道徳		137	10.6	96	8.5	233	9.6
6. 結婚と家庭生活		91	7.0	107	9.4	198	8.2
7. 妊娠・出産		75	5.8	89	7.8	164	6.8
8. 避妊		26	2.0	30	2.6	56	2.3
9. 性病		94	7.2	72	6.4	166	6.9
10. その他		0	0.0	0	0.0	0	0.0

問12 (1) あなたは、これまで性的ないたずら(被害)をされたことがありますか。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. ある		21	3.9	70	13.9	91	8.7
2. ない		501	93.0	428	85.3	929	89.3
	無答	17	3.1	4	0.8	21	2.0

(2) (1)で「ある」と答えた人は、次に回答してください。

① あなたは、どんないたずら(被害)をされましたか。されたものには○印、されないものには×印をつけなさい。

項目	性別	男		女		全体	
		件数	%	件数	%	件数	%
1. 手をにぎられた		3	14.3	21	30.0	24	26.4
2. 抱きつかれた		0	0.0	11	15.7	11	12.1
3. 衣服をいたずらされた		3	14.3	16	22.9	19	20.9
4. 下着を盗まれた		1	4.8	4	5.7	5	5.5
5. 胸やおしりをさわられた		3	14.3	50	71.4	53	58.2
6. キスされた		1	4.8	7	10.0	8	8.8
7. 性器をいたずらされた		10	47.5	4	5.7	14	15.4

② あなたに、性的ないたずら(被害)をした人はどんな人でしたか。

項目	性別	男		女		全体	
		件数	%	件数	%	件数	%
1. 小学生ぐらいの人		2	11.8	3	4.5	5	6.0
2. 中学生ぐらいの人		9	52.9	33	50.0	42	50.7
3. 高校生ぐらいの人		0	0.0	10	15.2	10	12.0
4. 大学生ぐらいの人		1	5.9	2	3.0	3	3.6
5. おとな		0	0.0	15	22.8	15	18.1
6. わからない		5	29.4	3	4.5	8	9.6

(3) 性的ないたずらをされないようにするにはどうしたらよいと思いますか。

項目	性別	男		女		全体	
		件数	%	件数	%	件数	%
1. 知らない人のさそいに応じない		192	35.7	230	45.8	422	40.5
2. 服装や態度に注意する		112	20.8	152	30.3	264	25.5
3. 取りしまりやパトロールを強化してもらう		54	10.0	36	7.2	90	8.6
4. 性的な刺激を与える雑誌テレビ映画などを規制してもらう		47	8.7	20	4.0	67	6.4
5. その他		5	0.9	2	0.4	7	0.7
	無答	129	23.9	62	12.3	191	18.3

3 高校生

問1 (1) あなたには、現在特に親しくしている異性がありますか。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. いる		138	27.3	144	26.5	282	26.9
2. いない		365	72.2	398	73.5	763	72.9
無答		3	0.5	0	0.0	3	0.2

(2) (1)で「いる」と答えた人は次に答えてください。

もっとも親しく交際している異性は次のどれにあたりますか。一つえらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. 中学生		1	0.7	0	0.0	1	0.4
2. 自校の下級生		6	4.4	2	1.3	8	2.8
3. 同級(同学年)生		38	27.6	27	18.8	65	23.1
4. 自校の上級生		7	5.1	19	13.3	26	9.2
5. 他校の高校生(同じ中学校の卒業生)		41	29.7	42	29.2	83	29.4
6. 他校の高校生(他の中学校の卒業生)		39	28.3	36	25.0	75	26.6
7. 大学生		1	0.7	5	3.5	6	2.1
8. 社会人		2	1.4	9	6.3	11	3.9
9. その他		1	0.7	2	1.3	3	1.1
無答		2	1.4	2	1.3	4	1.4

(3) 異性と交際する場合、どんなことを心がけたらよいと思いますか。次のうちから大切だと思うものを二つえらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. お互いに金品のことで負担をかけないようにする		42	4.2	48	4.5	90	4.3
2. 明るく、けじめをつける		246	24.4	343	31.8	589	48.3
3. 家の人に心配をかけないようにする		146	14.5	181	16.8	327	15.7
4. 相手の気持を常に尊重する		199	19.7	103	9.6	302	14.5
5. 周囲に目立たないようにする		9	0.9	8	0.7	17	0.8
6. 服装や身だしなみに注意する		18	1.8	18	1.7	36	1.7
7. 自分の考えをはっきり言うようにする		128	12.7	122	11.3	250	12.0
8. 自分で責任をとれるようにする		218	21.6	250	23.2	468	22.4
9. その他		2	0.2	4	0.4	6	0.3

(4) 特定の異性との親しい交際は学習にどんな影響をあたえると思いますか。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. 励みになる		119	23.5	152	28.1	271	25.9
2. 障害になる		27	5.3	35	6.5	62	5.9
3. 影響しない		142	28.1	83	15.3	225	21.5
4. なんともいえない		218	43.1	271	50.0	489	46.7
無答		0	0.0	1	0.1	1	0.0

(5) 高校生の1対1の男女交際をどう思いますか。一つえらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. 1対1の交際は避けたほうがよい		4	0.8	17	3.1	21	2.0
2. 1対1の交際でも親が認めればよい		33	6.5	85	15.7	118	11.3
3. 男女の交際は自由でよい		466	92.1	426	78.7	892	85.2
4. その他		3	0.6	12	2.2	15	1.4
無答		0	0.0	2	0.3	2	0.1

(6) (5)で2と3に答えた人は次に答えてください。

高校生の1対1の男女交際はどこまでが限度だと思いますか。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. 友人としての交際にとどめる		34	6.8	84	16.4	118	11.7
2. 好意を持って文通や話し合う程度		89	17.6	136	26.6	225	22.3
3. 手をにぎったり腕を組んだりする程度		130	26.1	139	27.2	269	26.6
4. 抱きあったりキスをする程度		128	25.7	90	17.6	218	21.6
5. ペッチングをする程度		31	6.2	9	1.8	40	4.0
6. 体をゆるしあう		43	8.6	9	1.8	52	5.1
7. その他		36	7.2	34	6.7	70	6.9
無答		8	1.6	10	1.9	18	1.8

(7) あなたは異性の交際相手ができたら親に話しますか。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. 話す		58	11.5	151	27.9	209	19.9
2. 話さない		104	20.6	64	11.8	168	16.0
3. 聞かれたら話す		212	41.9	179	33.0	391	37.4
4. わからない		129	25.5	142	26.2	271	25.9
無答		3	0.5	6	1.1	9	0.8

問2 (1) あなたは雑誌や映画・テレビなどで次のような場面を見た場合どう思いますか。A, Bおのおの一つずつえらんでください。

A キスシーンについて

B ヌードのシーンについて

項目	性別	男		女		全体		男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. なんとも思わない		223	44.1	219	40.5	442	42.2	149	29.5	102	18.9	251	24.0
2. いいなあと思う		229	45.3	120	22.2	349	33.4	227	44.9	14	2.5	241	23.0
3. はずかしいと思う		3	0.5	8	1.4	11	1.0	24	4.7	97	17.9	121	11.6
4. いやらしいと思う		40	8.0	178	32.9	218	20.9	90	17.8	309	57.1	399	38.1
5. その他		9	1.8	14	2.5	23	2.1	13	2.6	18	3.3	31	2.9
無答		2	0.3	3	0.5	5	0.4	3	0.5	2	0.3	5	0.4

(2) あなたは週刊誌や映画・テレビなどででてくる性に関する事について関心がありますか。一つえらんでください。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変関心がある		100	19.8	48	8.8	148	14.2
2. 関心がある		375	74.2	439	81.0	814	77.7
3. 関心がない		30	5.9	50	9.3	80	7.6
無答		1	0.1	5	0.9	6	0.5

問3 (1) あなたは性に関する悩みや不安がありますか。

項目	性別	男		女		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1. ある		106	20.9	136	25.1	242	23.1
2. ない		400	79.1	405	74.8	805	76.9
無答		0	0.0	1	0.1	1	0.0

(2) (1)で「ある」と答えた人は次の中から悩みや不安の大きなものを、二つ以内えらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 性器に関すること	74	69.8	42	30.9	116	47.9
2. 夢精・メンス	8	7.5	56	41.2	64	26.4
3. 乳房の発達	0	0.0	57	41.9	57	23.6
4. 陰毛	3	2.8	5	3.7	8	3.3
5. 妊娠・中絶	6	5.7	16	11.8	22	9.1
6. マスターベーション	38	35.8	13	9.6	51	21.1
7. 性病	34	32.1	18	13.2	52	21.5
8. 避妊	12	11.3	13	9.6	25	10.3
9. その他	2	2.8	6	4.4	9	3.7

(3) ① (1)で「ある」と答えた人は、悩みや不安をうちあけたり相談したりしますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. する	22	20.8	54	39.7	76	31.4
2. しない	76	71.7	78	57.4	154	63.6
無答	8	7.5	4	2.9	12	5.0

② ①で「する」と答えた人は、その相手は次のうちのどれですか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 親	1	4.5	13	24.1	14	18.4
2. 兄姉	1	4.5	2	3.7	3	4.0
3. 教師	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4. 友人・先輩	19	86.5	36	66.7	55	72.4
5. 医師	1	4.5	1	1.8	2	2.6
6. 雑誌・新聞	0	0.0	2	3.7	2	2.6
7. ヤングテレホン	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8. その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0

問4 (1) 女子のみ答えてください。

はじめてメンス(月経)があったのはいつ頃ですか。

学年	女		学年	女		
	人数	%		人数	%	
小学校	3年以前	1	0.1	1年	157	29.0
	4年	6	1.1	2年	75	13.9
	5年	76	14.1	3年	15	2.8
	6年	210	38.8	1年	1	0.1
	-	-	-	2年	1	0.1
高等学校	-	-	-	-	-	

(2) 男子のみ答えてください。

精通(はじめて精液がでること)を経験したのはいつ頃ですか。

学年	男		学年	男		
	人数	%		人数	%	
小学校	3年以前	10	2.0	1年	190	37.6
	4年	4	0.7	2年	150	29.7
	5年	19	3.8	3年	46	9.1
	6年	68	13.5	1年	12	2.4
	-	-	-	2年	1	0.1
高等学校	-	-	-	-	-	
無答	6	1.1	-	-	-	

(3) あなたは日常生活の中で性欲を感じるがありますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 時々ある	376	74.4	120	22.2	496	47.4
2. あまりない	129	25.5	419	77.3	548	52.3
無答	1	0.1	3	0.5	4	0.3

(4) あなたが特に性的な刺激を受けるのは次のうちどの場合ですか。三つ以内えらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 雑誌の性に関する記事	217	42.9	323	59.6	540	51.5
2. ヌードの写真	289	57.1	76	14.0	365	34.8
3. 性に関する映画やテレビのシーン	334	68.0	379	69.9	723	69.0
4. 小説での性描写	142	28.1	294	54.2	436	41.6
5. デートをしたとき	31	6.1	24	4.4	55	5.2
6. 異性の服装やからだつき	160	31.6	41	7.6	201	19.2
7. 偶然に異性のからだに触れたとき	117	23.1	97	17.9	214	20.4
8. 性に関するマンガやイラスト	125	24.7	154	28.4	279	26.6
9. その他	7	1.4	11	2.0	18	1.7

(5) (3)で「時々ある」と答えた人だけ、次に答えてください。

その時あなたはおもにどのようにしていますか。一つえらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. スポーツをする	46	12.2	8	6.7	54	10.9
2. 学習や趣味に励む	27	7.2	28	23.4	55	11.1
3. 性に関する絵や写真を見たり本を読む	43	11.4	16	13.3	59	11.9
4. 異性と話し合う	10	2.7	4	3.3	14	2.8
5. マスターベーション	148	39.4	17	14.2	165	33.3
6. ペッチング	2	0.5	0	0.0	2	0.4
7. 性交	5	1.3	0	0.0	5	1.0
8. がまんする	81	21.5	33	27.5	114	23.0
9. その他	4	1.1	10	8.3	14	2.8
無答	10	2.7	4	3.3	14	2.8

(6) あなたは次の経験がありますか。あるものには○印を、ないものには×印をつけてください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. デート	263	52.0	267	49.3	530	50.6
2. 手をにぎったり腕を組む	223	44.0	144	26.6	367	35.0
3. 抱きあう	71	14.0	40	7.4	111	10.6
4. キス	65	12.8	42	7.8	107	10.2
5. ペッチング	31	6.1	14	2.6	45	4.3
6. 性交	13	2.6	4	0.7	17	1.6

(7) (6)でいずれかに○印をつけた人だけ、次に答えてください。

そのおもな相手は次のどれにあてはまりますか。一つえらんでください。

項目	男		女		全体		項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	人数	%
1. 中学生	11	3.5	3	1.1	14	2.4	5. 他校高校生	131	41.6	118	43.9	249	42.7
2. 自校の下級生	9	2.9	0	0.0	9	1.5	6. 大学生	1	0.3	9	3.3	10	1.7
3. 同級生	141	44.8	80	29.7	221	37.8	7. 社会人	6	1.9	18	6.7	24	4.1
4. 自校の上級生	13	4.1	37	13.8	50	8.6	8. その他	3	0.9	4	1.5	7	1.2

問5 (1) あなたは「純潔」ということをどう理解していますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 愛情なしに異性のからだに触れないこと	84	16.6	70	13.0	154	14.7
2. 愛情があっても異性のからだに触れないこと	57	11.2	61	11.2	118	11.3
3. 異性の肉体に興味や関心をもたないこと	27	5.3	11	2.0	38	3.6
4. 愛情のない性交をおこなわないこと	253	50.1	233	43.0	486	46.4
5. 愛情があっても性交をおこなわないこと	85	16.8	165	30.5	250	23.9
無答	0	0.0	2	0.3	2	0.1

(2) 結婚するまで純潔を守ることについて、あなたはどのように思いますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 守るべきである	117	23.1	216	39.9	333	31.7
2. 守らなくともよい	182	35.9	120	22.1	302	28.8
3. わからない	207	41.0	206	38.0	413	39.5

(3) (2)で「守らなくともよい」と答えた人はその理由を次のうちから一つえらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 本能に従い自然だから	45	24.7	13	10.8	58	19.2
2. 自分で責任をとればよい	45	24.7	40	33.4	85	28.2
3. 愛情があればよいことだから	84	46.2	60	50.0	144	47.7
4. 社会の風潮だから	4	2.2	0	0.0	4	1.3
5. その他	4	2.2	7	5.8	11	3.6

(4) あなたは将来結婚する場合、相手が純潔であることを望みますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 望む	231	45.7	164	30.3	395	37.7
2. かならずしも望まない	158	31.3	185	34.2	343	32.8
3. どちらでもかまわない	56	11.0	90	16.6	146	13.9
4. わからない	59	11.4	98	18.0	157	15.0
無答	2	0.3	5	0.9	7	0.6

問6 (1) あなたは性についての知識が多いほうだと思いますか、少ないほうだと思いますか。一つえらんでください。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 多いほうだと思う	39	7.7	47	8.6	86	8.2
2. 普通だと思う	354	70.0	328	60.6	682	65.1
3. 少ないほうだと思う	73	14.4	138	25.5	211	20.2
4. わからない	40	7.9	29	5.3	69	6.5

(2) あなたの知識はおもにどこから得ましたか。A、Bからおのおの一つずつえらんでください。

項目	男		女		全体		項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	人数	%
1. 週刊誌・マガ	376	74.4	344	63.5	720	68.8	1. 友人	454	89.8	502	92.7	956	91.3
2. 婦人雑誌	16	3.2	49	9.1	65	6.2	2. 先輩	30	6.0	13	2.4	43	4.2
3. 学習雑誌	16	3.2	21	3.9	37	3.5	3. 親	0	0.0	1	0.1	1	0.1
4. 小説	13	2.6	46	8.5	59	5.7	4. 兄姉	5	1.0	8	1.5	13	1.2
5. 教科書	11	2.1	9	1.6	20	1.9	5. 教師	11	2.2	12	2.3	23	2.2
6. 医学書	29	5.8	13	2.3	42	4.0	6. 医師	1	0.1	0	0.0	1	0.1
7. ラジオ	8	1.5	6	1.1	14	1.3	7. その他	4	0.8	4	0.7	8	0.7
8. テレビ・映画	33	6.6	45	8.4	78	7.5	無答	1	0.1	2	0.3	3	0.2
9. その他	2	0.3	9	1.6	11	1.0							
無答	2	0.3	0	0.0	2	0.1							

(3) 次の事項について知っていますか。「知っている」ときは1, 「なんとなく知っている」ときは2, 「知らない」ときは3と記入してください。

番号	性別	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
		荻野式	りん病	フリーセックス	家族計画	売春	プラトニックラブ	人工妊娠中絶	人工受精	不純異性交遊	婚前交渉
1	男	33.6	58.0	62.3	43.9	91.9	20.3	68.6	72.6	62.1	58.2
	女	20.8	34.7	46.2	41.7	91.7	29.7	63.9	48.6	50.2	65.5
	全体	27.0	45.9	54.0	42.8	91.8	25.1	66.2	60.2	56.0	62.0
2	男	25.4	27.2	32.4	26.4	6.6	21.2	23.5	23.7	29.8	31.2
	女	23.2	35.3	41.7	25.6	7.6	29.5	28.8	42.4	38.2	25.5
	全体	24.3	31.4	37.2	26.0	7.1	25.5	26.2	33.4	34.1	28.2
3	男	41.0	14.8	5.3	29.7	1.5	58.5	7.9	3.7	8.1	10.6
	女	56.0	30.0	12.1	32.7	0.7	40.8	7.3	9.0	11.6	9.0
	全体	48.7	22.7	8.8	31.2	1.1	49.4	7.6	6.4	9.9	9.8

(実数は省略)

問7 (1) あなたは性について知りたいと思っていることを何から得たいと思いますか。A、Bからおのおの一つずつえらんでください。

項目	男		女		全体		項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	人数	%
1. 週刊誌・マガ	241	47.7	180	33.3	421	40.2	1. 友人	322	63.7	355	65.5	677	64.6
2. 婦人雑誌	9	1.8	61	11.3	70	6.7	2. 先輩	47	9.3	26	4.7	73	7.0
3. 学習雑誌	23	4.6	26	4.7	49	4.6	3. 親	6	1.2	25	4.6	31	3.0
4. 小説	9	1.8	50	9.3	59	5.7	4. 兄姉	6	1.2	6	1.1	12	1.1
5. 教科書	44	8.7	28	5.1	72	6.9	5. 教師	62	12.3	50	9.3	112	10.7
6. 医学書	112	22.2	157	29.0	269	25.7	6. 医師	47	9.3	60	11.1	107	10.3
7. ラジオ	6	1.1	5	0.9	11	1.0	7. その他	14	2.7	14	2.6	28	2.6
8. テレビ・映画	53	10.5	12	2.2	65	6.3	無答	2	0.3	6	1.1	8	0.7
9. その他	7	1.3	18	3.3	25	2.3							
無答	2	0.3	5	0.9	7	0.6							

(2) どんことを知りたいと思いますか。次のうちから三つ以内えらんでください。

性別	項目	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
		からだのしくみと生理	男女の特性と役割	性非行・性被害の防止	男女交際	性道徳	結婚と家庭生活	妊娠・出産	避妊	性病	その他
男	人数	116	150	109	259	234	121	79	146	224	80
	%	22.9	29.6	21.5	51.2	46.2	23.9	15.6	28.9	44.3	15.8
女	人数	109	144	133	258	195	168	200	117	149	153
	%	20.1	26.6	24.5	47.6	36.0	31.8	36.9	21.6	27.5	28.2
全体	人数	225	294	242	517	429	289	279	263	373	233
	%	21.5	28.1	23.1	49.3	40.9	27.6	26.6	25.1	35.6	22.2

問8 (1) あなたはいままで性に被害を受けたことがありますか。

項目	男		女		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. ある	11	2.1	114	21.0	125	11.9
2. ない	495	97.9	427	78.8	922	88.0
無答	0	0.0	1	0.2	1	0.1

(2) ① (1)で「ある」と答えた人はどのような被害をうけましたか。次のうちあるものには○印を、ないものには×印をつけてください。

項目	性 別		男		女		全 体	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
1. 手をにぎられた	6	54.5	29	25.4	35	28.0		
2. 抱きつかれた	1	9.1	23	20.2	24	19.2		
3. 衣服をいたずらされた	0	0.0	13	11.4	13	10.4		
4. 下着を盗まれた	0	0.0	13	11.4	13	10.4		
5. 胸やしりをさわられた	3	27.3	81	71.1	84	67.2		
6. キスされた	1	9.1	11	9.7	12	9.6		
7. 性器をいたずらされた	5	45.5	13	11.4	18	14.4		
8. 性交された	0	0.0	3	2.6	3	2.4		

② あなたに被害を加えた人はどんな人でしたか。一つえらんでください。

項目	性 別		男		女		全 体	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
1. 中 学 生	0	0.0	16	14.0	16	12.8		
2. 高 校 生	1	9.1	30	26.3	31	24.8		
3. 大 学 生	1	9.1	4	3.5	5	4.0		
4. お と な	8	72.7	47	41.3	55	44.0		
5. わ か ら な い	1	9.1	17	14.9	18	14.4		

③ 性被害を防ぐにはどうしたらよいと思いますか。一つえらんでください。

項目	性 別		男		女		全 体	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
1. 服装や態度に注意する	208	41.2	217	40.1	425	40.6		
2. 知らない人のさそいに応じない	165	32.7	220	40.6	385	36.8		
3. 取り締りやパトロールを強化してもらう	44	8.6	57	10.6	101	9.7		
4. 刺激的な雑誌・テレビ・映画などを規制してもらう	28	5.5	21	3.9	49	4.6		
5. そ の 他	22	4.3	14	2.5	36	3.4		
無 答	39	7.7	13	2.3	52	4.9		

問9 男性、女性としてのぞましいと思う特性をおのおの一つずつえらんでください。

項目	性 別		(1) 男性としてのぞましい特性				(2) 女性としてのぞましい特性					
	男		女		全 体		男		女		全 体	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
1. 正義感	62	12.3	66	12.2	128	12.3	0	0.0	4	0.7	4	0.3
2. やさしさ	75	14.9	52	9.6	127	12.2	271	53.6	285	52.6	556	53.1
3. 責任感	176	34.8	212	39.2	388	37.1	5	0.9	11	2.0	16	1.5
4. 誠実さ	99	19.6	143	26.4	242	23.1	26	5.2	34	6.3	60	5.8
5. 明朗	9	1.8	12	2.2	21	2.0	35	7.0	48	8.9	83	7.9
6. きれい好き	0	0.0	1	0.1	1	0.1	25	5.0	13	2.4	38	3.6
7. 決断力	71	14.1	45	8.4	116	11.0	2	0.3	11	2.0	13	1.2
8. 率直さ	6	1.1	1	0.1	7	0.6	51	10.1	52	9.6	103	9.9
9. こまやかな感情	3	0.5	1	0.1	4	0.3	85	16.8	82	15.2	167	16.0
無 答	5	0.9	9	1.7	14	1.3	8	0.7	6	1.1	2	0.3